

つばねり 角木割。つぎにたなじ。
 つばねり 角の生する如く萌え出づ。芽をかく。①
 つばねり 角角線。形、角の出でたるが如き、古の女の髪
 の結び方。
 つばねり 角角細工。獸の角を、削みならして細工した
 つばねり 角角先。角のさきの尖りたること。
 つばねり 角角鏡。魚の名。鮫の一種。はくさめ。
 つばねり 角角絞。かのこしほりのつぎの、殊に角立ち
 たる染模様。女の半襟、根掛などに用ゐる。
 つばねり 角角太師。元三大師の符札の一種。鬼の形を
 畫けるもの。
 つばねり 角角盃。左右に、二條の角の如き棒の出でた
 つばねり 角角突。一牛はさせ。即牛。二角附合の器。三
 つばねり 角角附合。交際陸しからずして、互に相に
 つばねり 角角葉書。字體のゆるへたるもの。
 つばねり 角角箸。角細工の箸。
 つばねり 角角箸。うばそくをいふ。齋宮の忌詞。
 つばねり 角角覆輪。ふくりんの處に、鹿の角なるを
 つばねり 角角筆。じいきにたなじ。②
 つばねり 角角總角。あげまきにたなじ。③
 つばねり 角角叉。海草の名。海中の器の間に生ずる。

つばねり 角に似たり、乾して、糊に煮て用ゐる。鹿角菜。
 つばねり 角前髪。童兒の前がみを、角だちてつか
 ねたる髪のこと。
 つばねり 角蟹。蟹の名。一箱に生ずる。長さ五六分。
 赤褐色なり。廻あれを、飛ぶに能はず。行くに、極めて速
 し。二かきりむしをいふ。薩摩國の方言。三かきりむしを
 いふ。大和國の方言。
 つばねり 角目立。かただつ。④
 つばねり 角目立。かただつ。圓滑ならず。⑤
 つばねり 角目立。目くじらを立て。⑥
 つばねり 角目突合。婦人同士、格氣を起し
 て争ふこと。やきもち喧嘩。
 つばねり 角目弓。芽を、角にて造れる弓なりといふ。⑦
 つばねり 角目草。草の名。よもぎの一種。⑧
 つばねり 角目草。一りのさか。かきりむしをいふ。藜菜。二
 愈、接しなくなりまらぬ。増長。
 つばねり 角目草。あまねく、世間に知らせて、扱き集む。藜
 菜す。⑨
 つばねり 角目出角。格氣をたす。やきもちをかく。⑩
 つばねり 角目石路。草の名。つばねりにたなじ。⑪
 つばねり 角目睡。つばねりにたなじ。⑫
 つばねり 角目鏡。一刀劍の身と、柄との間に抑めて、握り手の防
 めにする金具。形、方圓種あり。⑬
 つばねり 角目鏡。二條の角を、圓に懸けた
 周りに出張りたるひし。⑭
 つばねり 角目餅。つばねりもちの音便。

つばねり 角餅。餅の葉に包める餅。昔、薩摩の庭
 にて用ゐたるものなりといふ。
 つばねり 角棒桃。木の名。つばねりもちの音便。
 つばねり 角睡打。方角を占ふとき、睡を、掌にのせて、指
 にて打す。その睡のこびゆく方を、その方角と定むること。
 つばねり 角鍔刀。うちがたにたなじ。
 つばねり 角睡。口の腹より出づる粘液。食物に和して、胃
 の消化を助く。
 つばねり 角椿。木の名。葉は、茶に似て、幅廣く、常緑なり。秋
 冬も、花あれど、春、最も多し。鹽漬、重漬、大小、形、色、さまざま
 あり。茶の質に似たる質を結ぶ。
 つばねり 角椿油。椿の質より搾取せる油。婦人の髪
 ならにつけるに用ゐる。
 つばねり 角椿藍。草の名。藍の一種。葉は、楕に似て、
 秋の初め、淡紅色の花を開き、豆の如き実をすすぶ。
 つばねり 角鏝際。つばねりにたなじ。
 つばねり 角椿餅。つばねりもちにたなじ。
 つばねり 角椿桃。木の名。桃の一種。實の形、普通の
 に異ならず、秋の末に熟す。葉は、自ら皮に裂け目を生ず。
 皮に茸毛なく、色赤くして光澤あり。つばねりもち。
 つばねり 角吐。つばねりもち。つばねりもち。古事記「赤
 土あふみてつばねりもちたしたかた」
 つばねり 角燕。燕口の果。
 つばねり 角燕貝。貝の名。いがにたなじ。
 つばねり 角燕口。布帛にて作りたる一種の袋。その

口の形、三角にて、燕の尾に似たり。
 つばねり 角燕。鳥の名。大さ雀ほらにて、羽は黒色に
 して、翅は、尾は長く、尾は、交をなせり。飛ぶに、極めて
 早し。春來り、秋去る。玄鳥。乙鳥。
 つばねり 角燕。一燕口の果。つばねりにたなじ。
 つばねり 角燕口。つばねりにたなじ。
 つばねり 角燕。鳥の左右の四肢の骨に附着して生ずる羽。
 つばねり 角睡汁。つばねりのしる。①
 つばねり 角睡外。普通をこえて大なること。なみはづれ。②
 つばねり 角芽花。一ちの、翅の前へ出でたるもの。二草の名。
 ち(芽)にたなじ。
 つばねり 角結。縮みひろげてはげます。
 つばねり 角燕。鳥の名。つばねりにたなじ。③
 つばねり 角燕。鳥の名。つばねりにたなじ。④
 つばねり 角燕。鳥の名。つばねりにたなじ。⑤
 つばねり 角石路。草の名。葉は、楕に似て、光澤あ
 り。秋、花を出して、葉をなし、鹽漬の黄葉を開く。藜菜。
 つばねり 角燕。鳥の名。つばねりにたなじ。
 つばねり 角燕貝。貝の名。蛤の類。小さくして、殻薄
 く、褐色を帯はす。
 つばねり 角燕去月。陰曆八月の異稱。⑥
 つばねり 角鏝元。つばねりもち。つばねりもち。
 つばねり 角兵。一戦に用ゐる道具。武器。兵隊。二戦に出
 づる人。武者。兵士。三頭者。剛の者。つばねりもち。

じしり

じしり 兵立。弱み立つ。おぼろ。
じしり 式装。軍に懸ちたつた。軍装。
じしり 委曲。つまびらかに。委しく。おぼろなく。
じしり 委曲。一所つまびらかに。くはしく。
じしり 委曲。つらかに。
じしり 擇食。終身して。二三箇月頃。起る病。胸むく。
じしり 擇食。終身して。二三箇月頃。起る病。胸むく。
じしり 熱。つらかに。
じしり 熱。つらかに。
じしり 終。つらかに。
じしり 終。つらかに。
じしり 玉門。女のくへ。陰門。二月の名。
じしり 玉門。女のくへ。陰門。二月の名。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。
じしり 費。つらかに。

ししり

ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。

じしり

じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。
じしり 粒立。つらかに。

ししり

ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。
ししり 終。つらかに。

つぼ 壺圖坪。田島の廣さを量るに用ゐる。六尺四方を一坪とす。二凡て、平方形に量るに用ゐる。綿、革などは一尺四方を、また錦金箔などは、一寸四方を一坪とす。

つぼ 壺鏡。足首の半のみかかるとやうに造りたる鏡。古代に用ゐられたりといふ。

つぼ 壺焼。つばやきにたなじ。

つぼ 壺投。壺の中に、矢を投げ入れる遊戯。

つぼ 壺御。船の帆をたたく。

つぼ 壺鈕。かけがねを受けとせる金。つば。

つぼ 壺聴。地中の地道に、壺を伏せさせ、耳をつけ、敵の動静するを聞き知る。

つぼ 壺切。東西につたへらるべき寶劍の名。

つぼ 壺錐。錐の一種。刃の形彎曲す。

つぼ 壺連錢草。草の名。葉は細く、蔓をなして、地上を匍匐し、小さな黄葩を開く。積草。

つぼ 壺口。壺をすぼめたる口つき。

つぼ 壺裝束。いため笠を被り、薄絹を着たる女のいでたち。

つぼ 壺皿。一食物を盛る器。二博奕を行ふとき、さいを伏すためのつば。

つぼ 壺星。思ふつば。まじ。見込み。めあて。

つぼ 壺星。見込のものらし。日あてのものにたり。たもなるものらし。

つぼ 壺草。草の名。すみれの一種。葉の形、實茂葉のに似たり。二葉は紫にて、裏は青なるかさねの色目。

つぼ 壺前裁。かこかに圍まれたる前裁。

つぼ 壺坏。壺の如き形のかはらけ。

つぼ 壺投。つばうちにななじ。

つぼ 壺局。かこむ。つづ。

つぼ 壺局。一官殿の中に、別にまじりてある室。用部屋。部屋。曹子。二局を有する官女。三餅袋の屋敷に召し使はるる女中の長。四部屋持の船妓。

つぼ 壺局町。官殿の中に、局の、あまた連なれるところ。ながつね。

つぼ 壺鑿。刃の、一片は圓く、一片は平かなる鑿。圓き孔を鑿つに用ゐる。

つぼ 壺管。つばやうになる。すぼまる。

つぼ 壺管。花のすぼみて、また開かざるもの。花芽。二年わかさずすめ。

つぼ 壺菊。表は紅にして、裏は紅なる、かさねの色目。

つぼ 壺紅梅。表は紅にして、裏は緑なる、かさねの色目。

つぼ 壺管。一管を持つ。衛生す。二咲きたる花。再びつぼまる。三凡て、物の形が、すぼくなる。

つぼ 壺管。俗に、つぼまる。物の形を、すぼくす。つばやうにする。

つぼ 壺虫。虫の名。あごびりにたなじ。

つぼ 壺屋。古、人家に附屬したる、物置の如きつぼやかに、壺の如くかこまれて。

のねにな きてつらた そせすしき こけくきか たえういあ

つぼ 壺燒。さやえなごの肉や、盛ながら、醬油を交へて炙りたるもの。

つぼ 壺燒鹽。燒鹽の一種。茶壺の土器に容れたる、圓形のもの。

つぼ 壺胡蝶。つばやかに造りたるやなぐひ。

つぼ 壺夫。一夫婦、互に呼びあふ。つれあひ。配偶。二今は、専ら妻の稱。

つぼ 壺。凡て、物の相手に添ふるもの。二さしみのつば。

つぼ 壺端。行きつまり。はし。

つぼ 壺襪。衣のたくみの、腰より下なる襪。

つぼ 壺線。ゆかり。こごち。もよほし。らなぐさ。

つぼ 壺爪。つめの稱。爪にてもものする蓋を示すに用ゐる。つばびき。つばぐ。

つぼ 壺蹄躡。牛馬などの爪に起る病。

つぼ 壺爪音。一栗をかきならす音。二馬の蹄の音。

つぼ 壺爪覺。響ひくこを覺ゆること。

つぼ 壺爪隠。草保の始め、専ら江戸にて、遊女の用ゐたる草履。

つぼ 壺爪星。鑰子をこりたる手の、大指の爪先。

つぼ 壺爪掛。下駄の爪先をたほひて、泥をよけるもの。油紙、又は革にて造る。

つぼ 壺爪革。つまがけにたなじ。

つぼ 壺爪木。爪折りて、たきものに用ゐる木の枝。たき。

つぼ 壺爪切。爪を切り取る小刀。二本一對のものにて、一本は、右刃にて、右の爪を切り、一本は、左刃にて、左の爪

を切り用ゐる。

つぼ 壺爪櫛。齒の細かき櫛。

つぼ 壺爪口。衣のつまのはし。

つぼ 壺爪線。爪先にてくる。まさぐる。

つぼ 壺爪紅。一端のみを、赤く染め、又は塗りたるもの。二草の名。ほうせんくわにななじ。

つぼ 壺爪黒。矢の羽根の、端のみ黒きもの。

つぼ 壺妻孥。妻、子。あひ。

つぼ 壺妻孥。ここにたなじ。

つぼ 壺妻孥。妻をしたふら。

つぼ 壺妻孥。妻をたなじ。

つぼ 壺妻孥。夫婦、共にすまはん料。

つぼ 壺妻孥。我が言ふべき詞を人にいはず、その端につけて、折り折り自らいふこと。

つぼ 壺妻孥。足の爪のまき。足の爪のはし。

つぼ 壺妻孥。切路なごの、次第に高くなるもの。だらだらあがり。

つぼ 壺妻孥。俗に、つまさる。情にひかさる。

つぼ 壺妻孥。俗に、つまさる。つまさる。たなじ。

つぼ 壺妻孥。等、琵琶などを弾くとき、先づ、その調子を調ふること。

つぼ 壺妻孥。一手の爪先にて、推をつけ、假のしるしとしたるもの。二つまさんにななじ。

つぼ 壺妻孥。端のみ白き矢の羽根。

をるわ るるりゆ よゆや もめんみま ほへふひは

つめたいひ 瓜蓮華。草の名。原野に生じ、また古き瓦屋の上にも自生す。いはれんに似て、白き懸状の花を開く。
つむじり 回海。つむじりの説。
つむじり 旋毛。つむじりの説。
つむじり 津線子。伊勢國より産する、線子の一種。
つむじり 回積。一つより重なること。たたまり。二繰り返すはかること。心ぐる。心算。三特に「入費を數へ試むること。つまじり。線算。
つむじり 回積書。大よその見つもり高を蓄きたるもの。
つむじり 回積。つむじり重なる。つむじり高くなる。回積思ひはかる。試む。豫め考ふ。
つむじり 回露。一色の鮮明にして、光澤あるものなり。二あざやか。回露。たせじ。
つむじり 回邸家。問屋。回邸。
つむじり 回通夜。一寺なきに籠りて、終夜祈ること。二死者の積を、罪を前に、親類などの人が終夜守り居ること。
つむじり 回図様。もやう。かた。圖式。
つむじり 回消硝子。けしけらすにたなじ。
つむじり 回消積。つみせ。たせじ。
つむじり 回消紅。山城國より製出する染料。
つむじり 回消艶。つむじりつむじり。二世鮮らしく見ゆ。あだつむじり見ゆ。

つむじり 瓜蓮華。草の名。原野に生じ、また古き瓦屋の上にも自生す。いはれんに似て、白き懸状の花を開く。
つむじり 回海。つむじりの説。
つむじり 旋毛。つむじりの説。
つむじり 津線子。伊勢國より産する、線子の一種。
つむじり 回積。一つより重なること。たたまり。二繰り返すはかること。心ぐる。心算。三特に「入費を數へ試むること。つまじり。線算。
つむじり 回積書。大よその見つもり高を蓄きたるもの。
つむじり 回積。つむじり重なる。つむじり高くなる。回積思ひはかる。試む。豫め考ふ。
つむじり 回露。一色の鮮明にして、光澤あるものなり。二あざやか。回露。たせじ。
つむじり 回邸家。問屋。回邸。
つむじり 回通夜。一寺なきに籠りて、終夜祈ること。二死者の積を、罪を前に、親類などの人が終夜守り居ること。
つむじり 回図様。もやう。かた。圖式。
つむじり 回消硝子。けしけらすにたなじ。
つむじり 回消積。つみせ。たせじ。
つむじり 回消紅。山城國より製出する染料。
つむじり 回消艶。つむじりつむじり。二世鮮らしく見ゆ。あだつむじり見ゆ。

つむじり 瓜蓮華。草の名。原野に生じ、また古き瓦屋の上にも自生す。いはれんに似て、白き懸状の花を開く。
つむじり 回海。つむじりの説。
つむじり 旋毛。つむじりの説。
つむじり 津線子。伊勢國より産する、線子の一種。
つむじり 回積。一つより重なること。たたまり。二繰り返すはかること。心ぐる。心算。三特に「入費を數へ試むること。つまじり。線算。
つむじり 回積書。大よその見つもり高を蓄きたるもの。
つむじり 回積。つむじり重なる。つむじり高くなる。回積思ひはかる。試む。豫め考ふ。
つむじり 回露。一色の鮮明にして、光澤あるものなり。二あざやか。回露。たせじ。
つむじり 回邸家。問屋。回邸。
つむじり 回通夜。一寺なきに籠りて、終夜祈ること。二死者の積を、罪を前に、親類などの人が終夜守り居ること。
つむじり 回図様。もやう。かた。圖式。
つむじり 回消硝子。けしけらすにたなじ。
つむじり 回消積。つみせ。たせじ。
つむじり 回消紅。山城國より製出する染料。
つむじり 回消艶。つむじりつむじり。二世鮮らしく見ゆ。あだつむじり見ゆ。

つむじり 瓜蓮華。草の名。原野に生じ、また古き瓦屋の上にも自生す。いはれんに似て、白き懸状の花を開く。
つむじり 回海。つむじりの説。
つむじり 旋毛。つむじりの説。
つむじり 津線子。伊勢國より産する、線子の一種。
つむじり 回積。一つより重なること。たたまり。二繰り返すはかること。心ぐる。心算。三特に「入費を數へ試むること。つまじり。線算。
つむじり 回積書。大よその見つもり高を蓄きたるもの。
つむじり 回積。つむじり重なる。つむじり高くなる。回積思ひはかる。試む。豫め考ふ。
つむじり 回露。一色の鮮明にして、光澤あるものなり。二あざやか。回露。たせじ。
つむじり 回邸家。問屋。回邸。
つむじり 回通夜。一寺なきに籠りて、終夜祈ること。二死者の積を、罪を前に、親類などの人が終夜守り居ること。
つむじり 回図様。もやう。かた。圖式。
つむじり 回消硝子。けしけらすにたなじ。
つむじり 回消積。つみせ。たせじ。
つむじり 回消紅。山城國より製出する染料。
つむじり 回消艶。つむじりつむじり。二世鮮らしく見ゆ。あだつむじり見ゆ。

つりね 釣鐘。吊して、さきとすねはがね。
 つりがね 釣鐘。草の名。山野に生じ、春、葉根より、芽を出す。葉は、楕圓に似て、大なる葉あり。秋、葉より、又を生じて、落葉、又は白き花を開く。その形、風鈴に似たり。葉は、葉用せず。沙草。
 つりがね 釣鐘。灰塵、塵を混じて、釣鐘の風音が如き形に固めたるもの。
 つりがね 釣鐘堂。寺院にて、釣鐘をかけ用たる堂。鐘堂。
 つりがね 釣釜。自在にて吊し下ぐる釜。
 つりがね 釣鉤。まるがねにたなじ。
 つりがね 釣花瓶。柱の上より、吊すやうに作るたる花瓶。
 つりがね 釣込。さそひ入る。飲きて、仲間いらつりさがる。釣下。ぶらさがる。つりさがる。
 つりがね 釣下。俗につりさがる。ぶらさがる。
 つりがね 釣竿。釣糸を結びつけて、魚を釣る細き竹竿。
 つりがね 釣節。つりあぐるやうにしたるしほみ。
 つりがね 釣井樓。軍中にて用ふる具。高き樓を組みて、滑車をつけたる箱の中に、人を入れ、吊り上げて、敵の陣を窺はしむるもの。
 つりがね 釣鏡。買ひたる物より多き代金を拂ふとき、賣手より、賣手にも多き金銭。貼鏡。
 つりがね 釣臺。物をのせて、岸を行く用ふる臺。
 つりがね 釣道具。魚を釣るに用ふる道具の總稱。

つりね 釣鐘。吊して、さきとすねはがね。
 つりがね 釣鐘。草の名。山野に生じ、春、葉根より、芽を出す。葉は、楕圓に似て、大なる葉あり。秋、葉より、又を生じて、落葉、又は白き花を開く。その形、風鈴に似たり。葉は、葉用せず。沙草。
 つりがね 釣鐘。灰塵、塵を混じて、釣鐘の風音が如き形に固めたるもの。
 つりがね 釣鐘堂。寺院にて、釣鐘をかけ用たる堂。鐘堂。
 つりがね 釣釜。自在にて吊し下ぐる釜。
 つりがね 釣鉤。まるがねにたなじ。
 つりがね 釣花瓶。柱の上より、吊すやうに作るたる花瓶。
 つりがね 釣込。さそひ入る。飲きて、仲間いらつりさがる。釣下。ぶらさがる。つりさがる。
 つりがね 釣下。俗につりさがる。ぶらさがる。
 つりがね 釣竿。釣糸を結びつけて、魚を釣る細き竹竿。
 つりがね 釣節。つりあぐるやうにしたるしほみ。
 つりがね 釣井樓。軍中にて用ふる具。高き樓を組みて、滑車をつけたる箱の中に、人を入れ、吊り上げて、敵の陣を窺はしむるもの。
 つりがね 釣鏡。買ひたる物より多き代金を拂ふとき、賣手より、賣手にも多き金銭。貼鏡。
 つりがね 釣臺。物をのせて、岸を行く用ふる臺。
 つりがね 釣道具。魚を釣るに用ふる道具の總稱。

つりね 釣鐘。吊して、さきとすねはがね。
 つりがね 釣鐘。草の名。山野に生じ、春、葉根より、芽を出す。葉は、楕圓に似て、大なる葉あり。秋、葉より、又を生じて、落葉、又は白き花を開く。その形、風鈴に似たり。葉は、葉用せず。沙草。
 つりがね 釣鐘。灰塵、塵を混じて、釣鐘の風音が如き形に固めたるもの。
 つりがね 釣鐘堂。寺院にて、釣鐘をかけ用たる堂。鐘堂。
 つりがね 釣釜。自在にて吊し下ぐる釜。
 つりがね 釣鉤。まるがねにたなじ。
 つりがね 釣花瓶。柱の上より、吊すやうに作るたる花瓶。
 つりがね 釣込。さそひ入る。飲きて、仲間いらつりさがる。釣下。ぶらさがる。つりさがる。
 つりがね 釣下。俗につりさがる。ぶらさがる。
 つりがね 釣竿。釣糸を結びつけて、魚を釣る細き竹竿。
 つりがね 釣節。つりあぐるやうにしたるしほみ。
 つりがね 釣井樓。軍中にて用ふる具。高き樓を組みて、滑車をつけたる箱の中に、人を入れ、吊り上げて、敵の陣を窺はしむるもの。
 つりがね 釣鏡。買ひたる物より多き代金を拂ふとき、賣手より、賣手にも多き金銭。貼鏡。
 つりがね 釣臺。物をのせて、岸を行く用ふる臺。
 つりがね 釣道具。魚を釣るに用ふる道具の總稱。

つりね 釣鐘。吊して、さきとすねはがね。
 つりがね 釣鐘。草の名。山野に生じ、春、葉根より、芽を出す。葉は、楕圓に似て、大なる葉あり。秋、葉より、又を生じて、落葉、又は白き花を開く。その形、風鈴に似たり。葉は、葉用せず。沙草。
 つりがね 釣鐘。灰塵、塵を混じて、釣鐘の風音が如き形に固めたるもの。
 つりがね 釣鐘堂。寺院にて、釣鐘をかけ用たる堂。鐘堂。
 つりがね 釣釜。自在にて吊し下ぐる釜。
 つりがね 釣鉤。まるがねにたなじ。
 つりがね 釣花瓶。柱の上より、吊すやうに作るたる花瓶。
 つりがね 釣込。さそひ入る。飲きて、仲間いらつりさがる。釣下。ぶらさがる。つりさがる。
 つりがね 釣下。俗につりさがる。ぶらさがる。
 つりがね 釣竿。釣糸を結びつけて、魚を釣る細き竹竿。
 つりがね 釣節。つりあぐるやうにしたるしほみ。
 つりがね 釣井樓。軍中にて用ふる具。高き樓を組みて、滑車をつけたる箱の中に、人を入れ、吊り上げて、敵の陣を窺はしむるもの。
 つりがね 釣鏡。買ひたる物より多き代金を拂ふとき、賣手より、賣手にも多き金銭。貼鏡。
 つりがね 釣臺。物をのせて、岸を行く用ふる臺。
 つりがね 釣道具。魚を釣るに用ふる道具の總稱。

つりね 釣鐘。吊して、さきとすねはがね。
 つりがね 釣鐘。草の名。山野に生じ、春、葉根より、芽を出す。葉は、楕圓に似て、大なる葉あり。秋、葉より、又を生じて、落葉、又は白き花を開く。その形、風鈴に似たり。葉は、葉用せず。沙草。
 つりがね 釣鐘。灰塵、塵を混じて、釣鐘の風音が如き形に固めたるもの。
 つりがね 釣鐘堂。寺院にて、釣鐘をかけ用たる堂。鐘堂。
 つりがね 釣釜。自在にて吊し下ぐる釜。
 つりがね 釣鉤。まるがねにたなじ。
 つりがね 釣花瓶。柱の上より、吊すやうに作るたる花瓶。
 つりがね 釣込。さそひ入る。飲きて、仲間いらつりさがる。釣下。ぶらさがる。つりさがる。
 つりがね 釣下。俗につりさがる。ぶらさがる。
 つりがね 釣竿。釣糸を結びつけて、魚を釣る細き竹竿。
 つりがね 釣節。つりあぐるやうにしたるしほみ。
 つりがね 釣井樓。軍中にて用ふる具。高き樓を組みて、滑車をつけたる箱の中に、人を入れ、吊り上げて、敵の陣を窺はしむるもの。
 つりがね 釣鏡。買ひたる物より多き代金を拂ふとき、賣手より、賣手にも多き金銭。貼鏡。
 つりがね 釣臺。物をのせて、岸を行く用ふる臺。
 つりがね 釣道具。魚を釣るに用ふる道具の總稱。

つらねる 追跡。跡をつけてたひかくること。
 つらねる 追惜。人の死後、その人を思ひ起して悼み惜むこと。
 つらねる 追躡。跡をふみて追うこと。
 つらねる 追善。死者の年回ならに、その冥福を祈りて、御事を済むこと。追福。
 つらねる 追従。つらねるの約。源氏「わらははなれはらの人のつらねるにみせしむるべし」
 つらねる 追贈。死後に、官位を贈ふこと。
 つらねる 追打。しちにて打ちたふること。
 つらねる 追悼。死後、その人を思ひ出だして、いたみ悲むこと。
 つらねる 追討。官軍が、賊軍を追ひかけて討ちこころしむこと。
 つらねる 追討使。賊軍を追討せしむるため、差遣する使。ツツテのつかひ。
 つらねる 追軸。青藍の、二幅、又は三幅をひたるもの。
 つらねる 追徴。後より取りたつもの。
 つらねる 都維那。その寺の、金銀、米穀などの雑務を扱ふ僧官。
 つらねる 追離。たにやらひにたなじ。
 つらねる 追念。なくなりし人をしのぶこと。
 つらねる 追放。一追ひ放つこと。二徳川時代の刑の一。住地より追ひ拂ふこと。
 つらねる 追尾。つらねるにたなじ。

つらねる 追行。連れ立ちて行く。共に行くこと。
 つらねる 追杜漏。取り締りなく、やりなしたること。追。
 つらねる 追對。くみ。ならび。つがひ。そらひ。す。追。
 つらねる 追加。後より加へたすること。つきたし。たぎな。
 つらねる 追究。たひつせること。
 つらねる 追及。後より追いつくこと。「あるもの」
 つらねる 追對句。語文に、同じ口調の二つの句を連ねて用ひること。
 つらねる 追願。後より願ひたすること。「いふ」
 つらねる 追啓。手紙なさに、本文に追加して申し送ること。
 つらねる 追撃。追ひかけて撃つこと。たひつせ。
 つらねる 追紅。つらねるにたなじ。
 つらねる 追黒。朱漆を用ゆるかほりに、黒漆を用ゆる。推朱と同じやうに刺りあげたるもの。
 つらねる 追想。「過ぎ去りたる事を思ひ出だすこと。追懐。二死後、その人を思ひ出だすこと。追思。追念。
 つらねる 追證。たくりな。
 つらねる 追賞。後に褒美を與ふること。
 つらねる 追堆朱。漆に、まじ、刺らんとし、厚く塗りたるに、朱漆をよりあげて、模様を刺りあげにせるもの。香合、匣箱などに施したるもの多し。
 つらねる 追従。つらねるにたなじ。

つらねる 追捕。朝廷より、人を捕して、各國の不良のものを捕へしめたること。
 つらねる 追福。つらねるにたなじ。
 つらねる 追福。つらねるにたなじ。
 つらねる 追捕。つらねるにたなじ。
 つらねる 追使。國毎に置きて、その國內の追捕の事を司りたる使。
 つらねる 追兵。敵をたひつ兵。
 つらねる 追捕。つらねるにたなじ。
 つらねる 追墓。追ひ墓とこと。思ひだしてこがること。
 つらねる 追杖。一竹、木なごの直く細きものを、三尺ほどの長さに切りたるもの。老人なごの、足のためすけに携ふ。二種みいするもの。三杖罪の人を打つに用ふる棒。長さ三尺五寸。竹、又は藤の節目を削り去りたるもの。四神樂歌の曲名。
 つらねる 追丈。長さを計るに用ふる。十さかを以て、一つをこす。
 つらねる 追杖突。杖をつく人。めくら、老人なごの類。
 つらねる 追杖突蝦。虫の名。てながえびにたなじ。
 つらねる 追杖突乃字。乃の字を、のの假名に借り用ふること。その形によりてなづけていふ。
 つらねる 追杖突虫。虫の名。しやくりむしにたなじ。
 つらねる 追杖取使。天皇、臣下の高齢者に杖をたす時の御使。

て

五十音圖中、多行第四の音。舌音の一。舌頭を、上唇につけ、氣息を出すに共に放ちて發す。

て

て 圖手。一肩より左右に長く出でたるもの。身體の一部分をなす。二手首の裏。三てのひら。たなごころ。掌。四指物にすび、手にて持し入きこころ柄。五發章をまこはしむるために、その傍にたつる竹又は木。六かかりあひ。關係。七ふてのあこ。香きたる文字。八徳を負ふこと。劍傷。九てだて。てくだ。方法。手段。十木のれの部下。配下。十一現れて見ゆるもの。十二人の一むれ。あらてをいれかふ。せんで。圖手づから行ふ事を示すに用ゐる。細工の道具。圖手「たぐひしな。性質などの事を示すに用ゐる。稻の裏て。二船を射る時の矢を。三船ついで。四に用ゐる。五路。一むちにならぬ。二轉じて。むき。方向。三圖。接續の意をあらはす辭。

て 圖直。あたひ、しる。代金などの事を示すに用ゐる。

て 圖人。そのわざをなす人。いふ事を示すに用ゐる。

て 圖出。一出づる。二かき。三かき。

て 圖不而。一しち清しの事をあらはす辭。行かて橋は用。二にての器。三てある。四。

て 圖手明。ひまなること。問暇。

て 圖出秋。田島に種をたる作物を、收穫する。秋。

て 圖手足。手の足。

て 圖手遊。もてあそびもの。たむしや。玩弄。

て 圖手當。一手にたる。二手にたる。三手にたる。四手にたる。五手にたる。六手にたる。七手にたる。八手にたる。九手にたる。十手にたる。十一手にたる。十二手にたる。

て 圖手合。一なかま。連中。二相撲の。活氣を添ふるために、まじり。をを。三。

て 圖出合。一たがひに出であらぬ。二特に。男。女。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。

て 圖出合頭。此方、彼方より共にてあひたるはす。

て 圖出會。一彼方よりも來り、此方よりも往きて相あふ。二男。女。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。

て 圖手爐。小さき火鉢。手を暖むるに用ゐるもの。

て 圖手餘。Diamant、じんがうせきにならぬ。一。

て 圖手洗。一手を洗ふ。二手。三手。四手。五手。六手。七手。八手。九手。十手。十一手。十二手。

て 圖手洗水。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。

て 圖帝。みかど。

て 圖邸。ちき。

て 圖體。すがた。かたち。ありさま。ていざい。

て 圖亭。一ちま。二小さま家。三料理。風。客席などの家様に添へて用ゐる。

て 圖弟。わに。

て 圖抵。ひつじの柱。

て 圖悌。兄に仕へて、尊貴なること。

て 圖程。一ほど。二ほど。三ほど。四ほど。五ほど。六ほど。七ほど。八ほど。九ほど。十ほど。十一ほど。十二ほど。

て 圖艇。小さき舟。

て 圖選。いかに。二。

て 圖丁。一十千の一。二火のこの。三。

て 圖用。めつつか。使。

て 圖貞。女のみさを。貞操。

て 圖廳。まじり。をなすこと。また。

て 圖氏。屋の名。二十八宿の一。東方に位す。

て 圖泥。一ち。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。

て 圖丁憂。父母の喪を、三年の同行。

て 圖帝胤。天皇の御たね。皇胤。

て 圖低音。ひくき聲。小きき聲。

て 圖定價。物のさだまりたるあたひ。「廉價」。

て 圖低價。物のあたひの、わづかなること。やすめ。

て 圖稱家。古、太政官の文書を司りし位。

て 圖貞雅。しんやかなること。

て 圖抵抗。てむかひ。はむかひ。抗衛。

て 圖丁香。ちやうじにならぬ。

て 圖定家葛。草の名。山野に生ず。常緑草にて、葉は、葉根に似たり。夏の頃、白色玉露の香氣ある小花をひらく。莖は、特に細し。絡石。石。玉露。葉味。

て 圖停學。學問する。を。二。

て 圖定額。定まりたるたか。きまりたか。

て 圖定家煮。食物を、焼酎。三。

て 圖定議。定まりたる期限。

て 圖提起。ひきたつこと。

て 圖提議。議題に出すこと。

て 圖定義。凡て、ある事實の意義を、歸納的にいひあらはしたるもの。

て 圖廷議。朝廷にての。四。

て 圖定期預。期限をさだめて、金銀をあつて。

て 圖涕泣。涙を流してなぐこと。

て 圖定期米。現品取引の期限をさだめて、米の。

て 圖庭訓。親のをし。家庭の教育。

て 圖帝。みかど。

て 圖邸。ちき。

て 圖體。すがた。かたち。ありさま。ていざい。

て 圖亭。一ちま。二小さま家。三料理。風。客席などの家様に添へて用ゐる。

て 圖弟。わに。

て 圖抵。ひつじの柱。

て 圖悌。兄に仕へて、尊貴なること。

て 圖程。一ほど。二ほど。三ほど。四ほど。五ほど。六ほど。七ほど。八ほど。九ほど。十ほど。十一ほど。十二ほど。

て 圖艇。小さき舟。

て 圖選。いかに。二。

て 圖丁。一十千の一。二火のこの。三。

て 圖用。めつつか。使。

て 圖貞。女のみさを。貞操。

て 圖廳。まじり。をなすこと。また。

て 圖氏。屋の名。二十八宿の一。東方に位す。

て 圖泥。一ち。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。

て 圖丁憂。父母の喪を、三年の同行。

て 圖帝胤。天皇の御たね。皇胤。

て 圖低音。ひくき聲。小きき聲。

てらあし 低吟 天子の歌ふまひ。
てらあし 帝居 天子のたすまひ。
てらあし 聽許 命するもの。きかざるもの。許さる。
てらあし 提摩 ひきたるもの。
てらあし 鱗魚 魚の名。さなせうをいふ。
てらあし 提供 いたし示すこと。(證據なきを)
てらあし 低徊 うろつくこと。
てらあし 停會 君主の大権を以て、議會の議事を止せしむること。
てらあし 定款 法律の語。社團法人の規約。
てらあし 手活 一手づから、花を、花瓶にさすこと。二葉、枝、船殻などを裝飾せしめて、たのが建築になすこと。

てらあし 眞固 第一次節にへらし、利も、それに從ひて減じゆく算法。
てらあし 低語 ささきかなし。ひびきなほなし。
てらあし 亭午 まひる。正午。
てらあし 抵牾 つきあたるところ。ぶるところ。衝突する。
てらあし 泥工 かんねり。さくわん。
てらあし 帝國 皇帝の統御したまふ國。
てらあし 定刻 さだめの時刻。リキめたること。けん。
てらあし 啼哭 なまかなしむこと。なげん。
てらあし 聽獄 うつたへをきへん。
てらあし 帝國議會 國家統治の立法機關。貴族院、衆議院の兩部よりなりたり。
てらあし 啼痕 なまたるあざ。流涕せる痕跡。その。
てらあし 帝座 天皇の御座。二支那の天文學にて、天帝ごさためたる座。
てらあし 體裁 ありさま。すがた。
てらあし 眞操 婦女の、みまを。淑貞。
てらあし 丁壯 みせへつぎの男。
てらあし 廷争 君主の面前にて、いさめあひそむこと。敵の動靜をうかがはんがために、探察すること。

てらあし 榊子 はしにわたる。
てらあし 晴視 みつむるもの。じくみもの。諦視。
てらあし 諦視 みつむるもの。
てらあし 提子 さげしもの。ひびき。
てらあし 提撕 一ひびきもの。二務達者指導する。
てらあし 涕泗 なみだのなほなし。
てらあし 底止 ひまもるもの。やせん。
てらあし 偵視 うかがひみるもの。のぞくもの。
てらあし 帝社 天子のくらゐ。
てらあし 呈示 しめすもの。みするもの。
てらあし 丁字形 丁の字の如き形。
てらあし 停止公權 法律の語。宣告を用ゆるに、輕罪の刑のみに附加して、その罰則中は、公權を停止すること。

てらあし 通信官 郵便、電信、鐵道、磁石、筒紙。
てらあし 偵者 めあかしにわたる。
てらあし 停車 車をこらむること。
てらあし 郵舍 しんやせき。
てらあし 定省 古瓶の兩親の安否をたひひらる。
てらあし 頌禱 さいはひ。よきこと。
てらあし 低唱 小聲でうたふこと。
てらあし 呈上 人に、物をわたること。進呈。進上。
てらあし 庭上 庭の表面。庭の上。
てらあし 帝城 帝王の住まはせたまふところ。
てらあし 泥匠 かべねり。泥工。
てらあし 停車場 ていしやばにわたる。
てらあし 停車場 一車をこらむところ。二特に、汽車の發着するところ。すてえしやん。
てらあし 低首 首を、低く垂るること。うなだること。
てらあし 亭主 一いへのあるじ。一家の主人。二特に、商家の主人の稱。
てらあし 庭樹 庭に植ゑてある樹木。にはき。
てらあし 眞淑 みさをただしきこと。
てらあし 提出 さしだすこと。もちだすこと。
てらあし 汀渚 みぎは。みづきは。なぎさ。
てらあし 停職 官吏を懲戒するため、年月を限りて、その職を停止すること。

てらぎん 泥脚。つぎあたりふるまひ。さきついか。
 てらぎん 泥脚。あらはす。表示す。團圓。他人にも
 のをさしあへ。わく。
 てらぎん 定数。いきまりたるかず。天然の運。人
 さかりなるに替りて。たごる。
 てらぎん 替衰。甚しく酒にふよ。
 てらぎん 泥酔。文章など誤謬をたしあらたせる。
 てらぎん 訂正。穢野鄙なる俗曲の類の總稱。
 てらぎん 鄭聲。なき。なく。
 てらぎん 啼聲。かうせい。にたなじ。
 てらぎん 定星。さだまりたる租税。
 てらぎん 帝威。天皇の御親戚。皇族。
 てらぎん 帝威。動かす。からざる。常に變らぬ。
 てらぎん 定説。みさ。
 てらぎん 貞節。終に往來する。いかにせむ。
 てらぎん 停船。終に往來する。いかにせむ。
 てらぎん 庭前。にはのた。にはさき。庭上。
 てらぎん 挺然。ぬき出でたる様。いよ。
 てらぎん 遞送。運送に送致する。つぎ。
 てらぎん 鼎足。いかなのあし。三方にわかれて對
 峙する。
 てらぎん 定則。さだまりたるまきて。一定の法則。
 てらぎん 泥塑人。土にてつくれる人形。つちにん

てらぎん 手板。うるしにてぬり。文字などをするに
 用ふる板。わりいた。
 てらぎん 停滯。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。
 に。物の消化せずして。胃の内に残りてある。
 てらぎん 邸第。貴人のいへやしき。
 てらぎん 邸第。ひきあてにする。
 てらぎん 帝道。天皇の行はせ給ふみち。
 てらぎん 邸宅。いへやしき。すまひ。
 てらぎん 手痛。俗に。たご。てつ。てつ。激烈なり。
 てらぎん 丁男。丁年以上の男子。正丁。
 てらぎん 泥炭。石炭の一種。沼澤より多く産す。火氣
 微弱なり。
 てらぎん 爲體。體たるの証すがた。なりゆき。あ
 てらぎん 偵知。探偵して知る。
 てらぎん 提持。ひささ。ひささ。
 てらぎん 亭長。いよまの長。亭長。二料理屋。又
 は茶店等のあし。
 てらぎん 諦聽。たしかにきく。よくきく。
 てらぎん 帝女。ひみち。内親王。
 てらぎん 剃除。鬘髪。髪をそり去る。
 てらぎん 貞女。貞操。貞操。
 てらぎん 丁女。ひささ。ひささ。丁年の婦人。

のねにた きてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

てらぎん 庭除。にはさき。にはのた。
 てらぎん 鄭重。ねんね。てあつ。
 てらぎん 挺直。まっすぐなる。
 てらぎん 手一束。片手にて。握み得たるだけの長さ。
 てらぎん 手一杯。力のかぎり。我懐のつづくかぎ
 り。
 てらぎん 廷丁。裁判所の職吏。訴訟廷内の事をこり扱
 う。
 てらぎん 遞送。又は下駄などのつくるひを業とする人。
 てらぎん 速達。快きまき。
 てらぎん 蹄鐵。馬のひづりにつく金具。
 てらぎん 蹄鐵工。蹄鐵をつくる職工。
 てらぎん 帝都。天皇のたはするところ。京師。
 てらぎん 程度。ほど。あひ。あひ。
 てらぎん 泥土。ちう。ひびり。水に溶解せる土。
 てらぎん 低頭。あたまをさげ。頭をさげて。禮
 儀。
 てらぎん 帶練。にじ。紅にたなじ。
 てらぎん 丁東。列ねたる玉のぶら。聲。
 てらぎん 帝德。天皇の御威徳。
 てらぎん 提督。一隊の兵を統ぶる。又は、その人。
 てらぎん 邸内。やしきのうち。
 てらぎん 庭内。にはのた。
 てらぎん 聽認。きき。い。い。い。い。許可。

てらぎん 丁等。ねんね。ねんね。てあつ。
 てらぎん 町聴。みみく。みみく。
 てらぎん 泥濘。ふかき。ふかき。
 てらぎん 丁年。一人前になれる人。現今は、男子は二
 十一歳。女子は十七歳。
 てらぎん 遞馬。つぎ。つぎ。馬。
 てらぎん 遞馬。つぎ。つぎ。馬。
 てらぎん 詆罵。ののし。
 てらぎん 停廢。やむ。やむ。
 てらぎん 堤防。水をふせぐために築きたる土手。つ
 てらぎん 堤泊。船をすしてさまる。ふなぢ。
 てらぎん 速縛。めし。めし。めし。
 てらぎん 剃髮。髪をすりたして。鬘なる。髪。
 てらぎん 泥美人。泥にてつくりたる人形。さるにん
 てらぎん 遞夫。ものを搬ひ運ぶ人夫。にかつき。
 てらぎん 逮部。罪人をめしめる役人。そりて。捕吏。
 てらぎん 違兵。すぐれたる。つよき兵。たく
 てらぎん 提秤。手にさげて用ふるはかり。
 てらぎん 泥鑛。土を掘りなごするに用ふる具。かなん
 てらぎん 晰明。みかへる。よりまきてみる。

ををわ られるり の よや もめんむみま ほへふひは

てらほ 帝讓。天皇いたしなはせらるるまじりなり。
 てらほく 貞木。すぐれてよき木。
 てらめら 帝命。天皇の仰せ。天皇のみことなり。
 てらめら 縮盟。ちかひをむすぶこと。訂盟。
 てらめら 縮盟國。條約をむすびたる國。
 てらめら 庭面。にはのちも。庭上。
 てらめら 睥睨。かへりみること。みまはすこと。
 てらめら 締約。條約なきをりきむること。
 てらめら 逞雄。たくましくこと。たけきこと。
 てらめら 聽容。ゆるすこと。ききこむること。
 てらめら 偵邏。しのひまはり。巡邏。
 てらめら 低落。物價なきのさがること。下落。
 てらめら 手不入。一手數のかからぬこと。二つだ、一度も用いたることなきこと。三つむすめ。處女。
 てらめら 未通女。むすめ。處女。
 てらめら 提籃。てかごにたなじ。
 てらめら 定理。證據をまたすして、眞なりとなし得べき原理。公理。
 てらめら 出入。いづるさへいづる。三特に、金錢の出入。
 てらめら 榎棚。木の名。やなぎにたなじ。
 てらめら 停立。たちどまること。たたすこと。

てらめら 定律。さだめたる規則。さだめ。なきて。
 てらめら 定量。きまりのたか。さだまりたるかさ。
 てらめら 程糧。旅行の時たづさふる食物。
 てらめら 程量。めかた。そのものかけめ。
 てらめら 涕淚。なみだにたなじ。
 てらめら 手入。つくろひ。なほし。修繕。
 てらめら 定例。さだめ。きまり。きめ。常のさだめ。
 てらめら 庭燎。庭にたくがかり火。にはび。
 てらめら 貞烈。女のみさまただしきこと。
 てらめら 低廉。價の安きこと。下値。
 てらめら 鼎爐。鼎の形したる香爐。
 てらめら 鼎函。天地の象。天地。
 てらめら 泥路。ぬかるみ。
 てらめら 泥縁。ろくしやうにたなじ。
 てらめら 定論。定まりたるぎろん。
 てらめら 帝王。みかさ。天皇。
 てらめら 帝位。天皇のみくらみ。あまつひつぎ。
 てらめら 廷尉。衙門府の權の佐にして、檢非違使たるもの。
 てらめら 定員。さだまりたる人数。
 てらめら 庭園。には。その。
 てらめら 貞婉。じやかなること。うつくしきこと。
 てらめら 朝。てらてらにたなじ。國國國國 朝廷へまひる。

てらめら 曙光。さきさき。しほし。まへにせ。國 一徳の十倍。二徳にて、數えまればほの大數。
 てらめら 調。一昔、諸國より、みづぎして納めたる、布の類。しき。二聲音のこらえ。てらてら。國國國國 一こりこらえ。改む。三つならぶこと。三人をのらぶ。呪盟す。
 てらめら 條。すぢ。おらかき。條。國によりて。こしき。あひだ。右の次第に條が條御承継下され度。國國 凡て、長くつづきたる、糸、繩などの類をかたよふに用ゐる。すぢ。
 てらめら 朝露。あさあせ。朝露らび。
 てらめら 朝意。朝廷のみこみ。
 てらめら 朝衣。朝廷にむかひき着用する衣服。禮服。
 てらめら 用衣。こらひのしきに着用する衣服。
 てらめら 超逸。すげふこと。こらひのしき。群をむきこらひ。
 てらめら 調印。印をたすこと。捺印。
 てらめら 挑揚。うごかすこと。よるよらう。
 てらめら 朝調。天皇にまみゆること。
 てらめら 朝恩。天皇の御恩。きみのめぐみ。
 てらめら 釣餌。つりえね。
 てらめら 朝家。みかさ。天皇のたんでい。
 てらめら 朝霞。あさかすみにたなじ。
 てらめら 朝賀。正月八日、朝廷に参りて、祝賀を申すこと。
 てらめら 調議。やはらぐこと。調和。

てらめら 供巧。いらぬかざり。無用のかざり。
 てらめら 釣客。つりをすむこと。つりびり。
 てらめら 調樂。寶篋社の臨時祭の、舞樂の最終の試み。
 てらめら 儻革。馬のたづな。
 てらめら 彫嵌。藥なまを、もりあはすること。
 てらめら 彫嵌。ほりてはむること。ちりかみをすること。
 てらめら 跳起。つりするさそふ。
 てらめら 跳起。はねたぐること。
 てらめら 朝暉。あさひにたなじ。
 てらめら 調器。盆をききなりの類の調。
 てらめら 朝儀。朝廷の儀式。皇家の典禮。
 てらめら 朝議。朝廷にての評議。廷臣のもの評議。
 てらめら 朝觀。正月二日、天皇の、太上天皇、皇太后の御許に、行幸あせらるること。二古、支那國にて、諸侯が、皇帝に拜禮せしこと。
 てらめら 挑脚夫。こあげにたさく。かじき。
 てらめら 超群。群にすぐれてむこと。
 てらめら 調和。ほらへん。まをむかはすこと。
 てらめら 超過。てらてらにたなじ。二分をすげふこと。
 てらめら 鳥隊。草の名。ちりかざりにたなじ。
 てらめら 朝會。朝廷に参集すること。
 てらめら 條歎。かたし。てらけん。てらへん。

てしほん 朝憲。朝廷にて制定せられたる法律。
 てしほん 朝見。天皇に拜謁すること。
 てしほん 朝議。朝廷よりたしかりを被ること。
 てしほん 朝權。なかみの權力。
 てしほん 朝言。こぶらひのことはくやみ。
 てしほん 條件。一こがら。かてう。二法律の罪。法律行為の効力の發生、又は消滅の變るべき事實として、當事者のいまだ、その有無を知らざるもの。
 てしほん 凋枯。草木なみの、かれはばむ。枯滿。
 てしほん 彫工。ほりものしたなご。
 てしほん 潮候。潮のさくくるころ。こぼりき。
 てしほん 朝貢。外國人の、來朝して、みつぎものを奉る。
 てしほん 彫紅。つみしほにたなご。
 てしほん 光候。きまじ。しほし。まじらせ。
 てしほん 條項。文章、又は規則書なごの條目。かてう。
 てしほん 彫刻。ほりものをするころ。
 てしほん 甲袴帶。すばいりしたなご。
 てしほん 調査。しらべするころ。
 てしほん 挑唆。たたるころ。けしかくころ。
 てしほん 甲祭。かからまいるころ。
 てしほん 超歲。しほし。をつね。
 てしほん 筆裁。しほし。をつね。
 てしほん 朝裁。朝廷の裁断。

てしほん 調菜。饌類なきをうる商人。
 てしほん 調劑。藥品を調合すること。
 てしほん 鑿造。はじめつくくること。創造。
 てしほん 彫像。きざみたる像。像をきざみ造ること。
 てしほん 彫像師。像をきざむ職人。
 てしほん 朝參。朝廷へまゐること。
 てしほん 朝儀。たけうまにたなご。
 てしほん 朝三暮四。「狙公の故事」一人を籠絡するころ。人を籠絡すること。二その日、その日のくらし。あまゆふの食事。
 てしほん 調子。一聲音の高低の程あり。二はつみ。命令。程度。三こころ。性質。氣風。
 てしほん 銚子。一酒を入れて、蓋につく。金につく。長き柄ありて、左右、又は一方に、口のつきたるもの。二凡て、酒をいれる徳利の調。
 てしほん 甲詞。くやみのをせしめること。
 てしほん 眺視。ながむること。
 てしほん 肇始。はじめ。はじめり。
 てしほん 條枝。木のえた。直くのびたる細きもの。
 てしほん 肇秋。はつあき。あきの初め。
 てしほん 鳥獸。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 銚子縮。常陸國鹿島郡波島より産する糖。物。本縮。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 調子外。一音聲。二律呂にあはること。二人の言動。動作の、尋常ならぬこと。

てしほん 調子竹田。樂器の調子をあはせため、十二律の音を發するやうに作りたる竹。
 てしほん 朝集使。昔、毎年十二月に、政務具狀のため、諸國の國司の上京を促しし使。
 てしほん 朝四暮三。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 朝臣。一朝廷の臣。二あそみたなご。
 てしほん 調進。あつらへものをつねのしほし。つね。
 てしほん 超進。群を驅ててすすむこと。
 てしほん 嘲嘲。あざけりわらふこと。
 てしほん 釣者。つりをする人。釣客。
 てしほん 彫匠。ほりものをする工人。
 てしほん 朝餉。あさがれひ。朝飯。
 てしほん 朝夕。奉行の命令をつたふる事なごを務むる武家の役。
 てしほん 朝夕人。公事のしほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 鳥銃。銃の一種。鳥をうつに用ゐる鐵砲。
 てしほん 肇春。はつはる。春の初め。
 てしほん 調書。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 超乘。こぶらひのしほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 國圖。死をせむらふ。くやみをいふ。
 てしほん 天主。拉丁語 Deus、天主教の尊奉する神、即ち造物主の調。
 てしほん 條數。備條がきの數。

てしほん 調悴。やせたること。
 てしほん 朝政。朝廷のまつりごと。
 てしほん 超世。世にすぐれたること。群にこぶらひ。
 てしほん 挑聲。いひを時のこと。
 てしほん 調整。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 雕青。ほりものをする。
 てしほん 調製。しほし。つね。しほし。つね。
 てしほん 嘲笑。あざけり笑ふこと。冷笑。嘲。あざむ。あけくれ。
 てしほん 朝夕。たしほら。まららら。
 てしほん 超絶。ほりきざむこと。
 てしほん 彫鏢。たたかひをいひむこと。戦をしかくる。地位なきのあがら。
 てしほん 鳥仙。動物。鶴の異名。
 てしほん 朝鮮。亞細亞洲の東部に位する帝國。
 てしほん 條線。すぢ。すぢめ。
 てしほん 朝鮮朝顔。草の名。葉は、茄子に似て、秋季に至り、六瓣のあさがほに似たる白花を開く。
 てしほん 朝鮮薺。草の名。朝の一種。薺を、食用す。
 てしほん 朝鮮鷺。鳥の名。かうらいつねのすにたなご。
 てしほん 朝鮮菊。草の名。こまきんにたなご。

のねにな きてつちた そせすしき こけきか ねえういあ

をえあつ るれるり ちゆや もめんむみま ほへふひは

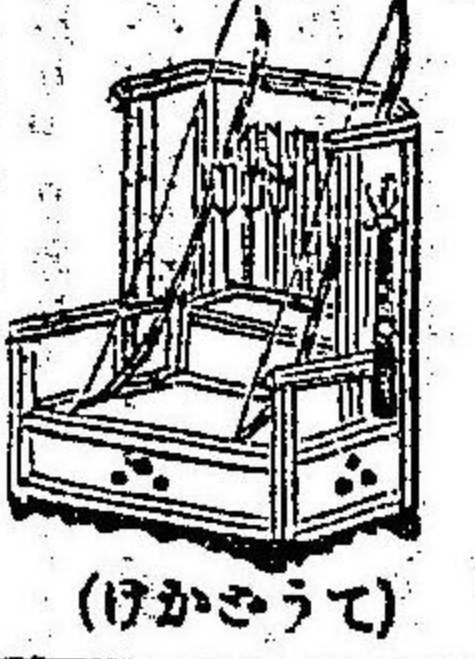
ついでに 朝鮮駒。鳥の名。こまじりの一種。
 ついでに 朝鮮五味子。草の名。五味子の一種。薬用として、殊功あり。
 ついでに 朝鮮昆布。海草の名。ひろめの類。
 ついでに 朝鮮柘榴。木の名。さくらの一種。花は、四時、たえずひらく。
 ついでに 朝鮮紅豆。草の名。よぢまめに同じ。
 ついでに 朝鮮草。草の名。こららじしはに似たもの。
 ついでに 朝鮮人街道。近江國坂田郡の鳥居本より、同國野洲郡の守山に通ずる街道。
 ついでに 朝鮮烟草。草の名。まんだらけに似たもの。
 ついでに 超然。わきんでて。たちこえて。
 ついでに 惘然。いたみうれふるさまにたいふ。
 ついでに 朝鮮菜。草の名。たうざまに似たもの。
 ついでに 朝鮮蛤。貝の名。殻、厚くして、美廢なり。若石につく。
 ついでに 朝鮮龍甲。擬製の龍甲。うみがめの甲の、斑のあるところ。水牛、馬爪などを挿入して造りたるもの。
 ついでに 朝鮮。たをたかなるもの。
 ついでに 挑闘。たたかひあひあむもの。
 ついでに 鳥道。山中のほそみち。鳥のかよふほそ道の。
 ついでに 朝堂。政事を執る役所。

ついでに 超卓。たちまちたるもの。
 ついでに 鳥啄。鳥のくちばし。
 ついでに 彫琢。一はりまをせむもの。彫りものするもの。二みかきあぐるもの。
 ついでに 調達。しらをうへてつかはすもの。物を調へて送達するもの。
 ついでに 超脱。わきたるもの。すくさるもの。ちばりするもの。
 ついでに 朝旦。あした。あま。
 ついでに 手打。一赤手にて、懸類などを打ちこむもの。二刀剣にて、手つから、人を斬るもの。三てつから、ものを造るもの。四つち番茶に、圓寶の約束のなりたちたる時、賣り人買ひ人双方にて手を叩き鳴すもの。五喧嘩の、なかなかほりになりたるもの。
 ついでに 手打手打。赤子の、膝に、手をうちながら、あむもの。
 ついでに 挑灯。唐書に、ちやうちんに似たもの。
 ついでに 彫蟲。一はりのもの。印刷家刻などの業。二凡て、小技の稱。
 ついでに 拍手。世の名。さなたむに似たもの。
 ついでに 拍手。兩手の掌をうちあせて音を立てるもの。
 ついでに 手水。一顔、又は手なを洗ふ水。二かはりに行くことの證。女の證。三せり入に似たもの。
 ついでに 調度。弓矢をうへ。武家の證。
 ついでに 頂頭掛。あはしかりに似たもの。

のねにな きてつちた そせすしき こりくきか ねえういあ

ついでに 手水盥。手又は顔なを洗ふ湯。水をさるる器。
 ついでに 手水場。一尊嚴のかたはらの、手を洗ふ場所。二轉じて、かはりに似たもの。
 ついでに 手水鉢。手を洗ふ水を盛りて、てつづはに置く鉢。
 ついでに 朝廷。一國の政事を行ふところ。政府。
 ついでに 釣艇。つり舟に似たもの。
 ついでに 調停。なかなほり。やはらぐもの。仲裁。
 ついでに 條條。かさかす。すぢすぢ。
 ついでに 朝敵。春風などのそよ吹く様にならぶ。天皇にそむくもの。國賊。反賊。
 ついでに 糶糶。米をうりかひするもの。うりやねり、かひやねり。
 ついでに 挑別。あぐりくじるもの。
 ついでに 條鐵。鐵をのへたるもの。いたぢね。
 ついでに 釣徒。つりびり。釣客。
 ついでに 丁斗。鉤に、柄のついたもの。二夜まはりなものを、打ち鳴らして、時を報する銅鑼。
 ついでに 調度。一手まはりの道具。二たうべ。三特に、弓矢の稱。武家の稱。
 ついでに 掉頭。かしらをはるもの。かぶりをはるもの。
 ついでに 巾幗。こむらひいたはるもの。
 ついでに 挑動。他人をただてうりかすもの。いぢみさるもの。

ついでに 調度掛。一弓矢を飾りつくるに用ゐる、曲線の如きもの。二てつちあむに似たもの。
 ついでに 朝敵。あはしかりに似たもの。
 ついでに 調度持。弓矢を持して、主君に従ひゆくもの。
 ついでに 手斧。端の、内へ曲りたる、二尺ばかりの柄に、外へ、三寸ばかりの鑿形の金具をつけ、内へ向け用ゐる斧。
 ついでに 手斧始。大工の證。新年になりて、始めて、仕事をするもの。
 ついでに 鳥肉。鳥のこけ。
 ついでに 潮熱。さしひきの烈しき體熱。
 ついでに 攀年。陰曆一月の異稱。
 ついでに 河豚鱈。虫の名。河豚魚の皮肉の間に生ず。劇烈なる毒を有す。
 ついでに 調馬。馬を乗り馴らすもの。
 ついでに 廟馬。あまけりのもの。
 ついでに 朝拜。てつかに似たもの。
 ついでに 糶糶。一米をうりかひするもの。二せり入するもの。
 ついでに 眺望。みはる。ながめ。
 ついでに 調馬師。一馬を乗りならす人。二宮内省の、主馬寮に屬して、調料の馬をつかさどる役。
 ついでに 挑發。ただしかり。けしかへるもの。
 ついでに 髮子。いぢみさるもの。かたむきの思。



(けかろうて)

ををわわ りれるり の よやや もめんむみま ほへふひは

ついでに 調法。用ひて便利なること。
 ついでに 調食。すしづくのあそび。①枕草紙「ついでに」
 ついでに 調布。つきのぬのになじ。
 ついでに 釣父。つりをなす翁。釣想。
 ついでに 調賦。みづきもの。ねんぐ。
 ついでに 貼付。糊なごにてはりつくこと。
 ついでに 跳舞。はねまはること。まひなること。
 ついでに 條風。一はるかぜに同じ。二陰曆一月の異稱。
 ついでに 朝服。幕内のみぎを着用する衣服。
 ついでに 調伏。一神佛の力をかりて、悪魔を降伏せしむること。二人を呪ふこと。
 ついでに 離文。ほりもの。あそび。
 ついでに 朝聘。朝廷よりあそぶること。
 ついでに 調弊。たごひにせむること。
 ついでに 朝暮。あさゆふ。あけくれ。
 ついでに 鳥馬。鳥の名。つぐみをいふ。關東の方言。
 ついでに 調味。食物に、味を添ふること。
 ついでに 調密。髪しくりしること。
 ついでに 吊懸。不幸なる人なごをたはること。
 ついでに 光民。多くのたみ。
 ついでに 朝務。政を行ふこと。朝廷のき用の務。
 ついでに 朝霧。あさぎりになじ。

ついでに 朝命。朝廷よりのたむせ。
 ついでに 鳥目。錢の異名。
 ついでに 條目。一事件のついで、すぢみちをたててかきな
 ついでに 用問。くせみをとらうこと。しづらうこと。
 ついでに 朝野。朝廷の民間のこと。
 ついでに 朝陽。あさひになじ。
 ついでに 跳舞。つひあそぶこと。はねること。
 ついでに 條約。條目をまうけて、約束すること。「調」
 ついでに 手口。華のすぢをまうて、しづらうこと。手相をみまう
 ついでに (あしづらうこと)
 ついでに 鳥羅。ミラあむになじ。
 ついでに 調理。ミラあむになじ。
 ついでに 調理。ミラあむになじ。
 ついでに 條里。戸數、二千〇四十八より成り立てる町。
 ついでに 條理。すぢみち。こころわり。つらひ。
 ついでに 潮流。太陽の熱の不均均、又は風のために、海
 ついでに 超倫。人なみにすなれたること。
 ついでに 眺臨。みわたすこと。したをながむこと。
 ついでに 影鏡。おぼえこと。
 ついでに 鳥類。鳥のたぐひ。

のねにな きてつた せすしき こけくか 木ういあ

ついでに 條例。前條を立てて書きたるたて。
 ついでに 蛸蝶。虫の名。みんみんせみになじ。
 ついでに 調練。兵をねらうこと。武をきたふること。
 ついでに 朝露。あさひのつゆになじ。
 ついでに 朝弄。あそびりなごのこと。愚弄。「朝」
 ついでに 彫鏤。ほりてあそぶること。あうりくこと。
 ついでに 調六。一すしづくの裏に、たの目の二度ついで
 ついでに 調和。をりのあそび。よく相合すること。
 ついでに 朝威。朝廷の威光。
 ついでに 用慰。死者をこらふこと。くせみ。
 ついでに 鳥威。ミラたごのこと。案山子。
 ついでに 超越。一すなれたること。二願望に拘らず、位
 ついでに 釣翁。釣をして居る老人。
 ついでに 超越。てしづらうになじ。①
 ついでに 卓。英語 Table、あしの高き机。
 ついでに 卓掛。てえあそぶに掛くる布。羅紗、更紗
 ついでに 兩。支那の、貨幣の高を示すに用ふる。一てえあ
 ついでに 手置。一たぐはかた。二心をうけてつらあそ
 ついでに 手後。はずみに出逢はること。

ついでに 手落。てれけ。まぢがひ。
 ついでに 手負。暇ひて、劍を貸しつら。負債。
 ついでに 手覺。一こころたはえになじ。二口のかに
 ついでに 手蓋。手につくあそびのこと。甲冑。
 ついでに 手重。俗に、てれあそび。一こころ扱ひ難重な
 ついでに 手織。自用に供するため、手づからつくれる織
 ついでに 手下。てしたになじ。
 ついでに 手あかし。探偵の假辭。
 ついでに 手上。一なすこころ、上手になる。技藝上達
 ついでに 出格子。外へ
 ついでに 出格子。外へ
 ついでに 手掛。よすが。
 ついでに 手書。文字を、よ
 ついでに 手書。文字を、よ
 ついでに 手懸。俗に、てがける。自分の仕事につ
 ついでに 手交。めかひになじ。



(しうがで)

をえわ るれるり の よゆ もめんむみま ほへよひは

てかひりてかひり 出掛。まさか外出せんが時。
てかひりてかひり 手加減。一手にて物するはあひ。てかひり。二よりほあひ。かたよらず、中を得る。てかひり。
てかひり の図妾。てかひりたなじ。
てかひり 手籠。提げて持つ、小さき籠。
てかひり 手傘。さしがたなじ。
てかひり 回手下。一するむき、抽くなる。技量未熟なり。二特に、筆跡が前よりむきたる。
てかひり 回手。てかひりたなじ。
てかひり 出來顔。てかひりたなじ。
てかひり 回数。てまの、多くかかる。てかひり。てかひり。
てかひり 出來。一出来るやうにする。二手ぎはよく、立派になし。てかひり。
てかひり 回手。罪人の手にはめて、その動かぬやうにする。てかひり。
てかひり 回手風。手を動かすに連れて、起る風。
てかひり 出稼。家族の居る土地、又は故郷を去り、他所にゆきて、かせぐ。てかひり。
てかひり 回手形。一文書に記して、後の證據とする。昔は、手に、墨をぬり、押捺す。今は、印を捺す。二後世は、その文書の細、切符、切手、券、三車の内にて手をかはてたよりとする。
てかひり 出方。芝居の語。専ら客を案内し、また、客の一切の用を辨する人。
てかひり 回手堅。俗に、てかひり。しわざ、たしかにして危げなし。てかひり。

てかひり 出談。芝居の語。淨瑠璃なを、舞臺にはりてかたること、また、その人。
てかひり 回手形割引。その手形に記載しある期日前に、利子、手数料等のために、幾分の額を減せられて、銀行等より、金員を受け取る。
てかひり 回手。てかひりか光る。光澤を放つ。
てかひり 回手無。人手たらずあり。無人なり。
てかひり 回手長。なすみするくせあり。
てかひり 回手鐵。ある刑罰の同、二つ合せたる鐵環にて、罪人の手を束ねたるままになしたくもの。手錠。
てかひり 回手代。代りて、仕事をする人。
てかひり 出替。他人をかはりあひて、その場に出で、又は、その場を立ちまわす。
てかひり 回手飼。手づから飼養する。その人が家に飼養したくもの。
てかひり 回手差。仕事多くあり。いごまなくあり。
てかひり 回手紙。一はんきれがたなじ。二用事をしるして、他人へやる文書。書状。消息。書簡。
てかひり 回手紙使。てかひりをもちゆく人。
てかひり 回手柄。把手ありて、口のついたる瓶。
てかひり 回手柄。婦人の結髪の際にかくる。縮緬なを種種の美麗なる色、模様にて用ひる。
てかひり 回手柄顔。目ぼせる顔つき。ほりりがほ。

のねにた きてつらた そせずしき こけくきか たえういあ

てかひり 出枯。煎茶を煎じ出して、茶の香の清くなりたるもの。
てかひり 回手搦緒。書格につくる緒。
てかひり 回手摺。手をくむ。手を拵く。拱手。てかひり。
てかひり 回手。てかひりたなじ。
てかひり 回手。たすき。容易なること。輕便なること。てかひり。俗に、てかひり。てかひりあり。たすき。輕便なり。
てかひり 回手。てかひりたなじ。
てかひり 回手。我れに向ひて、あたをなすもの。かたき。二凡て、わが相手の稱。三特に、情婦の稱。四 回手。てかひり。あひてなる。
てかひり 回手。漢語にそへて、之の字の義を示すに用ひる。
てかひり 回手。液體のしたりの數を示すに用ひる。
てかひり 回手木。ピンにてたなじ。
てかひり 出來。一うまれたま。もちまへ。二出來衆の聲。
てかひり 出來上。一出來あがること。二てかひり。
てかひり 出來上。のこらすつくりをはる。全くてかひり。秋。稻の、よくみのる秋。「成就す。
てかひり 出來合。一すてにつくりしてあるもの。二私通して、夫婦になりたるもの。野合。
てかひり 出來合衣。したてである着物。
てかひり 出來合飯。つねに食する飯。常食。

てかひり 回手適意。心にかな。こころ。心まかせなること。
てかひり 回手適意。敵對せんとする心。隔心。
てかひり 回手適意。いろにたはる。いろ。淫慾に耽る。てかひり。
てかひり 回手適意。敵軍のすえや。
てかひり 回手適意。しそん。はつえよ。
てかひり 回手適意。肝裏の熱のみをつまみ。てかひり。
てかひり 回手適意。よくかな。てかひり。
てかひり 回手適意。敵に對して、いきまほる心。
てかひり 回手適意。その事に敵なる人。
てかひり 回手適意。よきほなること。分に應ずること。
てかひり 回手適意。大小便をするつは。しゆびん。たかた。あひての兵。
てかひり 回手適意。ほりくじること。
てかひり 回手適意。てきの國。あだのくに。
てかひり 回手適意。人の悪事なをあはくこと。
てかひり 回手適意。ふこ起りたる心。偶然の者。
てかひり 回手適意。ほんさ。てかひり。
てかひり 回手適意。肝裏のこころのみを記載すること。
てかひり 回手適意。肝裏の熱をつまみ。てかひり。
てかひり 回手適意。よくみくこと。
てかひり 回手適意。陰陽家の語。年によりて、その處のとき屋にあたる方向の理。

をえわわ られるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

てきせんに 出来様。出来たるありさま。てきたるやうに。
 てきせんに 敵視。てきせんにあつち。てきせんにあつち。
 てきせんに 敵矢。かぢらや。
 てきせんに 嫡子。ちやくしにたなじ。
 てきせんに 溺死。水にたはれて死ぬるこころ。
 てきせんに 敵艦。あながたきにたなじ。
 てきせんに 嫡室。ほんぢう。
 てきせんに 敵的實。まじら。しんじう。
 てきせんに 敵入。てきする人。あながたきの人。
 てきせんに 敵將。あひての大將。
 てきせんに 敵城。敵の城。
 てきせんに 敵濼。そそぎまよひのこころ。
 てきせんに 敵情。相手のやうす。
 てきせんに 敵手。あひてにたなじ。
 てきせんに 敵出。つまたたすこころ。
 てきせんに 敵的證。明かなる證據。うはしの證據。
 てきせんに 敵適。よくなか。相應す。
 てきせんに 敵疵。観ひて受けたるきず。負債、開帳。
 てきせんに 敵勢。てきのいきまひ。
 てきせんに 敵生。ふえまふく俗人。
 てきせんに 敵切。よくあてはまるこころ。
 てきせんに 敵箭。かぢらにたなじ。

てきせんに 適然。ふら。たまたま。
 てきせんに 圖的然。はつきり。まじら。判然。
 てきせんに 圖嫡孫。ちやくせんにたなじ。
 てきせんに 圖的孫。しそんにたなじ。
 てきせんに 圖敵對。てむかひ。はむかひ。
 てきせんに 圖個體。おきんじう。すぐたてあるこころ。
 てきせんに 圖適當。あひあたるこころ。そのものに。よくかなうこころ。
 てきせんに 圖濼蕩。あらひきまよるこころ。あすまひ。
 てきせんに 圖出來高。あがりたか。つくりたか。收樓の額。
 てきせんに 圖圖。てきたいをなす。あひてになる。
 てきせんに 圖敵地。敵國の中。敵の土地。敵の領分。
 てきせんに 圖敵陣。敵の陣所。
 てきせんに 圖適中。よくあたるこころ。
 てきせんに 圖的中。わらひまはりにあたるこころ。
 てきせんに 圖躑躅。「たぢらまるこころ。たぢらこころ。二木の名。つにつにたなじ。
 てきせんに 圖適度。度にかなふこころ。ほんまきこころ。
 てきせんに 圖術。術なし。せんすんなし。しかたなし。
 てきせんに 圖適任。その任に。よくかなふこころ。
 てきせんに 圖手柄。柄の一體。手にて。中央を握りて扱くもの。握牌柄。

のねにた てつちた そせすしは こけくきか ねえういあ

てきせんに 圖木偶。てくのほうをいふ。中國の方言。
 てきせんに 圖手際。てきはえにたなじ。
 てきせんに 圖出際。出立のきは。出がす。
 てきせんに 圖敵背。てきのうしろ。
 てきせんに 圖出來榮。一結果の好きこころ。てきせんにあつちのよかこころ。二出來あがりの證據。
 てきせんに 圖手はやく。すはやく。かひがひやく。
 てきせんに 圖出來初。出來たるはじめ。
 てきせんに 圖摘發。あはくこころ。「あつちのこころ。
 てきせんに 圖適法。法にかなふこころ。たきこころ。あつちのこころ。
 てきせんに 圖適否。かなふ。かなはらぬ。あつちのこころ。
 てきせんに 圖手殿。俗に。てきせんに。こころ。あつちのこころ。
 てきせんに 圖出來分限。にはかぶらげんにたなじ。
 てきせんに 圖敵兵。敵の軍卒。敵の兵士。
 てきせんに 圖溺漂。たはれたたよこころ。
 てきせんに 圖嫡母。父の本妻。
 てきせんに 圖出來星。數のみ多くありて。その甲斐なきまじら。
 てきせんに 圖溺没。たはれて死ぬるこころ。
 てきせんに 圖敵味方。敵。味方。たのれ。あつちのこころ。
 てきせんに 圖手金。てつけにたなじ。
 てきせんに 圖觀面。そくき。まのあたり。まのまに。
 てきせんに 圖出來物。はれもの。よきてもの。贈物。

てきせんに 圖敵藥。配合の工合によりて。互に害なる藥。
 てきせんに 圖適藥。病によくあふ藥。
 てきせんに 圖適役。ある役に。よくかなふこころ。
 てきせんに 圖敵役。能登なるの。相手になりてたか。あつちのこころ。
 てきせんに 圖擢用。あげ用あるこころ。おきたてて採用するこころ。
 てきせんに 圖適用。つかひこなして。役にたつこころ。
 てきせんに 圖出切。悉く出づこころ。出づこころ。
 てきせんに 圖手切草。草の名。入けいさつにたなじ。
 てきせんに 圖出切。のこすらい。悉く出づこころ。
 てきせんに 圖敵體。てきのこころ。
 てきせんに 圖手切。その事につきての關係を絶つこころ。
 てきせんに 圖出切。衣服を脱離したる後の。あまりのきた。
 てきせんに 圖適例。たしかなる例。前中したる例。
 てきせんに 圖適齡。ある。定まりたる事業に。従事するき年。あつちのこころ。
 てきせんに 圖笛伶。笛を吹く樂人。
 てきせんに 圖手綺麗。てきはのまじら。こころ。まのまに。なるこころ。巧敵。
 てきせんに 圖滴瀝。したたり。しづく。
 てきせんに 圖的樂。あきらかなる様にいふ。
 てきせんに 圖手切金。手切をなすために出たす金錢。
 てきせんに 圖木偶。てくのほうの像。

なをふわ ろれるりゆ よゆや もめんむみま けへふひは

しんせ

てきほ 図手懸。手懸の器。
てきほ 図出潮。しんせのしんせのしんせ。
てきほ 図手懸皿。小さき皿。昔は、事ら懸を懸るに用ひたり。

てきほ

その料にして仕掛に金錠。手回筒。
てきほ 図手懸。ありませすから。そのもを。
てきほ 図手懸。ありませすから。そのもを。
てきほ 図手懸。ありませすから。そのもを。

のねにた。ごつちた。そせすしき。こけくきか。本夫ういあ

てきほ 図出捕。ある数をつくして出づ。
てきほ 図出捕。悉く出づ。空く。
てきほ 図手代。一代官の下にありて、書記なる武家の位。
てきほ 図手道具。てうきにたなじ。

てきほ

てきほ 図手懸。提ぐるやうに透りたる樽。
てきほ 図手懸。たりにたなじ。
てきほ 図手懸。俗に、てきほ。近くて、手の届くはかりなり。

をるるわ。るれるり。よゆや。もめんむみま。ほへふひは

てっせ

てっせ

一三四六

てっせやう 手甲。手甲を縫ふもの。手甲を縫ふもの。
てっせやう 手都合。手甲の都合。手甲の都合。
てっせやう 手支。さしつかふもの。手甲の支。
てっせやう 手攪。食物や薬などを用ひするに手につか
てっせやう 鐵艦。鐵を材にして作りたる舟。
てっせやう 鐵鉗。かなはし。ヤンヅリ。
てっせやう 手自。たのれみづから。わざと。
てっせやう 手親。自身したく。
てっせやう 鐵白眼。ヤブにらみにたなび。
てっせやう 手附。一手いさま。二人の手下につきて、その
仕事をたすくもの。手代。
てっせやう 鐵器。鐵を材して作りたるもの。
てっせやう 鐵騎。騎馬の兵。精英なる騎兵。
てっせやう 鐵機。ひきがねにたなび。
てっせやう 鐵災。鐵を以てつくりたる、鐵の如きもの。火
上にて起して、鐵を以てつくりたる。
てっせやう 手突矢。弓を用ひすして、手にてつまる矢。
てっせやう 撒去。つろひなす。ひきかへるもの。
てっせやう 撤去。つろひなす。ひきかへるもの。
てっせやう 鐵屑。鐵のくず。かなく。

てっせやう 手捏。器を用ひすして、手さきて捏ねて
作りたる陶器。
てっせやう 鐵把。鐵にてつくりたるくまて。古、兵器
てっせやう 手作。てっせやうの製作。てせいの。自製。
てっせやう 調布。一手たりの白布。二つきのもの。
てっせやう 鐵火。古、罪の處置を糾さんために、鐵をやき
て燃らせたもの。
てっせやう 鐵靴。馬の爪につかなくつ。蹄鐵。
てっせやう 鐵鑊。鐵の、未だ精錬せぬもの。あらがね。
てっせやう 鐵管。流動物、又は氣體を通はせて、遠方へ
たぐるために、鐵にてつくりたるた。
てっせやう 鐵丸。鐵にてつくりたるたま。
てっせやう 手附。品物をつけりたる前に、賣買契約のし
して、多少の金を、賣主に拂ひこみたくこと。定銀。
てっせやう 鐵差。めかりにたなび。
てっせやう 鐵橋。鐵を用材としてつくりたる橋。
てっせやう 手附金。てっせやうとして、賣主に渡す金。
てっせやう 鐵拳。堅くにぎりたる。げんこつ。
てっせやう 鐵渣。かなくそにたなび。
てっせやう 鐵鎖。鐵にて作りたる鎖。
てっせやう 鐵像。鐵にてつくりたる、動物の形。
てっせやう 鐵柵。鐵にて作りたるしがらみ。くらがねの
てっせやう 鐵山。鐵鑛のつくる山。しかね。

てっせやう 鐵屎。かなく。
てっせやう 鐵鑛。てっせのまび。
てっせやう 鐵心。鐵の如くかたまむ。
てっせやう 哲人。ものしりびと。かこき人。
てっせやう 鐵砂。てっせのすな。
てっせやう 鐵匠。かたやにたなび。
てっせやう 鐵業。かたやの。たはぐみ。
てっせやう 鐵徹。かたやの。いさね。徹徹。ミツリ
の。ミツリは。いさね。
てっせやう 鐵宵。よほほ。よほほ。通宵。
てっせやう 鐵葉。草の名。そつにたなび。
てっせやう 鐵石。くまがね。二板りてかた
きもの。に穿へてつろひ。
てっせやう 鐵屑。てっせの。かなく。
てっせやう 鐵扇。骨を、鐵にて作りたるあぶき。
てっせやう 鐵船。鐵を、外部へ張りたる船。
てっせやう 鐵線。鐵にて作りたるはりがね。
てっせやう 鐵錢。鐵にて鑄造せる貨幣。
てっせやう 鐵線。草の名。葉は、芍薬に似て小
さし。夏、六月又は八月の白き花を開き、葉は、紫色を帯ぶ。
てっせやう 鐵線花。草の名。てっせをたなびたて
てつせやう 鐵杖。鐵にてつくりたる杖。
てっせやう 鐵窓。くらがねのま。鐵はりの窓。年敵は

てっせやう 鐵束。鐵のわ。かたがね。
てっせやう 鐵鎖。鐵のやじり。
てっせやう 鐵代。いりかはるもの。交替するもの。
てっせやう 鐵石。いさねのよき。
てっせやう 鐵道。一汽車。又は電車などを走らしむるた
めに、道に、二條の鐵線をしきたるもの。二汽車を。よ。
てっせやう 鐵刀木。木の名。たがやにたなび。
てっせやう 手傳。他人の仕事をしてたすけること。また、
その人。
てっせやう 手傳。他人のしごきをたすく。
てっせやう 鐵彈。鐵のたま。
てっせやう 鐵調一。双六の賽に、一の目のならびあらはるる
もの。
てっせやう 鐵丁稚。問答にて召しつかふわらへ。小僧。
てっせやう 鐵砧。かなしき。かなし。
てっせやう 鐵丁幾。鐵線をあるにたなびたてた。
てっせやう 鐵腸。かたくはりつめたもの。
てっせやう 鐵杖。鐵にて作りたる杖。
てっせやう 鐵控煉。ねる。こねる。
てっせやう 手銃。私用につかふ小銃。
てっせやう 手續。その事を行ふ順序。てはや。
てっせやう 手筒。へたに。拙劣に。
てっせやう 手槌。かなづち。にたなび。

てっせやう 鐵屎 かなく。てっせのまび。鐵の如くかたまむ。ものしりびと。かこき人。てっせのすな。かたやにたなび。かたやの。いさね。徹徹。ミツリ の。ミツリは。いさね。よほほ。よほほ。通宵。草の名。そつにたなび。くまがね。二板りてかた きもの。に穿へてつろひ。てっせの。かなく。骨を、鐵にて作りたるあぶき。鐵を、外部へ張りたる船。鐵にて作りたるはりがね。鐵にて鑄造せる貨幣。草の名。葉は、芍薬に似て小 さし。夏、六月又は八月の白き花を開き、葉は、紫色を帯ぶ。てっせをたなびたて てつせやう 鐵杖。鐵にてつくりたる杖。てっせやう 鐵窓。くらがねのま。鐵はりの窓。年敵は

てっせ

てっせ

一三四七

てつりて 鐵蹄。かなぐつ。鐵靴。
 てつりて 鐵挺。かなてにたなじ。
 てつりて 鐵徹底。そこまてらるへん。うきまほら。
 てつりて 鐵條。てつりて。
 てつりて 鐵帖本。やまらひの書物。和製の本。
 てつりて 鐵徹頭徹尾。始めより終りまで。あた
 まからしりま。
 てつりて 鐵砲。一鑓にて、筒を製し、木の殻を握をつ
 け、火薬を、彈丸をいれて發射するもの。二昔、江戸堺町に
 居たる遊女。三海苔巻の鉢の異名。四拳の手の一。こやしを
 固めて、腕を、前方へつき出したし、鐵砲をつつまねをするもの。
 五魚の名。ふぐをいふ。
 てつりて 鐵眼。城壁、臺階等に、鐵砲をうち出すた
 めに設けたる孔。
 てつりて 鐵砲玉。一鐵砲にこめてつた。彈丸。
 鐵丸。二もてもらひ。返事のなき。三。
 てつりて 鐵砲發砲。大言を吐く。ほらなをく。體
 遊笑。四つはりをいふ。世語にて、てつりてはなす。五。
 てつりて 鐵砲風呂。ふろをけの湯に、鐵製の筒
 ありて、その中にて、火を焚きて、湯をわかすもの。
 てつりて 鐵鉢。筒の用ゐる鉢。鐵にて製せるもの。
 てつりて 鐵出張。てつりての匙。
 てつりて 鐵筆。鐵にてつくりたる。小刀。印刀。二雄
 てつりて 鐵筆。一印刷ならに用ゐる小刀。印刀。二雄

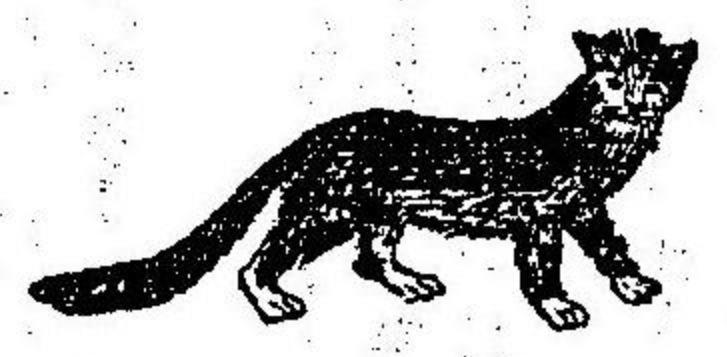
てつりて 鐵瓶。湯を沸かすための、鐵にてつくねる。形、
 土瓶の如きもの。
 てつりて 哲婦。かしこき女。
 てつりて 哲夫。かしこき夫。
 てつりて 鐵粉。くらがねの粉。てつりてを細末にせるもの。
 てつりて 鐵壁。鐵にて造れるいかり。
 てつりて 鐵鞭。鐵にて張りたる鞭。
 てつりて 鐵天邊。あたまのうへ。いたたき。てつりて。
 てつりて 鐵天邊掛。鳥の名。ほらなをすにたな
 てつりて 鐵棒。鐵にてつくねたる棒。
 てつりて 鐵手妻。てつりてにたなじ。
 てつりて 鐵手品師。てつりてにたなじ。
 てつりて 鐵手品師。てつりてにたなじ。
 てつりて 鐵手話。最重にたつてつりて。迫り促す。つりて。
 てつりて 鐵面皮。つりてのかげのまつき。つりて。
 てつりて 手積。糞、糞などを用ゐる。手にて、つりて。
 てつりて 徹夜。よさほし。たさほし。通夜。通曉。
 てつりて 善老。七八十歳のこしより。

てつりて 哲理。圓妙なるこむわり。
 てつりて 手鉤。釣竿を用ゐる。釣糸を手に持ちて、魚を
 てつりて 鐵輪。かなり。くらがねのわ。
 てつりて 手蔓。てがかり。たより。つて。
 てつりて 手蔓藻。海中に生じ、大さ三四寸にて、藻の
 てつりて 手。ちの。如きもの。
 てつりて 手手。手をいふ。見供の語。
 てつりて 手打栗。大なる栗の實。たなはぐり。
 てつりて 父親。ちち。をこねや。
 てつりて 父方。父の方に關係せる親族。父の血統。
 てつりて 父君。ちちきみにたなじ。④
 てつりて 父御。父の尊稱。
 てつりて 巧夫。男のこじき。
 てつりて 無父子。一父の不明なる子。二ちちたや
 に死なれたる子。
 てつりて 父母。ちちはは。兩親。
 てつりて 蝸牛。虫の名。かたつむり。まひまひつむり。④
 てつりて 父をいふ。播磨國の方言。
 てつりて 鳥を、網にて捕ふるこき、用ゐるをいふ。
 てつりて 手所。身體の中の急所。
 てつりて 出所。ものものの生らるるもろのこむわり。た
 こ。産地。出所。

てつりて 手遠。かけ離れてあるこむわり。手近にあらぬこむわり。
 てつりて 手點。てつりてにたなじ。
 てつりて 手取。一こむわり。をさ。二業に巧みなる人。
 てつりて 手捕。一器械をもたして、からてに捕ふる
 こむわり。二買する時、ちり金を除きて、全く、己れの手にいる
 こむわり。④
 てつりて 手取鍋。柄のつきてある鍋。
 てつりて 手内職。内内にてするこむわり。
 てつりて 手長。一宮中、又は貴人の家にて、酒宴なごの時、
 たものを運びなごする人。④二ひすみをなごする人。盗人。④三
 手の極めて長き人。足ながの類。
 てつりて 手長蝦。かはえびの一種。淡水に産す。大
 さ四五寸。前脚、全身より長く、首、きはめて大きく、味は佳
 なり。
 てつりて 手長蜘蛛。虫の名。蜘蛛の一種。體細長
 く、足長し。喜蛛。
 てつりて 手長猿。猿の名。猿の一種。熱帯地方に産
 す。手、きはめて長く、舉動巧みなり。
 てつりて 手無。てあそび。てすまみ。
 てつりて 手無。そてなしの類。下賤の人のさるもの。
 てつりて 月經。つきやぐ。
 てつりて 手懷。俗にてなづける。なれそまし
 か。なつきたしき。
 てつりて 手繩。一春の乳にこほして、張り直す繩。二人、
 又は、その他の動物をゆはふるに用ゐる繩。

てんてい 出窓。表の方に出張りて作りたる窓。「てんてい」
てんてい 手感。如何にせんまをさすこと。うろたふる
てんてい 手間取。賃金をとりて、仕事をすること。また、その人。
てんてい 手間取。ひまがかかる。たそくなる。
てんてい 手真似。手を以て、その事務のさまを真似ること。
てんてい 手招。手にてさしまわること。
てんてい 手廻。その事の迫らぬ前に、支度すること。準備。豫てよりのてくばり。
てんてい 手廻。一てま。てまか。二てまにて使用する道具。三主將の身にちか居る兵士。麾下。
てんてい 手廻荷物。旅行なさするさま、手づかに置く荷物。
てんてい 手前。一己のまへ。たのれのかた。こなた。こなた。二そのものよりは、こなた。三うてまへ。伎倆。四他人の見て居ること。五「人のてまへ」に己の謙稱。六目下の人を呼ぶ詞。
てんてい 手前勝手。注文せられたる家に飲食物を持ちゆくこと。七「てんてい」に「てん」にたなじ。
てんてい 手前味噌。自分のみをほめること。己れの都合なきやうに、事をはからうこと。
てんてい 手實。一手をさすまじにはたらくこと。二手細工に適用なること。
てんてい 外出を好むこと。そなたをさすこと。

てんてい 手毬。一綿をまらめて、その上を、数種の色糸にてかがりたるもの。女兒の玩具。二木の名。葉は、はこねうづぎに似て丸く、棘あり。幹の高さ六七尺に至る。首夏のこと、小花むらがり開く。初めは青色にして、後、純白なる。繡球。三櫻の一種。花、まりの如くむらがり開くもの。
てんてい 手毬歌。てまりをつく時、うたふひな歌。
てんてい 手短。はやわかりに。簡短に。
てんてい 手見。伎倆を示すこと。
てんてい 手出店。てだなにたなじ。
てんてい 手水。一手、又は額なごをあらふ水。二手を洗ひたる時、その手さより滴るる水。
てんてい 手出水。降雨のために、川、沼なごに溜したる水。洪水。
てんてい 手助詞。つ、の活きなるて、に未來助動詞、むの添はれるもの。てな。
てんてい 手武者。舌が手の武者。味方の兵。
てんてい 天。一あめ。そら。大空。二自然の理。天鼓。三天鼓の響。
てんてい 天。一目じるしにつくる、小さく圓き形。ほす。二漢文の訓讀に、字の傍に附するしるし。三語歌、文章を添削すること。四非難せらるべきし。きす。取壊。五
てんてい 天家。てんしよにたなじ。
てんてい 天淵。まつりにたなじ。



(ん て)

てんてい 貂。獸の名。鼬の類。尾より大きく、毛色黄はめり。養廢せる殿堂なごに住む。
てんてい 點。一漏刻にて、時を計るに用ゐる。一日十二時の一時を、四つに分つ。二茶案なごの評點數を示すに用ゐる。三物品を數ふるに用ゐる。
てんてい 傳。一歴史の注釋。二人の履歷をしるせるもの。
てんてい 殿。莊嚴なる建物。貴人又は神なごの住むところ。
てんてい 轉壓。まろはしてわしつくること。
てんてい 天意。自然の道理。天のこと。
てんてい 轉意。心のかはること。氣をいれかふること。
てんてい 轉移。うつること。移轉。
てんてい 傳郵。宿つぎに送ること。
てんてい 天一神。陰陽家の語。なかがみにたなじ。
てんてい 天上。陰陽家の語。天一神の、天にのほりある間の稱。
てんてい 天字。そら。
てんてい 殿宇。神佛を祀り据ゑたる建物。
てんてい 天運。自然のまはりあはせ。うんめい。
てんてい 傳驛。しゆくつぎ。たては。
てんてい 轉閱。書籍なごを、へりかへし見ること。
てんてい 展開。ひろげてみること。

てんてい 天竺。たきもの畑。
てんてい 天淵。雨つものもの差の大なるに響へていよ。雲泥。膏澤。
てんてい 天恩。一天のめぐみ。かみのめぐみ。二天皇のめぐみ。三陰陽家の語。天より、萬民に、幸福を下すさいふ大吉日。
てんてい 天下。一あめがした。世界。二自己のたもひのままになしうること。三徳川氏の時、將軍をさしていふ。
てんてい 天家。天皇の御一族。皇室。
てんてい 添加。そへたこと。
てんてい 點瑕。きす。しみ。かきん。
てんてい 轉嫁。二度のよめいり。
てんてい 天蛾。虫の名。ゆふがほへたうにたなじ。あまのがは。
てんてい 天河。皇族の尊稱。昔は、爾白にも通用せり。あなかの家。百姓の家。
てんてい 田家。たうえうたにたなじ。
てんてい 田歌。一長き柄のきぬがさ。二虚無僧のかぶる、深きあみがさ。
てんてい 天涯。そらのかぎり。そらのはて。
てんてい 磯磴。いしうすにたなじ。
てんてい 天蓋花。草の名。まんじゆしやけに同じ。
てんてい 天行。日月、星辰の運行すること。
てんてい 戲謔。いたづら。わらさ。わるじやれ。

てんかん 天學。てんもんがくにたなじ。

てんかん 田樂。一始めは、農人の耕作の勞をなぐさめんがために、歌笛などにて、をかき技を演ずるものなりしが、後、法師の業となり。鎌倉時代より、室町頃にかけて流行せり。二田樂豆腐の譽。

てんかん 田樂豆腐。豆腐をきり、串にさして、火に炙り、味をつけたる味附を塗り、更に炙りたるもの。

てんかん 田樂法師。てんがくを舞ふ法師。

てんかん 田樂焼。凡て、味をつけたる味附を塗り、やきたるもの。

てんかん 天鑑。神のみそなはすこと。天のかんがみ。

てんかん 天官。宮祭のこを司る役。

てんかん 天漢。あまのがは。

てんかん 天癩。神癩病の、最も甚しきもの。癩に癩癩をたこし、口より、沫を吐き、暫時にして、また回復す。

てんかん 天顔。天皇の御顔。御顔。

てんかん 田間。一田間のほごり。二あなかにたなじ。

てんかん 天眼鏡。實物より、大きく見ゆる眼鏡。

てんかん 天眼水。病眼に注ぎて療治するに用ゆる水薬。さし薬。

てんかん 天眼通。一佛教の語。一種の、特殊なる超神能を有し、感しながら、千里外の事を聞くことを得るもの。二事物をよく洞見すること。



(しうほくがんで)

てんから 天氣。一そらのけはひ。そらのありさま。二よく舞れたるそら。晴天。三天皇の御機嫌。

てんき 天機。神聖のひめこと。神のなす機密。

てんき 天癸。めぐり。月經。一の稱。

てんき 傳記。御即位のこき、儀式をつかさどる少納言の一生の來歴をしるせるもの。二代記。

てんき 傳騎。傳令の騎兵。

てんき 殿騎。しんがりの騎兵。

てんき 電氣。物ご、物ご摩擦するより生ずる、一種の力。熱、及び光を發し、他物をひきよせ、又は反撥する力あり。

てんき 電機。電氣の力を應用する機械。

てんき 典厩。馬寮の頭。

てんき 天氣伺。天皇の御機嫌をうかがふこと。

てんき 電氣魚。魚の名。形體の如くにて、激烈なる電氣力を有す。南亞米利加地方に産す。

てんき 電氣鐵道。電氣力を以て車體をはしらしむる鐵道。

てんき 電氣燈。電氣の作用に、光明をはなす燈。

てんき 天泣。ひでりあめ。雲なくして降る雨。

てんき 轉筋。こむらがへりにたなじ。

てんき 電氣鍍。電氣の作用にてなすめっき。

てんかへん 顛倒。逆さまになり、後へ、身をひるがへすこと。

てんかへん 手車。二人、左右の手を組みあはせ、その上に、一人を乗せてあるく小供の遊戯。

てんかへん 天火。一陰陽家の語。曆の中段にある凶日の名。二番雷のために起りたる火災。

てんかへん 天花。雪の異名。

てんかへん 轉點。火をこもすこと。

てんかへん 電花。いなびかりにたなじ。

てんかへん 天潢。あまのがはにたなじ。

てんかへん 天光。一日のひかり。日光。二砂糖の一種。色、赤みを帯びて、やや下等なるもの。

てんかへん 電光。いなびかり。いなづま。

てんかへん 點畫。ほちんすすこと。

てんかへん 天花粉。きからすうりの根を水飛したるくす。汗もに、功ありといふ。

てんかへん 展觀。ひろげてみること。

てんかへん 轉換。いれかはること。

てんかへん 天冠。玉を以てかざりたる冠。

てんかへん 天關。ひこほしにたなじ。

てんかへん 典刑。たきて。きはん。てほん。かた。

てんかへん 天刑病。らいびやうにたなじ。

てんきやう 癡狂。きりがひにたなじ。

てんきやう 轉經。經を僧侶の、處處めぐりまわすこと。

てんきやう 天弓。にじにたなじ。

てんきやう 轉居。すまひを變へること。

てんきやう 敗流。やまがりご、すなかりご。

てんきやう 轉曲。はじめより、もごより、いきなりに。

てんきやう 天衢。あまのがはにたなじ。

てんきやう 轉句。絶句の語の第三句、この句にて、意を轉ずるもの。

てんきやう 天狗。一支那にて、流星の聲あるものの稱。二深山に住むといふ怪物。三雷慢、自負すること。また、その人。

てんきやう 傳供。神佛の具物を、手より手にうけつぎて供するもの。

てんきやう 填空。すまをうつむること。一よらご。

てんきやう 天空。そらにたなじ。

てんきやう 天草。海草の名。こころてんぐさにたなじ。

てんきやう 天狗鯛。魚の名。鯛の一種。嘴の尖り出でたるもの。

てんきやう 天狗倒。深山にて、暴風の如く、すさまじき雪のすること。

てんきやう 天具帖。美濃國武蔵郡より産する紙。薄くして純白なり。典工帖。天郡上。

てんきやう 天軍。みいくさ。官軍。皇軍。

てんきやう 殿軍。しんがりの兵。

てんけつ 傳教。宗教を傳ふること。
 てんけつ 傳教師。耶穌教を教へ傳ふるを、職とする。
 てんけつ 電撃。鋭く烈しくうつ状にいふ。「人」。
 てんけつ 天闕。天皇の住みたまふところ。宮闕。
 てんけつ 纏結。からまること。まつはること。
 てんけつ 天氣人。勅助を祓りたる人。④
 てんけつ 轉業。生業をかふること。
 てんけん 天憲。朝廷の法度。朝憲。
 てんけん 天譴。しらぶること。あらたむること。
 てんけん 天誼。天のわしかり。
 てんけん 天嶮。天然の險阻。
 てんけん 甜言。あまきことば。工合よきことば。
 てんけん 天劍草。草の名。ひるがほにたなじ。
 てんけん 天元術。古、算木にて行ひたる、一種の数学。
 てんご 點呼。姓名を呼びて、人員の揃へりや否やを調べること。
 てんご 典故。ふるきことば。
 てんご 轉語。なまれることば。なまりことば。
 てんご 傳語。ことばづら。
 てんご 天工。自然になりたるわざ。鬼工。
 てんご 天候。そらのけしき。天氣の模様。
 てんご 篆刻。印面に、文字をほりつくること。

てんご 天國。耶穌教にて、人の死にて後、靈魂の行くところ。佛教の極樂淨土の國。
 てんご 典獄。監獄の事を司る官吏。
 てんご 天骨。てんごつこの骨。④
 てんご 天骨。天性のすぐれたる伎倆。
 てんご 傳言。ことづて。ことづけ。
 てんご 碾茶。春にて挽き、粉末にせる茶。ひきぢや。
 てんご 點茶。抹茶を、湯にたつること。「水等の類」。
 てんご 天災。人力ならずして起る災。風、雷、地震、洪水等の御災。
 てんご 天裁。うまれつきでの才智。天然の智慧。
 てんご 添削。詩歌、文章などをなほすこと。
 てんご 田作。田をつくること。農作をすること。
 てんご 天産。こゝろしたやすこと。
 てんご 天産。虫の名。てぐすむしにたなじ。
 てんご 天産。自然に産するもの。人工を加へずして生ずるもの。
 てんご 觀慚。面をあらめて恥づること。
 てんご 點竄。數學の語。和算にて行ふ代數學。
 てんご 田産。田より産出するもの。
 てんご 天蠶織。てぐすにて織れる織物。
 てんご 天蠶糸。てぐすにたなじ。
 てんご 天子。天下の主。天皇。主上。

てんご 天資。うまれつきにたなじ。
 てんご 天姿。うまれつきすがた。
 てんご 天使。天のつつかひ。
 てんご 天賜。天より賜はること。
 てんご 點視。てんけんになじ。
 てんご 轉徒。うつること。所をかふること。移轉。
 てんご 典侍。内侍の次に位する女官。
 てんご 篆字。篆書の文字。
 てんご 點示。さし示すこと。指點して示すこと。
 てんご 轉軫。てんけんになじ。
 てんご 轉字。さかさまになりたる文字。
 てんご 天質。うまれつき。自然の性質。天稟。
 てんご 轉質。法律の語。債權者が、質物を、たのれの債務の擔保として、更に質に供すること。
 てんご 傳習。ならひつたふること。
 てんご 天心。一大空のまなか。二天のこころ。神のこころ。天意。
 てんご 點心。一日日の常食の間に食ふ食物。小中飯。二三茶の菓子。茶菓子。
 てんご 天眞。さむのまま。うまれつきたるさま。
 てんご 天神。一あまつかみにたなじ。二京都鳥原の船阪の、第二等なるもの。
 てんご 轉軫。三味線のかしらのまがれる部分、即ち、

てんご 天國。耶穌教にて、人の死にて後、靈魂の行くところ。佛教の極樂淨土の國。
 てんご 典獄。監獄の事を司る官吏。
 てんご 天骨。てんごつこの骨。④
 てんご 天骨。天性のすぐれたる伎倆。
 てんご 傳言。ことづて。ことづけ。
 てんご 碾茶。春にて挽き、粉末にせる茶。ひきぢや。
 てんご 點茶。抹茶を、湯にたつること。「水等の類」。
 てんご 天災。人力ならずして起る災。風、雷、地震、洪水等の御災。
 てんご 天裁。うまれつきでの才智。天然の智慧。
 てんご 添削。詩歌、文章などをなほすこと。
 てんご 田作。田をつくること。農作をすること。
 てんご 天産。こゝろしたやすこと。
 てんご 天産。虫の名。てぐすむしにたなじ。
 てんご 天産。自然に産するもの。人工を加へずして生ずるもの。
 てんご 觀慚。面をあらめて恥づること。
 てんご 點竄。數學の語。和算にて行ふ代數學。
 てんご 田産。田より産出するもの。
 てんご 天蠶織。てぐすにて織れる織物。
 てんご 天蠶糸。てぐすにたなじ。
 てんご 天子。天下の主。天皇。主上。

てんせり 殿上。一禁中にて、紫宸殿、又は清涼殿の上の御。二昇殿すること。三殿上人の号。出仕するつめ所。

てんせり 殿上人。昇殿をゆるさるる人。二てんせり 殿上肩。たかまゆにたなじ。

てんせり 天爵。天性うけ得たる英才。「またがり。てんせり 轉借。人の借りたる物を、また借るること。てんせり 天社日。陰陽家の語。殿の中段にある大言日。春は戊寅の日、夏は甲午の日、秋は戊申の日、冬は甲子の日をいふ。

てんせり 天主。一耶穌教にてまつる神。二城の本丸のうちに、鐘層にも、高く構へたる神。天主。

てんせり 店主。みせのあるじ。商店の主人。

てんせり 典主。質家のあるじ。質をこる人。

てんせり 轉手。瑪瑙の頭にある、糸を巻きつくるもの。てんせり 天授。定まりたる壽命。

てんせり 天授。天より授ること。神よりのたまもの。

てんせり 傳授。藝術の奥義なきをうたへるくこと。てんせり 傳授。藝術の奥義なきをうたへるくこと。

てんせり 天主閣。てんしゆにたなじ。

てんせり 轉宿。やむをかふること。うつりやうこと。てんしゆにたなじ。

てんせり 天主教。耶穌教の一派。羅馬法王を、教

てんせり 添書。一物にそへて送る手紙。そへ状。二人を紹介する手紙。紹介状。

てんせり 篆書。漢字の書體の一。支那周の世、秦の世以前のもの。大、小二種あり。

てんせり 天序。時候の順序。

てんせり 展舒。のはすこと。「る性格。天賦。

てんせり 天縱。神のあたへ。天のその人にゆるした

てんせり 田際。田のうね。

てんせり 傳承。人づてに聞くこと。

てんせり 轉職。職務をかふること。やくがへ。

てんせり 點辱。はつかしむること。

てんせり 天主。てんしゆの約。

てんせり 天數。天然のまはりあはせ。自然の道理。

てんせり 點數。てんのかず。評點の數。

てんせり 天樞。北斗七星の一。

てんせり 天水。あまみづにたなじ。

てんせり 天瑞。みづさしにたなじ。

てんせり 天瑞。自然のめでたきしるし。

てんせり 天水桶。雨水を貯ふる桶。

てんせり 天性。うまれつきにたなじ。

てんせり 天生。自然に主すること。人力によらず生ず

てんせり 天成。自然の結果。

てんせり 恬靜。なちつきてただやかなること。Leisur。

てんせり 展性。命脈なきの、のびやすき質。

てんせり 典制。なきて。さそく。

てんせり 傳生子。他人の子を、己れの生みの子なり

てんせり 諂笑。こびりひひ。

てんせり 傳笑。剛き傳へ、目くはせして笑ふこと。

てんせり 典籍。ほん。書籍。

てんせり 點綴。飾りつけてつなぐこと。

てんせり 傳説。うはさ。かたりつたへ。

てんせり 點線。照よりなれる線。……の如し。

てんせり 轉戰。ここに戦ひ、かしてに戦ふこと。

てんせり 典膳。天皇の御膳をつかさどる役。

てんせり 電閃。いなびかり。いなづま。

てんせり 傳染。うつりつたはること。

てんせり 管線。電氣のかよふ線。

てんせり 天仙果。草の名。いねびはにたなじ。

てんせり 天仙草。草の名。たはこにたなじ。

てんせり 展然。笑ふ状にいふ。

てんせり 恬然。なちつきはらって。

てんせり 傳染病。傳染しやすき性質の病。

てんせり 天祚。天皇のみくらひ。寶祚。

てんせり 天祖。天皇の御先祖。天照大神。

てんせり 天座。禪家の語。臺所のことを扱ふ俗語。

てんせり 田租。田に課する租税。

てんせり 田鼠。鼠の名。むぐらもちにたなじ。

てんせり 轉送。つぎつぎにたぐること。「つせり。

てんせり 天窓。一ひきまにたなじ。二あたたま。かしろ。

てんせり 傳奏。徳川時代に、武家より禁中へ申し上げる件をとりつぐ。武家傳奏。「たる、勅使の旅籠。

てんせり 傳奏所。徳川時代に、禁中に設けられ

てんせり 傳奏所。町奉行の御。慶長年間のこと。

てんせり 傳奏邸。徳川時代に、勅使の旅籠とし

てんせり 傳奏邸。江戸に設け置きたる邸。

てんせり 填塞。つめこみふさふさ。

てんせり 經足。足へ綿をしかさまふこと。支那婦人

てんせり 經束。からみつくこと。「の爲す風習。

てんせり 典則。なきて。規則。

てんせり 站足所。たてはにたなじ。

てんせり 天孫。天照大神の御孫。

てんせり 天體。大空中に羅列せる星辰の全體。

てんせり 轉貸。他人よりかりたる物を、また、他人にか

てんせり 田儘。いやしき人。卑賤の人。

てんせり 天台座主。比叡山、延慶寺の住。

てんせり 天台宗。佛教の宗派の一。僧徒の、はじめでひらめたるもの。

てんたろ

てんたろ 図 典當。 寶にいたる物。しずもり。
 てんたろ 図 顛倒。 さかさまにならぬこと。ひっくりかへる。
 てんたろ 図 眞湯。 祭祀のとき、湯をわかつて、神樂をなす。
 てんたろ 図 天道。 天のみち。天然の靈體。
 てんたろ 図 天堂。 極樂世界。
 てんたろ 図 顛倒。 裏返すこと。さかさまにすること。
 てんたろ 図 殿堂。 てんたろ、みやま。寺院、社廟。
 てんたろ 図 傳道。 みちをつたふこと。教を布くこと。
 てんたろ 図 天道様。 太陽をいふ。
 てんたろ 図 傳道師。 耶穌教の布教をする人。
 てんたろ 図 天道乾。 一日にほすこと。日光に照すこと。二日しみせにたない。
 てんたろ 図 天道任。 自然のなりゆきに任すること。二日三分ばかり、身なく、茶褐色にして、小さき斑點あり。
 てんたろ 図 轉宅。 居所をかふること。轉居すること。
 てんたろ 図 田宅。 田地、宅地。
 てんたろ 図 傳達。 つまづきに傳へ居ること。運送すること。
 てんたろ 図 恬淡。 氣のさほりしてあること。
 てんたろ 図 天地。 一あつち。乾坤。二上。下。三靈。三靈の物の上。下。のものはし、何も書かずにたぐ部分。
 てんたろ 図 轉地。 居住地をかふること。

てんちゆう

てんちゆう 図 願腹。 たふれつまつくこと。
 てんちゆう 図 電池。 電氣をたこし貯ふる陶器製の器。
 てんちゆう 図 傳知。 ききつたへて知ること。傳へ知ること。
 てんちゆう 図 田地。 田につくりたる土地。
 てんちゆう 図 天然。 一いんごにたない。二そら。あめ。空。三高きこと。四天竺木綿の器。
 てんちゆう 図 天然草。 草の名。しろい。にたない。
 てんちゆう 図 天然茄。 草の名。まんだらげにたない。
 てんちゆう 図 天然牡丹。 草の名。牡丹の一種。葉、普通より小さく、花は、くすだまに似て、その色、紅、白、又は、しほりなり。
 てんちゆう 図 天然木綿。 西洋より舶來せる木綿。地、厚くつよし。
 てんちゆう 図 天然浪人。 一定の住所なきもの。やみなし。浮浪人。
 てんちゆう 図 點茶。 抹茶を、湯にたつこと。
 てんちゆう 図 天聽。 天皇の御聞に入ること。獻聞。
 てんちゆう 図 天頂。 いただき。かしら。
 てんちゆう 図 天長節。 天皇御降誕の日を申す。光仁天皇の御代にはじまる。
 てんちゆう 図 纏着。 まつはら。まひらひら。
 てんちゆう 図 天誅。 一天前にて、誅せらるること。二明治維新前後に、浪人等の、已れど、見識を興にするものを殺せらるること。
 てんちゆう 図 天柱。 天を支ふるもの。懸架する柱。

てんちゆう

てんちゆう 図 轉住。 居所を移すこと。てんたろ。
 てんちゆう 図 電柱。 てんしんはしら。
 てんちゆう 図 殿中。 一このうち。やかたのうち。二冠空の一種。三餅を、小さく切りて煮たるものを、砂糖糖なすにて固め、きな粉にてまぶしたる菓子。
 てんちゆう 図 天中節。 陰陽家の語。五月五日の端午の節。
 てんちゆう 図 天女。 あまつをさめ。あまびこ。天人。
 てんちゆう 図 批點。 批難を受く。
 てんちゆう 図 點付。 漆繕い、點點あるもの。
 てんちゆう 図 はじめより。 もじより。
 てんちゆう 図 天帝。 造化の神。かみ。造物主。上帝。
 てんちゆう 図 轉替。 くりかふること。
 てんちゆう 図 傳遞。 しゆくたぐり。つまづき。やまづき。
 てんちゆう 図 天朝。 みかど。朝廷。
 てんちゆう 図 點滴。 あまだれにたない。
 てんちゆう 図 圖圖。 一非常に忙しきたることをいふ。二喜びのあまり、茶糺す。
 てんちゆう 図 蝸牛。 虫の名。かたつむりにたない。
 てんちゆう 図 天天。 あたま。いただき。見供の語。
 てんちゆう 図 手拭。 てんちゆうにたない。見供の語。
 てんちゆう 図 轉帳。 ねがへり。ふしまるふこと。
 てんちゆう 図 轉傳。 つまづき。つまづきはらふこと。

てんちゆう

てんちゆう 図 兆鼓。 見供の玩ぶ太鼓。太鼓に、柄をつき、柄の左右に、糸をつき、糸のさきに、玉をつけ、柄をうちふりて鳴らすもの。
 てんちゆう 図 點點。 點をうちたるやうに、そちこちでもりみだれたるさまに云ふ。
 てんちゆう 図 蝸牛。 虫の名。てんちゆうにたない。
 てんちゆう 図 英國 Tent。 露臺のとき用ゆる天幕。多くは、つづくにつく。
 てんちゆう 図 恬。 さほり。心にもかけず。
 てんちゆう 図 天度。 てんの度數。經緯の度數。
 てんちゆう 図 田土。 てんちゆう。たはた。
 てんちゆう 図 纏頭。 歌舞なごせしものに、優美にしてあたふる、物頭、又は金鐘。はな。
 てんちゆう 図 點頭。 うなづくこと。
 てんちゆう 図 點燈。 こもし火をつくること。
 てんちゆう 図 轉動。 みだれさわぐこと。ふしまるふこと。
 てんちゆう 図 傳燈。 一傳燈大法師位、傳燈法師位、傳燈師位、なるの古の僧官。二佛敎の土官をつけ傳ふこと。三神佛の前に、晝夜、たえずともす燈火。常夜燈。
 てんちゆう 図 電燈。 てんきこうにたない。
 てんちゆう 図 傳統。 つたはり來たれるすずみち。その道をうけつたる系傳。
 てんちゆう 図 轉讀。 大部の經文を、所所、要領のつらみのみをつまみよにすること。轉讀。

てんきんじ 天徳寺。紙を外皮として、内によくうちたるを綿の代に入れたる蒲團。

てんきん 天閉。てんぶらそはを、玉子ごちになせるもてんきん 天井。井に飯を盛り、その上に、たれを注ぎて、てんぶらを、載せたるもの。

てんきり 天取。點取の多寡によりて、勝負を定むること。多くは、勝負なさにて行ふ。

てんきり 天取歌。點取のためによむ歌。

てんきり 天取文。點取のためによむ文章。

てんなん 天南星。草の名。高さ六七尺に至る。葉は、二枚づつ互生し、夏のはじめ、筒状の花を開く、後、實を結ぶ。根は、薬用に供す。

てんにん 天人。佛教の語。女の形にて、空中を飛行するもの。

てんにん 天女。天女の。

てんにん 天女。てんにんにたなじ。

てんねん 天年。定まれるいのち。天命。

てんねん 天然。たのづからなること。自然。

てんねん 天然果實。自然に生ずるくだもの。



(んにんて)

てんねん 天然痘。もがさ。はまきり。

てんのおみ 天網。一悪事の終に逃れ得ぬことを、天より、網をかかせられて逃ぐる處なきに譬へていふ。二鳥を捕るために、細き網糸にて作りたる網。かすみ。

てんのおめ 天眼。にちりん。日。太陽。

てんば 天馬。すげれたる馬。駿馬。

てんば 天播。ひろがること。

てんばい 天盃。天皇よりたまはる杯。

てんばい 天浦。すこしの間。ちよんごのま。

てんばい 天寶。またうり。

てんばい 天寶。寶貨すること。

てんばい 天寶。電信機にて通せしむる音信。

てんばい 天保。方法を傳授すること。

てんばい 天保。天保六年より通用す。青銅にて造り、形楕圓にして、中央に、方孔あり。當時、一枚を、百文にあつ。明治に至り、八十文に通用す、明治十八年、その通用を禁止す。二人まへの楕圓なき人。愚人。

てんばた 天旗。いかにほり。たご。奥羽の方言。

てんばた 天畑。田ご、畑ご。

てんばち 天詩。てんばちの轉。

てんばつ 天罰。天のこがめ。神のいかり。「こご。

てんばつ 天罰。漢字の四圍に圈をつけて、四聲を分つてんばつをき 天傳法燒。經、論なきを燒きたる料理。

てんびん 天日。太陽の光線、また熱度。

てんびん 天秤。一權衡の一種。兩端に、皿を吊し、一方へは、物を入れ、一方へは、分銅をのせてはかるもの。二釣鈞を、一本の糸の左右に、一個づつ附けて用ゐるもの。三天秤の器。四事を、兩端にかまふること。

てんびん 天品。うまれつき。異性。

てんびん 天品。しちもつ。しちぐさ。

てんびん 天秤棒。荷を、兩端にかけて荷ふ棒。

てんびん 天平草。もみぢはを、柿色に染め、不動の像、唐草、天平十二年八月迄の文字を、模様によくすりいだしたるもの。

てんぶ 天賦。うまれつき。天稟。

てんぶ 天賦。ころもこ。

てんぶ 天賦。そへくはふること。たすこと。

てんぶ 天部。佛教の語。諸天の部類。

てんぶ 天部。かつぶしを、細かにかきて、醤油、味淋にて煮しめたるもの。

てんぶ 田夫。みなかもの。野老。

てんぶ 田風。あまつかぜ。かぜ。

てんぶ 天覆。ひっくりかへること。くつがへること。

てんぶ 天覆。天の覆ふかぎり。あめのした。

てんぶ 天覆。甕に入る品物。しちもつ。しちぐさ。

てんぶ 天覆。よみみたるもの。水飛なして、底に張りたるもの。沈物。

てんぶ 天聞。天皇の御耳に入ること。天聽。取附。

てんぶ 天傳聞。人づてにきくこと。またきき。

てんぶ 天電文。電信の文。電信の文句。

てんぶ 天澱粉。一水飛して、底によみみたる粉。二こなになじ。

てんぶ 天鉄羅。一魚介なりの肉に、こねたるうらん粉の衣をかけ、油にてあげたるもの。二天越通商の器。三金器に、金銀の色をつくる方法。四見かけのみ立派なる人。

てんべい 天兵。天皇に直隸する兵。

てんべん 天邊。一大虚のかぎり。そらのはて。二かしらのうへ。あたまのうへ。

てんべん 天轉變。一天然の轉事。風、雷、洪水なきの類。二つりかへること。

てんべん 天嶺邊。いただき。てんべん。

てんべん 天電報。いなびかりにたなじ。

てんべん 天典謀。のりこすべき調。

てんべん 天展墓。はかまわり。

てんべん 天田圃。たはた。田畑。

てんべん 天手棒。腕の、腕を失ひたる人。

てんべん 天手棒。えびの一種。手の、一方は大に、一方は小なるもの。

てんべん 天手棒。蟹の一種。鹹水に産す。色赤く、はさみの一方は大に、一方は小なるもの。

てんばく 賭博。つまづきたるもの。つら。
てんばく 賭博。己れより外に優れる者なきが如くほころぶ。ひかりじま。

てんばく 賭博法。一無縁にて芝居、又は見世物等を見るもの。二佛法を傳ふるもの。

てんばく 賭博法。いさみはだにたなじ。

てんばく 賭博法。佛敎の語。邪を辟き、正を開きて、佛法に在るもの。

てんばく 賭博。人を、悪道に誘ふもの。妖魅。

てんばく 賭博。一宿場にて、公用のために出だす馬。二てんばく 賭博。てんのみみにたなじ。一傳馬松の馬。

てんばく 賭博。宿驛より、宿驛へつぎ送るもの。

てんばく 賭博。一天井にはる幕。二野宿をなす時、用ひるもの。

てんばく 賭博。はじめをはり。首尾。

てんばく 賭博。光線をこり、また烟なきを出ださんがために、屋根に開けてあるもの。

てんばく 賭博。荷物の運送をなすためのはしけ。

てんばく 賭博。伏見天皇の頃、下野國安蘇郡天明よりいたし、鑄製の茶。茶人は、殊に珍重す。天福茶。

てんばく 賭博。天皇の御みやく。

てんばく 賭博。よあけ。あけがた。

てんばく 賭博。自然の結果。たのづからのうん。やくそく。

てんばく 賭博。こころつけをするもの。

てんばく 賭博。からみつくもの。まごひつくもの。情緒の長きもの。

てんばく 賭博。たのたもて。たづら。

てんばく 賭博。一抹茶に用ゐる茶碗の一種。支那建安の天目山の産にかたまりたる茶碗。

てんばく 賭博。一上帝のいます天上の門。二日月の出入するところ。

てんばく 賭博。日月、星辰、風、雨などの天に羅列してあるもの。

てんばく 賭博。天文を研究する學問。

てんばく 賭博。天體を觀測するために築きたる、高き塔。司天臺。觀象臺。

てんばく 賭博。草の名。葉は、杉のに似たり。夏季小き白花を開き、後、黒き實を結ぶ。根は、長さ二三寸にして、その色、黄なるもの。白きものあり。藥用とし、また砂糖漬となす。

てんばく 賭博。陰陽寮に屬して、天文を觀測し、災變の有無を豫知することを司りしもの。

てんばく 賭博。一商人のみせ。二飲食物をうるみせ。

てんばく 賭博。はたけ。のら。

てんばく 賭博。一料理屋。

てんばく 賭博。やくがへ。やくがはり。一しもの。

てんばく 賭博。古、中務省に屬して、かぎをつかさどり

てんばく 賭博。古、宮内省に屬して醫藥のことをつかさどりし役所。

のねにた きてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

てんばく 賭博。料理屋にて作りたる食品。

てんばく 賭博。われがちに遊んで。

てんばく 賭博。たもねりへつらもの。こころ。

てんばく 賭博。天のあたへ。天より授かりたるもの。天

てんばく 賭博。くりかへ。ゆづり。

てんばく 賭博。かぜにたなじ。

てんばく 賭博。つたへきたるもの。うけつき。

てんばく 賭博。らうか。ほそもの。

てんばく 賭博。陰陽寮の吉日とする日の一。

てんばく 賭博。正月元日の異名。

てんばく 賭博。天皇のみをなせたまふもの。祝賀。

てんばく 賭博。物を陳列して見るもの。

てんばく 賭博。つぎつきに見るもの。

てんばく 賭博。いかにたなじ。

てんばく 賭博。物を陳列して、衆人に見するもの。

てんばく 賭博。天のみち。天の道理。

てんばく 賭博。金を貸すに、期約中の利金を、最初に、まづ元金よりひき去るもの。

てんばく 賭博。むらぎにたなじ。

てんばく 賭博。ほろはしつくすもの。

てんばく 賭博。神道敎會の一派。

てんばく 賭博。うまれつき。

てんばく 賭博。無縁の中央にある、公用の書櫃。

てんばく 賭博。自由に能轉して、大部の書の間覽に便す。

てんばく 賭博。かてを運ぶもの。兵糧を運ぶもの。

てんばく 賭博。一天皇の御領地。二徳川時代に、然して、將軍の領地。

てんばく 賭博。天皇のたはしめし。祝賀。

てんばく 賭博。一きしき。さばふ。二儀式を司る役。

てんばく 賭博。命令を、傳ふるもの。

てんばく 賭博。山野にかりするもの。かり。狩獵。

てんばく 賭博。みなかみち。

てんばく 賭博。電話器械によりて、遠方の人と、互に談話するもの。

てんばく 賭博。大日本國に君臨したまふ主。みかろ。天子。

てんばく 賭博。佛敎の語。一天部に屬せる神。二特に、牛頭天王の稱。

てんばく 賭博。天皇陛下の行幸なごの時、先驅に揚ぐる旗。赤地に、金の菊の紋章をあらはす。

てんばく 賭博。天狗をいふ。駿河國靜岡の方言。

てんばく 賭博。草の名。青葉の一種。蘇津國天王寺村より産す。形、極めて、大きく、味よし。

てんばく 賭博。太陽系中の第七位にある行星。八十四年にして、太陽を一周す。

てんばく 賭博。選信省に屬し、四方の電報線をつつめ、柔道に應じ、指定の電話線へ接續せしむることを取り扱ふ役所。

ををわわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

てんわき 電話機。遠隔せる地へ、細線をひき直し、電
氣の作用により、互に談話を通ずる器械。

てんわ 天位。天皇のみくらゐ。

てんわ 天威。天皇の御威光。威威。

てんわ 天爲。天のしわざ。天然の結果。

てんわ 田園。田舎、そのうち。

てんわ 点汚。よごれ。けがれ。しみ。

てんわ 手前。てまへの駈。

てんわ 手前勤。自分勝手のかんがへ。

てんわ 庸醫。へたなる醫師。やごごしや。

てんわ 匠。うまひの師。

てんわ 匠師。職員のしつての技術なき職師。

てんわ 匠手。匠手さむらひ。手を休むらひまなく。

てんわ 匠手持。匠手のしりあひかひ。手のこなし。

てんわ 匠手持不沙汰。なすけなくしてつれ
づれなるもの。無聊。

てんわ 匠手纏。つたなだ。もつた。

てんわ 匠手元。てんわきこころ。手の届くほどのところ。

てんわ 手戻。元へ戻ること。あともどり。

てんわ 出戻。一たび嫁し、又は家出したる家を辭し
て、わが家に歸り居ること。

てんわ 無手。たやすく。容易に。

てんわ 手脆。もろく。はかなく。

てんわ 手様。てまねにたなじ。

てんわ 出様。てまね。いづるかたち。

てんわ 出養生。自宅を離れて、他所にて養生す
ること。

てんわ 手様話。手真似にて、話をなすこと。臨な
しのなすわざ。てはなし。象談。

てんわ 手槍。てころのやり。柄の短き槍。

てんわ 出湯。地中よりわきいづる湯。いづも。温泉。

てんわ 手斧。小さき斧の。まきわり。

てんわ 手弱。俗にてよわい。するごとくよわして
はなす。

てんわ 寺。一佛をまつりたく家。精舎。伽藍。蘭若。梵刹。
二三井寺の略。

てんわ 寺入。寺小屋へ入學すること。

てんわ 寺請状。徳川時代に、切支丹宗を禁ず
る便法として、宗門あらためのため、人民の戸籍に添へて、そ
の領那寺より奉行所へ届けたる證文。

てんわ 寺子。てんわきやに入學して居る見供。

てんわ 寺小姓。住持の位に仕ふる童子。行童。
童童。

てんわ 寺籠。念佛のために、寺に籠り居ること。

てんわ 寺子屋。徳川時代に、見供に、漢語、習字など
を教ふる家の御。

てんわ 寺街。てんわにたなじ。① 眞茶集「てんわ
てんわの寺街の人のあひまがめや」

てんわ 寺主。寺のかしらたちたる位僧。

てんわ 寺照合。俗にててんわきせきせき。二つ
の物を見合せてくくらふ。見あはす。

てんわ 寺證文。てんわきせきせきにたなじ。

てんわ 照。一物に、光を興ふ。二つてんわきせきにた
なじ。

てんわ 寺司。寺をあづかれる僧。

てんわ 啄木鳥。鳥の名。嘴極めて長く、端する
多し。舌は、嘴よりも長く、頭は、黄白色を帯びて、赤黒き斑點
あり。體にて、木をつついて、中の虫を食ふ。

てんわ 輝輝。光りがやく状にたなじ。

てんわ 寺納豆。寺より、飯粒に、檀家へ贈るは
なまな豆。薄き板を、三角にをりて、その上に盛る。

てんわ 街。てんわにたなじ。

てんわ 街。他人にほこる。てんわきせきせき。

てんわ 寺参。自分の菩提寺、また親族、知己の墓あ
る寺に参り参ふこと。墓参。

てんわ 寺参。自分の菩提寺、また親族、知己の墓あ
る寺に参り参ふこと。墓参。

てんわ 寺参。自分の菩提寺、また親族、知己の墓あ
る寺に参り参ふこと。墓参。

てんわ 寺参。自分の菩提寺、また親族、知己の墓あ
る寺に参り参ふこと。墓参。

てんわき

てんわき

てある 國國照。 きらきらと映す。
てある 國國出。 いよいよあらはる。現す。
てあるかみ 國照鏡。 ますみのかがみにたなじ。
てある 國海松。 海草の名。みるにたなじ。
てある 國照妙。 つやある絹布。
てある 國照坊主。 てりてりはうすに同じ。
てある 國照處。 ひなたをいふ。下野國栃木の方言。
てある 國 柔儒なる人。 したらのなき人。
てある 國 運船。 てたれれす。
てある 國 色にて。 したらなきまじいふ。
てある 國 手練。 はかりに。てくだ。兼置。
てある 國 手練手管。 てたれにたなじ。
てある 國 興がさむ。 二已よりまじりたる人、傍に居るために、心にははかる。
てある 國 手渡し。 相互の手より、手へ受渡すこと。
てある 國 出居。 まじき。客を通す間。
てある 國 出居侍従。 常に奉仕する侍従にさ
 はりあるとき、臨時に、地下より呼び任する侍従。十して、
 御座候のときならにあり。

てある 國 出居少將。 のりゆみの節會ならあ
 る時、髪を帯し、弓矢をもち、出御のさまをたぶ人。
てある 國 回合掌。 手のひらを合す。
てある 國 回出手。 そのこころに關係す。かかりあふ。
てある 國 回打手。 手と手とをうち合せて、音をたつ。拍
 てある 國 回負手。てきすをうく。負擔す。
てある 國 回搔手。 手を以て、相國をなす。
てある 國 回下手。 しはじむ。兼手す。
てある 國 回手桶。 手にさぐるやうに透りたる桶。
てある 國 回手桶番。 月經をいふ。兼町の方言。
てある 國 回下手。 てきすにたなじ。
てある 國 回揉手。 手と手とをあはしてする。
てある 國 回束手。 他人の事を見聞しながら、しらぬ顔
 をす。傍観す。
てある 國 回突手。 屈し従ふ。あやまる。謝罪す。
てある 國 回着手。 てをつける。主、下婢に通す。
てある 國 回盡手。 力のさくだけなす。心の限り考
 へ。出来得るかぎりの手段を行ふ。
てある 國 回作手。 手あはす。
てある 國 回手踊。 一手のみ動かして、坐しながら躍るを
 いう。二凡て、簡潔なるをいふ。
てある 國 回拔手。 はぶく。簡潔になす。
てある 國 回濡手。 はねをさやに。むなにて。袖手
 して。

のねにな てつちた そせすしき こけくきか たえういあ

と

てある 國 回紙手。 カを出さんとして、手につはます。
てある 國 回手斧。 大工の用ゐる具。あら木を、鉈のかけ易
 きやう、平に削るに用ゐるもの。
てある 國 回手斧目。 手斧にて削りたるあて。
てある 國 回手機。 やりそこなふ。仕損す。
てある 國 回分手。 人を、それぞれにくはる。配置す。
てある 國 回折手。 ものを數ふるとき、ゆびをかがむ。
 五十音圖中、多行第五の音。舌音の一。上唇に
 擦せしめたる舌頭にて、氣息を少時支つて發音
 に舌頭を放ちて發す。

か

てある 國 回徒。 こもがら。なから。やから。漢。
てある 國 回土。 一五行の一。つち。二その土地。その國。
てある 國 回賭。 勝負事に、かけをす。三。期國國國かけこ
 こを行ふ。勝負の金を指す。
てある 國 回藤。 植物。さしの器。
てある 國 回度。 一云ひりたる詞をうけて、更にひひりくる辭。二
 こもにたなじ。三物事を、二つ比入ていふ辭。四。國語調を
 強むる辭。國のやつに。ごあれは仕方なし。國語他
 語を、調直にするに用ゐる。
てある 國 回所。 ところ。その場所なごの意。
てある 國 回度。 一はさ。かぎ。二ものさし。尺度。三ころ。時
 代。國語 一角度、温度なごを計るに用ゐる。三事を行ふ數を
 示すに用ゐる。たひ。回。一。國語國語 一佛敎の辭。濟
 度。二俗人を指す。
てある 國 回奴。 やつ。こも。漢。
てある 國 回魚。 小魚を捕ふる具。形、圓筒狀にして、元は太く、先
 はすはまり、智き口ありて、竹にて作りたるもの。茶。
てある 國 回琴。 いしゆみにたなじ。
てある 國 回離。 ちよにたなじ。
てある 國 回遠後。 こほあさの意。
てある 國 回度合。 けあひにたなじ。
てある 國 回投網。 漁りに用ゐる網。投ぐれば、圓錐狀をな
 して、水面をわたり、沈むやうに作れるもの。
てある 國 回鳥網。 こりあみの意。

をさわわ られるり の よゆや もめんむみま はへふのは

あつらひ 都邑。みづこみなか。
あつらひ 大息。暫時、呼吸をためて、後につく息。たぬい
あつらひ 砥石。こになじ。
あつらひ 戸板。一戸を、板に代用して、物を載せる場合に
 用ふる。二魚の名。戸板平目の器。
あつらひ 板平目。魚の名。ひらみに似て、は
 なはだ大なり。日本海に産す。
あつらひ 下。上ごいふ字の略語。「上等なるもの」。
あつらひ 人。たゞし。情人。
あつらひ 何奴。なにやつ。そのもの。賤。
あつらひ 外出。戸外へ出づること。
あつらひ 土硫黄。ゆのはなになじ。
あつらひ 頭。一藏人のかみの器。二組合、組合ならに、左右
 の頭なる人。三 團圓。團圓の数を示すに用ふる。
あつらひ 團圓。竹の器。舞踏地方に生ず。團に似て、菓生なり。
 皮、肉、共に種々の細工に用ふる。
あつらひ 團圓。茶だちて、花を生ずるもの。
あつらひ 團圓。句の小なるもの。
あつらひ 團圓。二十八宿の一。西方にあり。
あつらひ 團圓等。しな。くらら。階級。團圓同種類、又は異種類
 にかかはらず、他々異して、その内の二三を擧ぐる時に用ゐ
 る。なんじ。など。
あつらひ 團陸下。殿下の御側を申す。茶中の語。
あつらひ 團杜宇。鳥の名。ほしにさすにたなじ。

あつらひ 團。一動時の首、手足を除去したる部分。身幹。
 二 頸、又は解剖道具の柄を被ふ部分。三 轉じて、凡て、物の中
 腹の部分。
あつらひ 團筒。双六博奕などの骰子を入れる筒。④
あつらひ 團銅。鑛物。あかがねになじ。
あつらひ 團童。わらふ。こらふ。わらふ。こらふ。
あつらひ 團同。同じき、等しきなどの意を示すに用ふる。
あつらひ 團如何。さうやうに。いかに。なにぞ。いかに。
あつらひ 團東夷。あつらひ。
あつらひ 團同意。「たなじ」ころ。意見の同じきこと。二
 同じ意味。同義。
あつらひ 團桐油。こつゆになじ。
あつらひ 團同友。ともだち。とも。
あつらひ 團統一。すくく。こらふ。
あつらひ 團銅印。銅にて造りたる印。
あつらひ 團凍雨。冬ふり雨。
あつらひ 團東雲。しのめになじ。
あつらひ 團凍雲。雪もやらの雲。
あつらひ 團動搖。ふるふる。ふるふる。ふるふる。二
 ぶらぶら。揺動。
あつらひ 團童謡。一 見供の唄と歌。二 はやううた。
あつらひ 團童幼。わらふ。こらふ。
あつらひ 團同音。聲音の同じきこと。

あつらひのな ごとつらた そせすしる こけくきか ぶえういあ

あつらひ 團登選。天皇のかむさりますこと。前例。
あつらひ 團燈下。しもしひのま。燈火のほし。
あつらひ 團燈蛾。虫の名。ひらみに似たなじ。
あつらひ 團凍餓。ハリネツツ。ハリ。
あつらひ 團。いかにやうに。何ぞか。二 何ぞや。何ぞや。
あつらひ 團東海。東の方向にある海。
あつらひ 團燈蓋。あつらひ。こになじ。
あつらひ 團東行。東國へ行くこと。
あつらひ 團投稿。新聞雜誌などに、原稿を投寄すること。
あつらひ 團同行。共に行くこと。連れなす行くこと。
あつらひ 團銅坑。銅を掘り出たすな。二 鑛坑。
あつらひ 團登閣。一 内閣へ出願すること。二 階級がらに
 上ること。同じ資格。等しきことあり。
あつらひ 團同學。同じ學校、又は家塾にて學問すること。
 また、その人。同窓。同門。
あつらひ 團。いかにやうに。何ぞか。二 何ぞや。何ぞや。
あつらひ 團。いかにやうに。何ぞか。二 何ぞや。何ぞや。
あつらひ 團統轄。すくく。こらふ。支配。管理。
あつらひ 團胴金。刀の鞘、又は銃砲の筒の、鑛源、木漆
 の接合するところにはむる、鑛の如き金具。
あつらひ 團統合。すくく。こらふ。
あつらひ 團投合。互に意氣の命とこと。二 何ぞや。
あつらひ 團等閑。なほさうなること。わらふ。こらふ。

あつらひ 團冬瓜。しらべの歌。
あつらひ 團胴籠。虫の名。すくく。こらふ。
あつらひ 團團疾。以前より。かたてより。
あつらひ 團投寄。投寄すること。
あつらひ 團投棄。なげす。こらふ。二 何ぞや。
あつらひ 團投機。機につけ入りて、進退すること。かけひ
 物體の、高くなること。
あつらひ 團騰貴。法律の謂。地所、家屋、船舶等の賣買、質
 入等をなす時、登記所の登記簿に、その事件をしるすこと。
あつらひ 團登記。法律の謂。地所、家屋、船舶等の賣買、質
 入等をなす時、登記所の登記簿に、その事件をしるすこと。
あつらひ 團冬季。冬の季節。冬の頃。
あつらひ 團動悸。血の循環弱くなるために、心臓の鼓動
 する。こらふ。こらふ。
あつらひ 團同氣。同じ心。同じ氣質。
あつらひ 團同着。冬、上着、靴などの同じ着る。履まうの
 義。義場にて、後かに意見を出さうこと。
あつらひ 團同義。同じ意味。たなじわけ。同義。
あつらひ 團同徳。同じ徳。同じ徳。
あつらひ 團投機業。機を察して、かけひきをする事業。
あつらひ 團投機商。つらひ。相場師。
あつらひ 團登記所。登記に関する事務を取り扱ふ役
 所。こらふ。こらふ。
あつらひ 團同級。上下の等。くらむ。きた。しな。階級。
あつらひ 團同級。同じ階級。同等。

あつらひのな ごとつらた そせすしる こけくきか ぶえういあ

同登記簿。登記所にて取り扱ひたる事件を登記するもの帳。
同同衾。一つ夜具の中に二人寝ねること。「ね。」
同同勤。同じ仕事を勤むること。
同同郷。郷里の相同じきこと。
同同行。一相伴ふこと。道つた。同伴。二已つた。同行者。
同童形。昔、貴人の子弟の、元服前の姿。
同東京錦。からにしまし織地の白き織物。
同統御。すべをさむること。「さ。」
同同居。同じ家に住みあふこと。一語に住せしむる。同居。
同登極。天子の位に即かるること。
同東宮。皇太子のまします御殿。二轉じて皇太子を申す。
同東宮職。宮内省に屬して、皇太子のこころを司る役所。
同東宮坊。古、皇太子のこころを司りし役所。「坊官。」
同燈火。こもしびにたなじ。
同燈花。すべらじ。すべらじがしら。
同燈畫。光線的作用を假りて、油畫にそがきたる物を、實物の如く見せるもの。
同冬瓜。草の名。瓜は、西瓜に似て、色青く、皮

に白粉をつく。春の末に、苗を生じて、夏秋の交、實をさす。食用として味淡し。
同銅貨。銅にてつくられたる貨幣。「り。」
同同化。かり物の、この物の中に、全く融化する事。
同等外。一級等の外なるもの。二等外官の事。
同外官。列任官の下に位する小官。
同銅鑛。あかがねのあらがね。
同統括。すべくくること。總括。統一。
同藤花宴。古、藤花の時に、行はれし朝廷の宴會。
同同家。同じ家。同じいへす。同族。
同統系。けいけいになたじ。
同燈檠。こもしびを載する臺。
同統計。ものこころの部類をわけ、逐一、その狀況を調査して、統合せ、開覽に便なるやうにしること。
同統計學。統計に關する事からを研究する學問。
同同穴。一死にて、同じ穴に葬らるること。二同じ家。同じすまひ。
同同穴。ほらあな。ほら。
同同月。同じ月。その月。
同洞見。みすかすこと。
同同權。互に同じき權利。同等の權利。

のねにな ごとつらた せせすしき こりくきか たえういあ

同銅鼓。銅にて造りたるつづみ。
同銅桶。をけをいふ。常陸國の方言。
同銅壺。銅にて造れる壺にて、すへて側火氣を利用して、水、酒などを温むるもの。
同頭垢。毛髪の中に生ずる垢。ゆけ。
同筒口。つづみ。すべらじ。
同瞳孔。ひとみ。
同同工。木なじたくみ。
同東國。箱根より東の國。關東。
同同哭。大に悼みかなしむこと。痛哭。
同同國。木なじくこと。ひとづくこと。同郷。
同同痘痕。もがさのあこ。あはた。じやん。
同同根。木なじねむら。
同同差。二つの物の間のちがひ。差別。
同同動作。たぢみ。ふるまひ。舉止。舉動。
同同砂。成分は鹽化あんもにちにして、色は、黄白の二種あり。味は、酸く、且つ強し。
同同攀水。一明礬を溶かしたる水。二礬。明礬を和合せるもの。紙に敷きて、墨汁、繪具などの浸染するを助す。
同同座。同席に座すること。
同同動座。貴人の、座を他へ移しかつること。
同同登載。かきのするもの。記載するもの。

同東西。「東。西。あなたこなた。二身。一。〇。枕草紙。袖をさらへて、さうさいせさせす。三。探。又は、みせ物なごにて、四方の見物人の、鳴りを鎮むるために唱ふる語。〇。
同痘瘡。はうさつになたじ。豆瘡。
同凍瘡。しやけになたじ。
同瞳相。はたじるしになたじ。
同銅像。あかがねにて造りたる肖像。
同攀水紙。もがさをひきたる紙。
同東作。たづくり。體作。
同同作。「木なじづくり。同様の造りかた。二同じ人の作。作者のたなじきこと。
同洞察。みくほすこと。みわくこと。洞見。
同父様。おやさま。見供の語。
同燈臺。あがらになたじ。
同動産。法律の語。家財、遺具などの如く、移動し得べき財産の總稱。
同銅山。銅鑛を出したる山。
同凍死。こらえになたじ。
同杜氏。酒を醸す人。さかづらじ。桐見。
同冬至。二十四節の一。太陽が、赤道以南の、最も遠きところ、即ち冬至線に至れる時の節。
同刀自。にじになたじ。
同瞳子。ひとみ。目珠子。

をえわわ ろれるりり よゆや もりんむみま ほへふひは

同動詞。動作をいひあらはす語。その語尾、常に變化す。

同動止。一動くと止まること。二とるまひ。舉止。

同士。つれ。なにか。同志。

同童兒。こころ。わらへ。童男。

同時。たなごころ。ひらひら。

同動辭。語尾の變化する助辭。

同字。たなごころ。ひらひら。

同士軍。たなごころ。ひらひら。

同銅臭。一銅のにおひ。二金臭。かね。

同舟。同じ舟に乗ること。のりあひな。

冬至梅。木の名。梅の一種。他の梅に先だす。冬至の頃に、花の開くもの。

童子格子。格子織の疎く大きき模様。

冬至線。赤道以南の最遠にあり。既定し。

同質。たなごころ。ひらひら。同姓。したる想像の縁。

同室。たなごころ。ひらひら。

如何にして。何して。

冬至梅。木の名。ツツジに似た花。

燈心。ツツジの類。

燈心蜻蛉。虫の名。蜻蛉の一種。形小さくして、羽、茎かに小さく薄きもの。

燈心。燈火をさますために、油に浸して燃すもの。多く、あぶらの心を用ゐる。

同投身。みなげ。入水。

同等身。人の體軀と同じ高さ。

同心。一心を同じくすること。同志。同意。二徳川幕府の時、奥力の下に属して、匪徒を捕ふることを司りたる役。

同仁。一般になさげをかくること。「密の友。

同人。同じ志の人。二同門の人。相弟子。同。

燈心草。油皿の中の燈心を抑へ、又は掃き立つる具。銅鏡、又は瀬戸物なうにて造る。

燈心草。草の名。ほそみにたなご。

同縮。一紅、又は革の、珠を帶。端に、金具ありて、縮むるやうにせるもの。二他人の關係を、力まかせに、緊しくしめて苦むるもの。

同膽寫。書き寫すこと。寫しつること。

同車。車にあひのりすること。

同銅砂。あかがねのくづ。

同凍傷。しもやりにたなご。

同騰驤。馬はわあがること。

同銅章。銅に鑄りたるしるし。銅印。

同同性。性の等しきこと。たなご。同質。

同情。自他、利害を共にし、隨ひて、同感を起すこと。心の性の作用。

同磁砂精。磁砂の、磁器をまうたるもの。

のねにた ごとつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

同種。同じたぐひ。たなご。同類。

同投宿。旅さきにて宿泊すること。旅宿に入ること。

同東監子。あつまわらはにたなご。

同投書。文書を寄送すること。

同東司。かはや。せつらん。便所。

同投。一たなご。なご。なご。二あたご。いかなす。三ついでにたなご。

同同。同意す。賛成す。くみす。

同動。一ものしりに動きて、心動く。二動様。つよきたりに動様。

同同。同じかや。數の同じきこと。

同燈心。ツツジの類。

同燈心蜻蛉。虫の名。ツツジの類。

同爲何。たなご。いかにせよ。

同投水。水中になごこと。

同同。ついでにたなご。

同冬青。木の名。まきの木にたなご。

同東井。二十八宿の一。ちちり。井宿。

同動靜。一動く。靜かなること。二静なること。三静。静。静。

同同棲。住居を同じへること。

同同性。性氏の同じきこと。

同銅青。あくしやうにたなご。

同瞳晴。ひらひら。

同同勢。共につれたち、又は從ひゆく人。

同洞簫。堅に吹く笛の一種。

同凍石。らふせきにたなご。

同同席。同じ席に坐すること。席を同じへること。同坐。

同登仙。一仙人となりて、天空に登ること。二天子、又は太上天皇などの、脚御し給ふこと。

同燈船。つらみやうせんにたなご。

同東漸。次第に、東の方に進みゆくこと。

同銅線。銅のひらがね。

同銅鏡。つらみやうにたなご。

同同船。一同じ船。ひらひら。二同じ船に乗ること。

同同前。寄てありて、事と同じきこと。

同投扇興。臺の上に、扇形の物を置き、四五尺ほど離れて坐し、扇を振り、臺の上の物を落して、その着しかたによりて、優劣を判する遊戯。

同登祚。天子の、位に即せ給ふこと。即位。

同屠蘇。たなごにたなご。

同何卒。ひたす。たなご。同。同。

ををわ りるり の よゆや もんむま へふひは

同窓 同窓。同じ學校、又は同じ師に就きて、學ぶこと。また、その人。學友。同學。

同族 同族。うから、やから。

凍餃 凍餃。うま、且つ、こぼる。凍餃。

燈臺 燈臺。燈火をこぼす。上に燈臺をたき、油火を照らすもの。二しよくだにたなじ。三しよみやうたにたなじ。四かがみ。てほん。

登第 登第。きふだいにたなじ。

動物 動物。物理學の語。分子の集合の密ならぬもの。氣體、液體の稱。

童體 童體。兒供のかたち。わらへのすがた。

燈臺草 燈臺草。草の名。薄地に生ず。一莖、一葉にして、高さ七八寸。葉は互生し、春夏の際、四瓣の小きき、緑色の花を開く。鈴振花。

東道 東道。たちよるまひ。

同黨 同黨。同じくみの人。なかま。同類。

同道 同道。つれだちて行くこと。みちづれ。同伴。

同斷 同斷。相同じきこと。同前。「同行」。

木 木の名。葉は、互生し、春の末、葉狀の白き花を開く。秋、紅葉して、甚だ美なり。すしつじ。天馬。

統治 統治。すべをなすこと。

等軸 等軸。金石學の語。結晶體の軸の長さの、何れも等しいこと。

統治權 統治權。天下をすべをなす大權。

透頂香 透頂香。支那元の歸化人陳宗敬の傳へし

撞着 撞着。つきあたること。

取出 取出。こりいづの音便。

疼痛 疼痛。うづきていたげ。

洞通 洞通。わけさほること。

洞築 洞築。礎の下の地ならを築き固むること。地形つき。地固。

登程 登程。つまり。さうせ。到底。

透徹 透徹。すきまほること。

東天 東天。あかつきの空。よあけのそら。

登天 登天。天へ上ること。

東天紅 東天紅。曉に鳴く、鶴の聲。

父をいふ 父をいふ。越中國の方言。

東頭 東頭。寺院の先住。

頭疾 頭疾。こころの音便。

頭頭 頭頭。それぞれ。

同等 同等。同じ等級。ひしきこと。同類。

鑿鑿 鑿鑿。「大鑿の音の形容に、二鑿のたつ。音の形容に、よ。

浴海 浴海。水の流んに流るるさまに、いふ。

のねにば きてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

環舞 環舞。立ちながら、身を、つづりつづりに舞ふこと。

統治 統治。すべたすこと。すべくすること。

頭取 頭取。かしらだつ人。をさ。長。頭人。

胴取 胴取。博奕を行ふために、座を貸して、その料をとりよす。

問荊 問荊。草の名。すぎなにたなじ。

無動 無動。動く氣色なし。送答をする様子なし。

かきなり かきなり。十分ならずとも、何かかして、ごにかへ。

痲疾 痲疾。こころの音便。

凍乳器 凍乳器。乳をかたまらす器械。

頭人 頭人。一鎌金幕府の裁判役をする人。二かしよ。なま。頭取。

同人 同人。同じ人。ひごつ人。

童女 童女。をこめ。少女。

胴抜 胴抜。着物の胴のこころに、他の布帛をはきて、仕立てたるもの。下着なごに多し。「胴」。

同年 同年。同じ年。その歳の中。二同じ年齢。同

頭辨 頭辨。古藏人頭にて、辨官を兼ねたる人。

等輩 等輩。身分の同じきなかま。同後。同僚。同輩。齊輩。

同輩 同輩。一なかま。二年齡の同じきなかま。

銅牌 銅牌。銅にて製したるた。

東方 東方。東のむき。

同胞 同胞。一同胞の兄弟、姉妹。はらから。二轉じて、たなじ政府の下に生活する人。四海の内の人。

同房 同房。一わや。わご。園房。二轉じて、遊女のをる家。女郎屋。妓樓。

童坊 童坊。足利義隆の時に、その臣細川頼之、佳慶の徒を剃髮せしめて、將士の間に、周旋せしめしもの。義政の時、同朋の字に改めたり。

東方花園 東方花園。西洋人の、わが國の山川の美を賞むる園。

銅鉢 銅鉢。佛事に用ふる鉢。銅にて造れる鉢形の鐘。論經の時、をりたり打ちならすもの。

頭髮 頭髮。かみのけ。

銅鉞子 銅鉞子。さびやうじにたなじ。

同伴 同伴。連れだつこと。相伴。こころ。まぢうた。同輩。

同藩 同藩。同じ藩中。同じ大名の家臣。

銅盤 銅盤。かなだらひ。銅にて造れる皿。

銅版 銅版。銅の板に、蠟を塗り、その上を、細き金にて、彫刻せんとする書畫の形をかき、その部分を、藥にてくさせたる版。

幢幡 幢幡。神佛の前に立つる旗。

銅版師 銅版師。銅版を彫るを業とする人。



ちほうこ

をえかわ られるり よゆや もめむみま ほへいひは

同字 銅版繪。銅版を用いて摺りたる繪。
 同字 橙皮。だいだいの實の皮。
 同字 同筆。同じ人の書きたるもの。
 同字 橙皮油。橙皮より搾取せる油。藥用とする。
 同字 豆腐。大豆を、水に浸して、碾き碎き、その液を煮て、にがしを加へ、壓迫して製す。純白にして味淡し。
 同字 頭部。かしの部分。
 同字 東風。わらはまひにたなじ。
 同字 豆腐滓。豆腐のからからさすもの。
 同字 胸腹。胸より腹に生れたること。はらか。
 同字 同腹。同じ人の腹に生れたること。はらか。
 同字 動物學。動物の構造、生活現象、外物の關係等を講究する學科。
 同字 動物園。種種の動物を畜ひたきて、人に見物せしむる園。
 同字 等分。ひとしく分つこと。平分。均分。
 同字 銅粉。あかがねの粉末。

同字 同文。同じ文字、又は同じ文章。
 同字 同震。物に怖れ、又は寒氣ならに、強く感じ、全身のわななくこと。
 同字 投票。いれよた。
 同字 痘苗。牛の痘より作りたる膿汁。痘瘡の材料とするもの。
 同字 等邊。等長の形。すべての邊の長さの同じき。
 同字 同邊。同じさまなること。同じほらあひ。
 同字 同母。會館なる人を嘲りていふ。まねけ。
 同字 同朋。ひとしほら。はらから。同腹。
 同字 同朋。一もたし。朋友。二武者の腹中にて、將士の雜役に使はるるもの。細懸して替刀す。三徳川氏の時、將軍の附近にゐて、雜役に服し、また將軍外出の時は、行列の先にたちて、進行するもの。
 同字 童僕。こもの。下等。
 同字 膳本。寫し取りたる書物。うづし。寫本。
 同字 膾炙。いんきん。大衆。兵隊。軍機。
 同字 童蒙。幼くて、ものごころに暗きもの。
 同字 桐卷。細長き袋。金子、隨身符などをに入れて、腹に巻きつけ、旅行する時などに携ふるもの。
 同字 桐滿聲。うづまんの聲。
 同字 桐魚。かじかをいふ。近江國の方言。

のねにだ きてつらた せせすしき こりくきか たいういあ

同字 胸丸。胸の左は骨なくして、屈伸し、右の脇にて合せ結ぶやうに造りたる錠。
 同字 燈明。神佛にたてまつる燈火。みあかし。
 同字 同名。たなじなまへ。
 同字 燈明船。燈を掲げて港に浮へたき、燈明燈の代用とする船。
 同字 燈明臺。一神佛にたてまつる燈火の臺。二海岸。又は海岸なごに、塔の如く築きて、上に燈火を點じ、夜中住みする。航海者に便するもの。燈光の色に、紅、白、青あり。燈臺。
 同字 動脈。心臓より出づる血液の、通行する血管。
 同字 藤席。藤にて織みたるむしる。
 同字 透明。すきみなること。
 同字 同盟。相ちかあひ。なかになご。
 同字 同盟國。同盟を約したる國。條約國。
 同字 透明體。透明なる物體。生地のこと。すきて見ゆるもの。
 同字 同盟罷工。申し合せて、一同、事業を停止するもの。
 同字 同苗。同じ苗字。同姓。
 同字 頭目。かしのをさ。
 同字 洞門。ほら穴の入り口。
 同字 同門。同じ師に就きて學ぶこと。相弟子。弟。
 同字 同夜。その夜。同じ夜。

同字 東洋。一亞細亞洲の東方諸國の總稱。(西洋に對して) 二支那人より、わが國をさしていふ。
 同字 同様。同じさま。たなじまやう。同腹。
 同字 同役。同じ役務を務むる人。同務。相役。
 同字 桐油。一在桐の實より搾り取りたる油。二桐油合羽の聲。三桐油紙の聲。
 同字 桐油紙。桐油をひきたる紙。防濕に用ひ。
 同字 桐結。まさむらにたなじ。Lo. 油紙。
 同字 桐窟。一窓の深きこと。二奇窟なること。非道なること。
 同字 藤葎。植物の蔓にたなじ。
 同字 銅鑼鼓。うづまのこたなご。
 同字 洞亂。革にて造りたる、横に長きたま鼓。こたなご。鏡。銅鑼。
 同字 動亂。世の亂れ動くこと。あまぎ。騒動。擾亂。
 同字 逗留。一留まりて進まぬこと。二留まりて進まぬこと。留。二旅にありて、暫く一所に留まること。留。留置。
 同字 登陸。高きところに登りて、下のありさまを見たること。
 同字 等倫。ひごなみのよのつね。一の頭領。
 同字 統領。人人を統御する人。衆庶に長たるもの。

をるわ るれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

さかひのり 棟梁。一家の、むね、うつけり。二階で、國家に重要な人物。柱石の臣。三工匠の頭。工師。四凡て、衆の頭目。かしら。

さかひのり 同侶。なかま。つれ。伴侶。

さかひのり 同類。たなじたぐひ。なかま。徒黨。一味。

さかひのり 同儕。來訪の人ありて、たのむ呼ぶさま。これに應ふる。さうやくにたなじ。

さかひのり 同列。一ひつならび。たなじつら。同班。同等。二並び行くこと。同行。同伴。同輩。

さかひのり 燈籠。火を照する具。種種の製ありて、竹、石、又は金属などにて造る。二動物。鶯の異名。「うぐい」。二たかしのこ上ること。二校様に遊ぶ。二河原に流すこと。

さかひのり 燈籠花。草の名。一あまにたなじ。二まんじゆしやびにたなじ。

さかひのり 東閣。公の帳簿に書き載せること。登記。

さかひのり 登位。皇太子の住ませたまふ家の門。

さかひのり 土曜。一七曜の一。二一週の終りの日。金曜日。の次の日。

さかひのり 度縁。古、佛法を學びえたる證として、官より賜ふ。木の名。幹も、葉も、樅に似たり。材たたく、理

こまかなり。つが。

さかひのり 都雅。しごやかなること。風雅。交雅。

さかひのり 渡海。船に乗りて、海をわたること。航海。渡航。

さかひのり 徒行。草の名。かんあふひにたなじ。からにてあゆむこと。歩み行くこと。

さかひのり 渡航。こかいにたなじ。

さかひのり 都講。一番弟子。登壇。

さかひのり 杜康。酒の異名。

さかひのり 左右。こかくの言使。

さかひのり 土豪。その土地のもの。

さかひのり 斗擲。擲にて、物を擲る時、量る物を擲る。平かにするたため高低をならす短き様。ますがき。かいら。

さかひのり 斗格。こかきにたなじ。

さかひのり 左右。こかきにたなじ。

さかひのり 兎角。こかくありて。こかくして。角。二こやくすれば。こやくすれば。

さかひのり 常陰。常に、日の陰なること。

さかひのり 常陰。虫の名。蛇より小さくして、長さ六七寸、四足あり。尾長くして、甚だ脆し。石垣などの隙に住み、鳥類を食ふ。その色によりて、青蛇、紅蛇などあり。鰻。こかひのり 常陰。鰻系を、頭黄がかりて染め、鰻系を赤く染めたる鰻色。

のねに な きてつちた せすしき こけきか たえういあ

さかひのり 國圖。浴。一こくるやうになす。こく。こけしき。二金匱を、火にて熱し、液體をす。こらかす。解。

さかひのり 國圖。解。頭髮のもつれをなはす。くしけづる。

さかひのり 國何方。柱の上に挿えたる、四角なる木。ますがた。料

さかひのり 兎窟。兎の毛、絲を織り交へたる織物。

さかひのり 國科人。罪を犯したる人。罪人。「いふ。こ

さかひのり 國十回花。こかへりの松の花。

さかひのり 國十回松。松は、百年に一回花開くこと。十回の松は、千年をすぎたる古松のいひにて、人等を驚かすに用ひる。こ。

さかひのり 國鳥同。鷹の羽が、鳥屋にてはたはる。こ。

さかひのり 國敏鎌。すまき鎌。

さかひのり 國土籠。土籠炭の略。

さかひのり 國土籠。一籠の蓋を開きて焼きたる炭。研

さかひのり 國外構。そごまがへにたなじ。

さかひのり 國外構。くるる戸の上の横木。

さかひのり 國告。俗に、こがめる。一怪みて問ふ。非難す。二徳つけて、敬衝を起し、若くは腹を痛さしむ。

さかひのり 國告。こがめること。勸事。非難。

さかひのり 國尖。こがらすにたなじ。

さかひのり 國尖。物の端を削りて、鋭くす。こがらす。

さかひのり 國鳥同。鳥を狩りたること。

さかひのり 國尖。さきの鋭き矢。

さかひのり 國尖。圓錐形の屋根。

さかひのり 國時。一月の移り行く間。光陰。二一晝夜を、廿四に分ちたる。その一。晝夜中より、晝夜中までの間を、午前とし、また晝夜中より、晝夜中までの間を午後とし、その間を、各、十二等分す。大陸際を用ひし頃は、一晝夜を、十二に割りし、晝夜中を九つ時といひ、八つ時、七つ時、順に數へて、四つ時に至り、また晝夜を、九つ時と稱して、前と同じくかぞへ、晝夜中に至る。三時よりの時代。四なり。こ。前時分。二一年を、四つに分ちたる。その一。季節。六曜りの時。時めくこと。ほひよきをなり。こ。こをえたる人。七その當時。こ。こはひ。

さかひのり 國齋。一僧侶の食事すこと。二寺のよるまひ。

さかひのり 國関。兩軍相對して、まさかへはたす時。關する。關を始むる合圖の聲。こきこ。鯨波。

さかひのり 國桃花鳥。鳥の名。形、鶯に似て、背に灰色に、翅の裏淡紅なり。鶯。

さかひのり 國伽。一賣人の側に待りて、徒然の相手なすること。また、それをなす人。陪伴。相手。二徳川氏の時に、將軍又はその世子の幼時に、側に待りて、相手する後備。三病に待りて、世話をすること。番病。



(きこ)

をるわわ ろれるり ちよや もめんむみま ほへふひは

五毒入 解毒部。古、刑部省に屬したる官。今の養毒判事の如き。大、中、小に分ち六十人あり。

五毒入 磨滅。磨きて、形を磨む。みがき入す。

五毒入 伽奉公。めかけはつらう。

五毒入 釋解。ほこすにたなじ。

五毒入 齋米。僧侶の食する米。ひじこめ。

五毒入 時申。茶庭に宿直するものが、亥の刻の始めより、寅の刻の終りまで、「とききの間」に、四度つつ、時刻をよぶ。

五毒入 磨水。こぎ物をするために用ゐる水。研刀水。

五毒入 兜巾。布にて造り、山伏の頭に戴き、紐にて頭を結ひつくるもの。その十二の房は、十二因縁にかたされるなり。

五毒入 鍍金。めっきにたなじ。

五毒入 茶藨。木の名。きびにたなじ。

五毒入 時榮。時めくさまを題す。

五毒入 時守。時を得たるさまにあり。さかろ。

五毒入 時屋。刀鍔、鍔なをこぎを業とする人。こぎし。

五毒入 讀經。經文を讀むこと。

五毒入 吐逆。いさういさう。もろすこと。

五毒入 波御。わたまし。出御。

五毒入 蠶魚。虫の名。しみむしにたなじ。

五毒入 度胸。物に畏れぬ心。きまたましひ。胸器。

五毒入 跡切。俗に「こぎれ」。往來なくなる。足たごたご。中絶す。

五毒入 解分。俗に「こぎわけ」。一こぎはなす。ほこす。二混亂したる事情をしまつす。

五毒入 時折。たまさか。こぎまき。

五毒入 徳。一人の道を、心にささり得たること。消徳。二徳を失ふ。はたらき。三めぐみ。いつくしみ。たかけ。恩徳。四富めること。福徳。有徳。

五毒入 得。物が物なること。利益。

五毒入 犢。牛の乳。こやし。

五毒入 解。一結ひたるものをほこす。二ほこせしもの。を解かす。三解らす。消す。疑をなくす。四散らしたるものを解かす。五罷む。免す。六俗に「こぎわけ」。一結ひしたる。二能めらる。免せらる。三解らす。消ゆ。散らさる。四ゆるやかになる。

五毒入 浴。水をしめて、ゆるぐす。二洗。三洗。俗に「こぎわけ」。水にまじりて、ゆるぐなす。

のねにな きてつらた そせすしき こけくきか たえういあ

五毒入 鉢。金銀を、火にて熱し、液體とする。ころかす。

五毒入 研。磨り磨きて、光澤を出さす。二砥にかけ、すりみがきて、鋭くす。ちんす。

五毒入 途。俗に「こぎわけ」。はたす。成積す。

五毒入 洵。磨りて、水に洗ふ。なす。よなぐ。洗ひ清む。

五毒入 毒。物の害となるもの。「ちんす」。

五毒入 獨。獸の名。形、猿に似て大きく好みて、猿を食ふ。

五毒入 退。のくの癖。東國の方言。

五毒入 中毒。毒のために病むこと。

五毒入 得意。一志を得たること。心に満足すること。二慣れ熟して居ること。えて。わはこ。三商家にて、常に賣りなれたる客。願主。花客。四心知りたる友。

五毒入 特有性。その物にかぎって持てる、他と異なる、ある性質。無有性。

五毒入 得意先。商家にて、得意とせる客。こぎれ。

五毒入 得意場。こぎれなさにたなじ。

五毒入 毒思。藥を服用するにつき、さしあひて毒にたなすもの。こぎれ。

五毒入 德音。仁徳あること。

五毒入 毒羊。草の名。こぎれにたなじ。

五毒入 土偶。土にて造りたる人形。

五毒入 土偶人。土にて作りたる人形。

五毒入 毒花玉木。木の名。毒あり。葉は、互生して、夏の初め、細小の花むらがり開き、後に、圓く區き葉を結ぶ。その色鮮紅なり。

五毒入 毒佳。木の名。あぶらぎりにたなじ。

五毒入 督營。總大將の居る陣屋。

五毒入 督役。作事なるをこぎれすること。監督。

五毒入 毒往油。あぶらぎりの質より搾り出したる油。

五毒入 特恩。特別のめぐみ。

五毒入 毒害。無藥を飲ませて殺すこと。毒殺。

五毒入 特效。こぎわけ著しきまきめ。奇功。

五毒入 篤行。人倫にあつきまもち。善き行狀。

五毒入 獨行。他の力をからず、自力にて、事をなすこと。學問に執心なること。「こぎれ」。

五毒入 督學。學事を監督すること。

五毒入 獨學。師友なく、ひとりにて學ぶこと。

五毒入 獨眼。かためくら。めっかち。がんち。片目。

五毒入 德義。有徳なる人。行のあつき人物。「佐眼」。

五毒入 德義。道徳上の義務。

五毒入 毒氣。生物の害になる氣。瘴氣。

五毒入 犢牛。き牛。こやし。

五毒入 毒木矢。鐵に附子の毒をぬりたる矢。殺虫人使用す。

をるあわ るれるり のよゆや もめんむみま ほへふひは

毒入 獨吟。一人にて、詩歌を吟誦すること。俗語に、つれづれなく、一人のみにて、三芝居の罪。長閑連中の筆頭の人のみ、一人にて、三芝居の罪。

毒き 讀經。佛の經文を讀むこと。

毒 特許。特別の免許。格別のゆるし。

毒 獨居。ひとり居ること。一人にて住むこと。

毒 毒口。他人の美をそくな言葉。あくたひ。悪口。

毒 德化。徳になつること。

毒 德惠。いつくしみめぐむこと。

毒 德教。道徳を本とせる教。

毒 毒消。中毒を消すこと。多くよけ。けさく。消毒。中毒を消す藥。消毒藥。解毒劑。

毒 得業。學業を修め得たこと。

毒 得業生。一そつげふせられたこと。維新の初めに、開成所にたかれたる助教。

毒 特權。その人に限りて有し、他にないなる權柄。特殊の權利。

毒 獨鈷。眞言宗の僧侶の持つ、銅製の執物。兩端の尖れるもの。その兩端の三叉なるを、三鈷といひ、五叉なるを、五鈷といふ。二鈷の形を重ねたる、舞臺などの飾り出し紋。三鈷家の調。かじをよの隠語。

毒 獨語。ひとりにて物ごつこと。ひかり。二擧途の言辭。

毒 砥草。一草の名。山谷、水邊に生ず。葉なくして、根より、數莖を發生す。幹中空にして、一寸餘毎に節あり。四時青くして、夏、莖を開く。乾かして、木骨を礎する用にす。木賊。二ごくさいるにたなじ。

毒 獨座。一人にて、すわり居ること。孤座。

毒 獨裁。帝王ひとりの意のままに、政事を行ふこと。擅斷。

毒 木賊色。木賊の莖の如き色、即ち黒はみたる綠色。

毒 得策。行ひて利ある計策。益ある謀。

毒 毒殺。毒にて、人を殺すこと。

毒 本賊草。厚さ一分半、又は二分の板を用ひ、兩面兩傍、木口、共に鉋にてけり、足を、平均一寸五分に差くもの。

毒 匿竄。かくれひそむこと。

毒 特賜。特別の賜物。特別のくだされ物。

毒 特旨。特別のたけしめし。殊恩。

毒 讀師。佛典を講ずる僧。

毒 篤志。あつきこころざし。切なる思立。

毒 得失。得るも、失ふも。利になるも、害になるも。損益。得喪。

毒 篤疾。たもき病。あやふき病。大病。

毒 特賞。なみだ罪なしたち。

毒 篤實。正直にして、親切なること。まめやかた。實心。

毒 得心。承諾すること。納得。合點。

毒 獨身。妻ひなきこと。ひとりみの單身。

毒 毒刃。やいば。かたな。

毒 土公神。つすまみ。にたなじ。

毒 獨參湯。氣附に、善しき効ありし湯。

毒 特赦。特別の赦免。恩赦。

毒 讀者。讀む人。よみて。

毒 毒砂。硫黄、砒、鐵より成り、黄色にして、砒なを製する原料なり。

毒 毒蛇。毒のあるへび。

毒 獨酌。相手なしにて、酒を呑むこと。てす。

毒 特殊。とくべつ。にたなじ。

毒 毒酒。毒をふくめる酒。

毒 讀誦。よみよみ。にたなじ。

毒 讀出。よみよみ。にたなじ。

毒 讀書。書物を讀むこと。ものよみ。書見。

毒 得色。得意の顔色。したりがほ。えたりがほ。

毒 特色。その物の、特に他に優れること。

毒 德政。一人民に、めぐみを施す政治。仁政。善政。二金穀及び土地の賣買、貸借を、無効にせしむる政令。鎌倉幕府の頭よりはじまる。

毒 特性。特別なる性質。

毒 德星。めぐたきしるの星。福星。

毒 特製。へつじたて。特別につくること。

毒 獨栖。ひとりすま。

毒 督責。厳しく催促すること。

毒 毒舌。よくぐち。

毒 特選。殊更なるえらび。特別の選擇。

毒 得選。一進まること。擧用せらるること。二古、馬子所に居せし女房。うねめの中より選まれたるもの。

毒 獨占。一人のものにする。ひとりじめ。

毒 德宗。鎌倉執權の頃、北條氏一族の總領たるもの。米地の稱。

毒 獨奏。一人にて、音樂を奏すること。

毒 督促。うながすこと。はたか。催促。

毒 特待。特別のもてなし。

毒 得道。佛敎の語。佛の道なきより得ること。二つくとしたにたなじ。

毒 德澤。めぐみ。恩澤。

毒 毒斷。病勢をたもくならず、恐あるため、ある食物を喰ふ、又は全く食はぬこと。禁食。

毒 得脱。佛敎の語。梵嚮を脱して、この世の苦難をのがれ得ること。

毒 毒斷。さくたちの稱。東京の語。

毒 戴草。草の名。春、莖根より生ず。高さ七八寸、葉、表は青く、裏は、淡紅なり。夏、四瓣の白花を開く。根は食へて、臭氣あり。羊麻草。

あだてに **図** 獨斷。己一人の丁見にて決斷すること。ひんりき。獨裁。

あだてに **図** 取草。草の名。きくたみにたなじ。

あだてに **図** 戸口。入りぐち。

あだてに **図** 積中。はこのなか。酒中。

あだてに **図** 毒蟲。むくむしにたなじ。

あだてに **図** 土窟。つちあな。ほらあな。つちのや。

あだてに **図** 毒突。悪口す。わるくちをいふ。

あだてに **図** 特定。殊更にきむること。特別のきため。

あだてに **図** 特點。その物の特に、他がはりたること。

あだてに **図** 特典。特別のたなじ。

あだてに **図** 圖簡。念を入れて。よくよくくくくく。しあつり。

あだてに **図** 得度。佛の道に歸依すること。濟度。

あだてに **図** 禿頭。はげあたま。

あだてに **図** 痼疾。きこく。

あだてに **図** 德徳。俗に「くくくく」。形こえへりてあり。

あだてに **図** 毒毒。俗に「くくくく」。一じかにむ。

あだてに **図** 關照。Doctor, 一はかせにたなじ。二じかにたなじ。

あだてに **図** 特。ここの。殊更に。別に。

あだてに **図** 疾。すてに。さきに。早く。

あだてに **図** 特任。特に、官に任すること。

あだてに **図** 徳人。富める人。有福なる人。①

あだてに **図** 特派。特にさし遣はさるること。特別に派出すること。

あだてに **図** 譚誘。うらみそしり。②

あだてに **図** 徳望。人望のあること。③

あだてに **図** 禿鬚。はげあたま。

あだてに **図** 特發。一病などの、他より傳染せよして、自發すること。二ある事件の爲めに、特に通信使者なるを發すること。④

あだてに **図** 尖杖。さきの尖りたる杖。⑤

あだてに **図** 積鼻禪。たぶらにたなじ。

あだてに **図** 禿筆。毛の切れたる筆。きれはて。⑥

あだてに **図** 特筆。殊更に、目だつやうに書くこと。

あだてに **図** 督府。總大將の居ること。

あだてに **図** 獨夫。妻のなき男。

あだてに **図** 毒婦。心あしき女。苦心のある女。惡婦。

あだてに **図** 得分。こりまへ。まうけ。みいり。利分。

あだてに **図** 毒分。毒の氣。毒のある部分。

あだてに **図** 得票。選挙なるにて得たる、投票の數。

あだてに **図** 特別。なみならぬこと。殊更なること。格別。格段。

あだてに **図** 特別法。法律の類。特別に、例外なる規定をなす法律。⑦

あだてに **図** 獨歩。ひとりにて歩むこと。⑧ ⑨ 他に比類なきこと。

あだてに **図** 讀法。書物のよみかた。

あだてに **図** 獨木橋。九丈なさを、一つ渡して、橋としたもの。一本はし。

あだてに **図** 徳米。田地の持主が、小作人より借り立つた米。

あだてに **図** 毒見。食物の中の、毒の有無を試むること。試毒。

あだてに **図** 毒蟲。人の身を害ふ蟲の總稱。

あだてに **図** 特命。殊更なる命令。格別のたなせり。

あだてに **図** 匿名。實名を、他人にしろせぬこと。かくしな。

あだてに **図** 毒矢。鏃に、毒藥をまよひたる矢。藥矢。

あだてに **図** 特約。特別に約束すること。きつだんの約束。

あだてに **図** 毒藥。人の身に害ある藥。

あだてに **図** 徳用。用ひるに利益あること。りかた。

あだてに **図** 毒除。さくけしにたなじ。

あだてに **図** 毒壱。鳥のね。ねがし。

あだてに **図** 獨樂。一人にて樂むこと。二人にて、酒を飲むこと。獨酌。

あだてに **図** 徳利。細く高くして、口の方すはまりたる酒瓶を盛るに用ひる。多くは、陶器製、又は玻璃製なり。燗子。

あだてに **図** 徳利學者。未熟にて、才がなれたる學者。⑩

あだてに **図** 獨立。人たたらぬこと。ひとりだち。いっぴん。

あだてに **図** 獨力。一人の力量。一人の仕業。

あだてに **図** 戸車。戸の閉開を易からしむるために、戸の足につけたる、小さな輪。

あだてに **図** 蝮局。蛇が、その身を、高の如く巻き

あだてに **図** 解由。いかにたなじ。⑪

あだてに **図** 外郭。そこぐるわにたなじ。⑫

あだてに **図** 特別。特別なる例規。

あだてに **図** 獨樓。されかうにたなじ。

あだてに **図** 蝮局。さるまきの局。⑬

あだてに **図** 土瓜。草の名。からすうりにたなじ。

あだてに **図** 賭高。はくちや。

あだてに **図** 都會。繁華なる市街。みやこ。

あだてに **図** 度外。かへりみらぬこと。心に掛けぬこと。氣に掛りぬこと。

あだてに **図** 刺。植物の皮の一部が、形を變じ、突起して、針の状をなしたるもの。のぎ。はり。⑭ 竹木などの、端のそげたる。細きものぞげ。⑮ 魚骨などの、食道に立ちて、いらつくもの。

あだてに **図** 土氣。土のかをり。土臭きこと。⑯ 「骨懸」。

あだてに **図** 圖解合。一隔りなくなる。なかななりす。二「骨懸」の相違がよむこと。⑰ 「屍儀」。

あだてに **図** 時計。時刻をはかる機械。その製に種種あり。時計。

あだてに **図** 徒刑。一死刑に次ぐ重刑。島地に遣して、定後

あだてに **図** 時計臺。大なる時計を、屋上、又は臺の上に高く据まつけたるもの。

あだてに **図** 徒刑場。徒刑に處せられたる罪人の、定後に

あひめ 図 土下座。昔大名その他、貴人の通行する時ならに、農工商などの輩が地上に跪きて禮せること。
あひめ 図 兔缺。いづれもみつくず。
あひめ 図 吐血。血を吐くこと。咯血。
あひめ 図 除月。陰曆十二月の異稱。
あひめ 図 吐月峰。はひふまき。
あひめ 図 刺刺。俗に、さげさげしい。かざりたてあり。圓滑ならずあり。
あひめ 図 刺刺。さげ多く、さげさげしく。圓滑ならず。
あひめ 図 無敏。敏き様子なし。鈍やかならずあり。
あひめ 図 刺虫。虫の名。毛蟲の黒色なるもの。
あひめ 図 杜鵑。鳥の名。ほろほろすにたなじ。
あひめ 図 杜鵑花。木の名。つじにたなじ。
あひめ 図 所。まじりにたなじ。
あひめ 図 床。一寝めるところ。ふし。なまこ。臥床。床。二疊のしき。三床の間の器。四室床の器。五疊結床の器。六かなしき。鐵研。七車の屋形。八川のそと。川床。圖 鬚ひさこの家職にそへて用ゐる。
あひめ 図 率底。まじりにたなじ。
あひめ 図 獨鉗。まじりにたなじ。
あひめ 圖 常。何時もかはらぬ意を示すに用ゐる。
あひめ 圖 何處。まじりにたなじ。いつかた。
あひめ 圖 常盤。まじりにたなじ。

あひめ 圖 渡口。わたしは。渡頭。
あひめ 圖 杜口。口をさつること。ものいはぬこと。
あひめ 圖 杜公。動物。蜘蛛の異名。
あひめ 圖 土工。堤防、道路などの如き、土著語の總稱。
あひめ 圖 土冠。百姓の一種。
あひめ 圖 土公神。さくじんにたなじ。
あひめ 圖 床飾。床の間の飾りつけ。
あひめ 圖 利心。敏捷なる心。活潑なる心。
あひめ 圖 床盃。婚禮の夜、新夫婦の、寝所に入りて後、たがひに盃をさうりかはすこと。
あひめ 圖 長。常に變ることなく。永久に。まじりにたなじ。
あひめ 圖 床縛。車やかたを、車にからつけたる索。
あひめ 圖 常。まじりにたなじ。
あひめ 圖 床擦。病人の、久しく臥したるために、身體の主床につきたる局部などの、自然に、擦れ腐りて、化膿せるもの。瘡癩。
あひめ 圖 床土。まじりにたなじ。
あひめ 圖 常津御門。常に仕まつるみかた。
あひめ 圖 瘡癩。まじりにたなじ。
あひめ 圖 常。まじりにたなじ。
あひめ 圖 得鳥羽月。陰曆四月の異稱。
あひめ 圖 床中。まじりにたなじ。

あひめ 図 常盤。まじりにたなじ。

あひめ 圖 常夏。一何時も夏なること。まじりにたなじ。
あひめ 圖 常懷。いつまでもなつかし。たえずなつかし。
あひめ 圖 常夏月。陰曆六月の異稱。
あひめ 圖 常夏花。草の名。きんせんくわにたなじ。
あひめ 圖 常滑燒。尾張國知多郡常滑村より燒き出たす、朱泥なる陶器。
あひめ 圖 常滑。何時も滑ることなく。
あひめ 圖 常滑燒。まじりにたなじ。
あひめ 圖 床錦。床にかけた錦。
あひめ 圖 床間。座敷の一方に、ゆかを一段高くして、ひし、常に、書畫、磁物などを飾るまじり。
あひめ 圖 常盤。まじりにたなじ。
あひめ 圖 床柱。床の間の左右の柱。多くは、他の柱より異なる材を用ゐる。
あひめ 圖 床花。常に開きである花。
あひめ 圖 床花瓶。床の間の隅にかくる、かけ花いしなる、圓圖、床離。「夫婦、互に得心づくにて離れず。」伊勢物語にこはなれて、遂に尼になりて「二寝所より起き出で。」
あひめ 圖 床離。寝所より起き出でるまじり。
あひめ 圖 常節。貝の名。あひの一種。形小くして、

あひめ 圖 床線。床の間の前の下に、横に直したる材。上なるをなげし。
あひめ 圖 床蓆。夫婦、久しく共に住む。永くつれそ。
あひめ 圖 床店。「品物を賣るため、簡畧に構へたる小店。二持と運びに便利なるまじりに造れる、小さき店。やたいみせ。常盤。」
あひめ 圖 常宮。いつまでも寝らぬ宮。
あひめ 圖 鼠婦蟲。虫の名。をめぐしにたなじ。
あひめ 圖 常珍。何時までも珍し。常にめづらし。
あひめ 圖 床屋。髪をひるる。髪をさぐるのふる所。かみや。
あひめ 圖 常間。常に開なるまじり。いつまでも暗きまじり。
あひめ 圖 何れのことか。まじりにたなじ。
あひめ 圖 常夜。常に夜なること。日の照らぬこと。
あひめ 圖 常世。常にかはらぬ世。永久かはらぬこと。
あひめ 圖 常世國。一途かに離れて、容易に至り難き國。縮城。まじりにたなじ。世に生存し得る國。仙樂。蓬莱山。三遊きて、再び歸りえぬ國土。あの世。九泉。
あひめ 圖 常世鳥。動物。雞の異名。
あひめ 圖 常世長鳴鳥。動物。雞の異名。
あひめ 圖 常世邊。常世の國あたり。
あひめ 圖 常世蟲。虫の名。まじりにたなじ。

あひめ 図 常盤。まじりにたなじ。

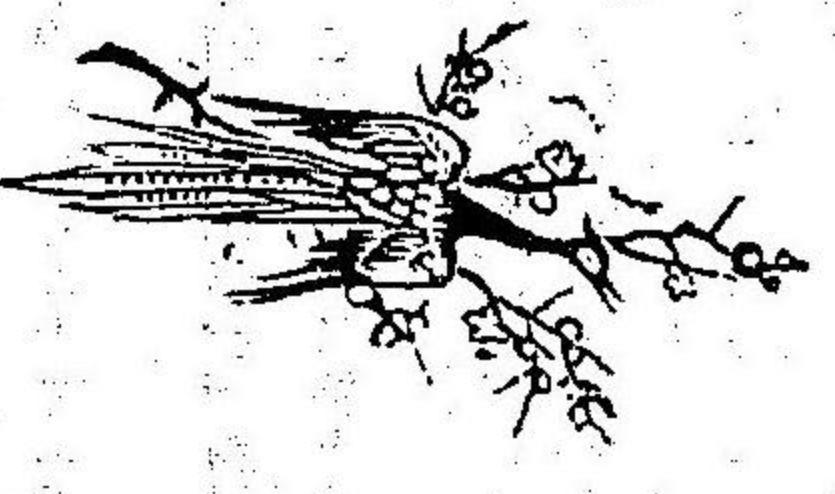
① 刀白。一家の主たる婦人。主婦。女主。② 他人に仕へて、家事をつかさどる婦人。③ 供御の事を司る女官。④ 雛をんな。雛女。⑤
 ⑥ 途次。途のついで。みちすがら。みちみち。⑦ 屠兒。獸類を屠り殺す人。えじり。また。⑧ 同土。さちにななじ。⑨ 同土。稲の實のりよし。豊年なり。⑩ 同土軍。味方。味方と相戦ふこと。さし。⑪ 同土打。さしいくさにななじ。⑫ 同土上。さしかさにななじ。⑬ 同土老。年齢の高き人。⑭ 同土軍。関なりありて、氣節が、例年よりもたせし。⑮ 同土高。年齢のかすの冬きい。高齡。⑯ 同土恰好。年齢の程あひ。⑰ 同土年變。年號かはる。改元す。⑱ 同土年返。年あらたまる。新年なる。⑲ 同土食。さしたきの食。⑳ 同土戸。一戸の下に棲たへたく村。㉑ 同土切。樹木の實を結ぶことすくなき年。㉒ 同土切。さしきりにたなじ。

① 年子。年毎に生れたる子。毎年はらむこと。② 年越草。植物。麥の異名。③ 年越。二大晦日の夜。除夜。三分の夜。④ 年毎。年年に。年のはに。⑤ 年祈年祭。豊年を、神に祈るためになす祭。古、陰曆二月四日、神祇官にて行はれたり。⑥ 年籠。ふゆこもりにななじ。⑦ 年頃。一齡のほろ。さしはへ。年。二一人前の年齢。大人となりたること。成年。圃。さしより。數年このかた。年來。比年。多年。⑧ 年盛。血氣さかりなる年頃。即ち二十歳ころの御。壯年。⑨ 年下。齡の他よりすくなきこと。年少。⑩ 年高。さしかさにななじ。⑪ 年長。さしかさにななじ。⑫ 年玉。年始の祝に用ゐる贈物。歳時。⑬ 年月。一年の月。歳月。二長き月日。⑭ 年積月。陰曆十二月の異稱。⑮ 年手當。年年のてあて料。一年のさかなひ。⑯ 年歳徳。陰陽家の語。えはりにたなじ。⑰ 年歳徳神。陰陽家の語。その年を守護する神。即ち八大龍王の一なる額婆羅門王の女。⑱ 年。かつのさし。さしにた。毎年。

のねにた きてつちた せせすしき こけくきか ちえういあ

① 年取。齡高くなる。年を加ふ。② 年半。一年のなかは。半年。③ 年並。年の、去年、今年と連なること。年次。④ 年波。年老い、額に皺よみ。⑤ 年。一年の中。さしにた。⑥ 年生。年の主人。さしにた。⑦ 年市。年の暮に、新年の飾物、又は用具を賣る市。⑧ 年内。同じ年のうち。年内。⑨ 年神。年を司る神。⑩ 年暮。一年の終りに近きころ。⑪ 年功。ねんこうにななじ。⑫ 年毎。よはひ。年齢。⑬ 年毎。さしにた。⑭ 年毎。さしにた。⑮ 年毎。さしにた。⑯ 年豆。節分の夜、年男の敬く豆。⑰ 年矢。年の早かつを、射る矢のすみやかなるに射入ていふ。⑱ 年夜。その年の終りの夜。大晦日の夜。⑲ 年端。年齢の程。よはひ。⑳ 年鳥柴。鷹の捕へたる鳥を、他人に贈る時、それをゆ

① 鳥柴木。さしにた。② 年延。さしかさ。さしにた。③ 年早。前年に、月なかりて、年、時候より早し。④ 年日。生れ年の干支。同じ干支の日。⑤ 年久。年月ながく。年ひさしく。⑥ 年深。年久し。多くの歳月を経たる様にななじ。⑦ 年穂草。植物。小麦の異名。⑧ 年増。中年の婦人。大抵、二十歳より、四十歳頃までの間の御。⑨ 年戸締。門を鎖すこと。戸をさしかたむること。⑩ 年精進。精進の後に、魚鳥類を食ふこと。精進す。⑪ 年満月。陰曆十二月の異稱。⑫ 年兎唇。みつくち。⑬ 年妬心。ねたむ心。をねむ心。⑭ 年都人。市府に住む人。都の人。みやこびと。⑮ 年土人。その土地の人。本土の人。土着の人。土民。⑯ 年都人士。都にすめる人人。みやこびと。



はしこ

をよめわ るれるりら よゆや めめんむみま ほへふひは

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇にたなじ。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇時代の庶人の開刑。戸を閉して、業
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇吐瀉。はきくだしたなじ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土砂。一土砂。二加持所橋ならに用ゐる砂。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇都城。一都市にて、城郭のあること。都の
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇途上。みちすがら。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇登城。城中に出動すること。登城。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土壌。つちかた。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土性骨。人の心の改まらぬなを、罵
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土砂加持。眞言宗にて行ふ加持。砂を、清
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年役。年かさによりて勤むる役。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇杜若。草の名。一やぶらうかにたなじ。二誤
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年雇。年を限りて雇ふこと。また、その雇は
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇徒手。からて。すて。赤手。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇斗酒。一斗ばかりの酒。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇屠所。牛馬などを殺すところ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇圖書。書籍。圖書の類。うしよ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇杜松。木の名。むら(松)にたなじ。

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇杜松子。杜松の實。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇徒食。爲すことなくして暮らすこと。あぐひ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇怒色。いかれるかほつき。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年積月。陰曆十二月の異稱。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年寄。一老いたる人。齡たかき人。老人。二
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年寄子。年老いて出来たる子。わい(は
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年寄役。一しやくにたなじ。二家老に
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年忘。年の暮に催す酒宴。忘年会。別年。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年割。毎年割り分けること。年年に割りあて
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年男。徳川時代に、新年の始めに、贈儀式を
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇回取年。一年月を加ふ。二年木。老人こと
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇吐。胃中の物を反し吐くこと。はく。

のねにた ごとつたた そせすしほ こけくきか たえうい

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇色。色のきかぬこと。めはしのみえぬこと。あま。あま。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇度敷。たびかす。回数。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇暗黒。俗に、あやうい。あやうくうし。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇濁聲。たみたること。亮かならぬ音聲。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇年。数詞を誤して、年の数を示すに用ゐる。一「
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇渡世。よむたり。すぎはひ。なりはひ。登落。主
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土精。植物。人蔘の異名。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土星。太陽系中の第六位にある遊星。二十九年
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇徒涉。かちりたり。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇杜絶。ふさぎたつこと。ふさがりたること。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇徒跣。はだし。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇渡船。わたしがね。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇賭錢。勝負のかけ銭。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇徒然。つれづれに。ものさびしく。退屈。無
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇渡船場。わたしがね。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇屠蘇。年の始めに、酒に浸して飲む。山椒、防風、肉
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇浮敷。佛教の語。うたにたなじ。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土足。一履物をききたるまゝに足。二うひまひ

〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土俗。その土地の風俗。ごころのならはし。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土賊。百姓の一擧。土寇。草賊。 〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇兜卒天。佛敎の語。須彌山の頂にありし
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土塵。一塵の上に積たつて、柱を穿てる材。二も
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇怒濤。あらなみ。大波。激浪。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土當歸。草の名。うまにたなじ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇跡絶。ことゆること。中絶。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇鳥立。一鳥の飛びたつこと。二水草のたひた
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇戸棚。棚に、戸のあるもの。たしいれ。板厨。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇十度御名。十たび、佛の御名を唱ふる
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇塗炭。火と、水と。困苦の有様に譬へていふ。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇亞鉛。金属元素の一。質堅くして、もろく、色灰
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇図機。一をり。はづみ。二あひざし。ひやうし。
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇土壇。土にて築きたる壇。一ちちするきは
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇刑場。一したきは。二物事の終局。物事の終

をえわわ ろれるり 〇 よゆや もめんむま ぼへふひは

くろくろし 図根松。木の名。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。一所に居て動かさぬ。延まらず。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。
くろくろし 図止。俗に、くろくろし。一他へ行かぬ。ネノミツにたなじ。

くろくろし 図海上。わたなか。海の中。
くろくろし 図鹿。鹿の名。鹿の鹿。寒地に産す。形、鹿に似て大なり。鹿、共に岐ある大なる角あり。性、柔順にして、能く懐かなさをひく。肉は食用とし、皮は、衣につく。くろくろし。
くろくろし 図戸無籠。よつてか。くろくろし。
くろくろし 図何方。一いつかた。くろくろし。二たれ。何人。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。
くろくろし 図何方。俗に、くろくろし。くろくろし。

のねにな こてつらた そせずしき こけくきか わえういあ

くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。

くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。

くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。
くろくろし 図何。くろくろし。

をるわ るるり ぶ や めんむみま ほへふは

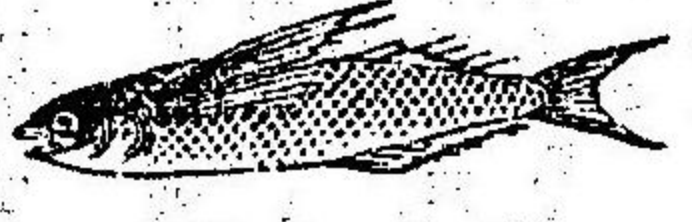
そのもりつかき 主殿寮。官内省に屬して、供御、儀寮、
 新註のこ、及び殿庭の洒掃などを司る役所。
 そのもりつかき 主殿寮。このもりつかきになじ。
 そのもりつかき 如何様。いかやうに。いかなるさまに。
 そのもりつかき 宿直。一夜、禁中にやうりて、守衛するこ。夜
 直。二皇后、又は女御などの、天皇の御添臥せらるるこ。
 そのもりつかき 宿直衣。いひあはせしむるにたなじ。
 そのもりつかき 宿直装束。宿直の時に着用する衣服。
 そのもりつかき 宿直姿。宿直装束したる人の姿、即ち直
 衣を冠のいたち。
 そのもりつかき 宿直所。宿直人の伺候するこ。
 そのもりつかき 宿直人。宿直する人。こまりはんもの。
 そのもりつかき 宿直申。かたいめんになじ。
 そのもりつかき 宿直物。宿直の時に用ゐるもの。即ち夜
 具、寝衣の類。
 そのもりつかき 外衛。禁中の御垣の外を守る、左右の衛士府、及
 び左右の兵衛府。げる。
 そのもりつかき 宿直。いひあはせしむるにたなじ。
 そのもりつかき 動物。つは(燕)の轉。伊勢國富田の方言。
 そのもりつかき 賭場。けくちななつこ。勝負事をする場所。
 そのもりつかき 馬。歩みののろき、劣等なる馬。だ。
 そのもりつかき 奴輩。かやう。やうら。やうはら。うら。

そのもりつかき 途方。一ゆく方向。二しかた。手だて。
 そのもりつかき 途方暮。途方つきて當惑す。心みだ
 たり。
 そのもりつかき 無途方。又、さほうもない。こんでも
 ない。滅法界なり。擬すべき物もなし。
 そのもりつかき 賭博。はくち。博奕。
 そのもりつかき 土橋。土にて覆ひたる橋。土橋。
 そのもりつかき 土橋。水気の飛び散りたるもの。しどき。
 そのもりつかき 土橋。ほろほろ。飛び散る。散。
 そのもりつかき 土橋。いひあはせしむるにたなじ。
 そのもりつかき 土橋。三間を抜く。中間をはぶく。
 そのもりつかき 土橋。人も問はぬに、自ら語りいたす
 こ。うらやうら。
 そのもりつかき 飛沫。一水の、細かになりて飛び散るもの。し
 どき。飛沫。二そははるにたなじ。
 そのもりつかき 土橋。罪人の手足を、地上に張りつけて射
 ちた。土橋。鳥の名。だうはら。土橋。「殺す刑」
 そのもりつかき 土橋。土著の番民。夷。
 そのもりつかき 土橋。布を張りて、室内の間を隔つるに用ゐるもの。
 そのもりつかき 土橋。種物。萩の異名。
 そのもりつかき 土橋。葉の粗なる、一種の道化装。をこる。

あひらにな ことつらた そせすしき こけくきか たいういあ

そのもりつかき 問。問ふこ。問きたつねるこ。尋問。詢問。
 そのもりつかき 樋。水を引き、又は軒の雨滴を承けしむるために設
 くるもの。樋。
 そのもりつかき 都鄙。市街、田舎。みやこ。いなか。
 そのもりつかき 徒費。むだづかひ。冗費。浪費。
 そのもりつかき 鳥。鳥の名。形、鷹に似て、稍大なり。羽毛、茶褐色
 にして、尾明き、脚曲れり。鳥。二茶色の鳥。三黒口の鳥。
 そのもりつかき 鳥の略。
 そのもりつかき 奴婢。下男。下女。ひひ。
 そのもりつかき 茶藤。木の名。枝に、刺多く、葉は、五葉、一葉をな
 し、夏の初め、青白き花を開く。
 そのもりつかき 陰障。こぼろくにたなじ。人。
 そのもりつかき 跳上。前後の思慮もなく、ものこをなす
 そのもりつかき 飛揚。一空中へ舞ひのぼる。二はねあ
 がる。こをこりす。雀躍す。跳上。
 そのもりつかき 問合。俗に、いひあはせる。問きあ
 はす。照會す。
 そのもりつかき 問合。いひあはせるこ。照會するこ。
 そのもりつかき 紙葺。いかのほりにたなじ。
 そのもりつかき 飛石。庭前、又は茶室の路次などに、少しづつ
 離して、敷き並へたる石。
 そのもりつかき 飛入。一草木の花、又は織物などに、他の色の
 入り雜りたるもの。二その一群の者にあらざる者が、突然に
 仲間に加はるこ。
 そのもりつかき 飛入。銀かに、中にいる。こびこむ。突入

そのもりつかき 飛魚。魚の名。こびのうをになじ。
 そのもりつかき 飛下。俗に、こびわり
 する。跳りて、高さこより下る。
 そのもりつかき 飛掛。馳せかかる。を
 こりかかる。
 そのもりつかき 問掛。俗に、こひかけ
 する。問合。
 そのもりつかき 飛翔。鳥、空中を飛び
 てる。
 そのもりつかき 飛交。飛び去り、飛び来る。こびちがふ。
 そのもりつかき 飛反。はねてもどる。
 そのもりつかき 飛切。他に、起え勝れたるこ。最上。極上等。
 そのもりつかき 飛下。こびれるにたなじ。
 そのもりつかき 飛口。橋の端に、葉の端の如き、鐵の鉤をつ
 け、新防夫の物にひきかゝるならに用ゐるもの。
 そのもりつかき 飛屑。かなくつにたなじ。
 そのもりつかき 飛競。飛ぶこを競ふ遊戯。
 そのもりつかき 飛子。賭博を遍歴して、色を賣る男。
 そのもりつかき 飛跳。いひこゆにたなじ。
 そのもりつかき 飛問。たごれ。音信。
 そのもりつかき 飛込。こびいるにたなじ。



(をうびこ)

あひらにな ことつらた そせすしき こけくきか たいういあ

飛びこむ 國圖 跳越。俗に、飛びこむ。一をかりて、物の上を越ゆ。飛びこす。二順序を經すにすぎむ。
飛びこむ 國 飛紗綾。餅の如くにして、處處に、花紋ある織物。
飛びこむ 國 飛去。飛びのく。飛びて、その場を去る。
飛びこむ 國 飛將基。兩人、互に三つづつ、三段に並べたる駒を、漸次に進ましめ、自分の駒の前に塞がりたる敵の駒を飛びこし、進みゆきて、敵の方に早く、着し終りたる方を、勝とする遊戯。
飛びこむ 國 飛雙六。輪盤六に、賽の目をしるし、ふりだしたの賽の目の数によりて、道中雙六なるの如く、駒の順を追はずに、處處に轉る遊戯。
飛びこむ 國 飛道具。弓、矢、鎧、砲などの如く、隔りたる處まで効力ある武器の總稱。
飛びこむ 國 種竹。竹にて造りたる筒、多くは、雨水を承くるもの。立種、横種の二あり。
飛びこむ 國 飛立。飛びあがるにたなじ。
飛びこむ 國 飛地。駆け隔たれる地。此處彼處に散在する地。
飛びこむ 國 飛達。一飛びさまに行き達ふ。飛びかふ。二甚だ異なる。大に進ぶ。大にかけ離る。
飛びこむ 國 飛散。飛びてちる。みだれちる。
飛びこむ 國 土筆。一やきかたにたなじ。二草の名。つくしにたなじ。
飛びこむ 國 鷲月毛。鷲の色めきたる月毛。
飛びこむ 國 飛着。をかりながら抱きつく。飛びかかす。飛びすが。

飛びこむ 國 飛人足。飛びのものにたなじ。
飛びこむ 國 飛魚。魚の名。大き二尺ほごにて、形、はらの如く、兩脇の鱗、長大にして、殆ど、翼の如し。海上を飛び上りて、直進す。文鱈魚。
飛びこむ 國 飛退。飛びさまに退く。跳りて退く。こびさる。
飛びこむ 國 飛鳥者。消防に従事する人。ひけし人足。
飛びこむ 國 飛尾。轡の如くにして、牛車の背後に出でたるもの。
飛びこむ 國 飛八丈。紫色、黄色の絲にて、縦横に織りなし、八丈に織入たる織物。
飛びこむ 國 飛離。俗に、こびはなれる。こびのく。跳りて避く。二かけ離る。遠く離る。三人の意思外に出づ。なもひもつかぬ事を企つ。
飛びこむ 國 飛火。一火片が、風に隨ひて飛び行き、遠く隔たれる處に燃えつくもの。二落の一種。
飛びこむ 國 飛廻。はねまはる。跳りまはる。跳廻。
飛びこむ 國 飛蟲。虫の名。處處に生ず。形、蟻の如くにして、大き二三分。跳ね上る力大なり。はねむし。水風。
飛びこむ 國 土瓶。湯を沸かし、又は茶を煮るに用ゐる陶器。す。商店。ごんや。二貨物などの水陸運送を業とする家。
飛びこむ 國 胴拍子。銅にて作りたる、浅き皿の如きもの。その中央に、紐を掛け、その紐のゆひめに、指を挿みて、旋轉しつづ。雙方より打ちあはせて鳴らすもの。
飛びこむ 國 土百姓。農民を賤みての稱。

のねにた びてつちた そせすしき こりくきか たえういあ

飛びこむ 國 間屋場。留聲にて、人夫、駄馬を給し、又は、これを繋ぎ立つるごころ。たては。驛亭。
飛びこむ 國 酔醜。にこり酒。もろみ。濁醜。
飛びこむ 國 飛渡。飛びて、向ひの方に渡りゆく。こびこす。
飛びこむ 國 飛魚。魚の名。こびのうをにたなじ。
飛びこむ 國 都府。一國の首府。みやこ。
飛びこむ 國 姉婦。やまもちをんな。
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。①
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。②
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。③
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。④
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑤
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑥
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑦
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑧
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑨
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑩
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑪
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑫
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑬
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑭
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑮
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑯
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑰
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑱
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑲
飛びこむ 國 十布。額目を、十筋に織みたること。⑳

飛びこむ 國 溝洩。下水を掃除すること。
飛びこむ 國 土附子。木の名。シリかぶりにたなじ。
飛びこむ 國 土佛。一土にて作りたる佛像。二肥えたる人を嘲りての稱。
飛びこむ 國 溝漬。おかみそづけにたなじ。
飛びこむ 國 溝泥。一下水の中の泥。二おかみそにたなじ。
飛びこむ 國 溝鼠。下水に住むねずみ。
飛びこむ 國 十布菅薦。經を十筋こぼして織み造りたるすがこも。
飛びこむ 國 飛火。のろし。古、聖事のありたるを、遠方に知らせんため、打ち揚げたる火。烽火。
飛びこむ 國 土墳。一まじりにたなじ。二土を、小高くもりたる墓。らまんとおつ。
飛びこむ 國 吐蚊鳥。鳥の名。かすひりにたなじ。
飛びこむ 國 吊。亡き人の冥福を祈ること。追福。
飛びこむ 國 吊。亡き人の冥福を祈ること。追福。
飛びこむ 國 風爐。土燒きの風爐。
飛びこむ 國 濁醜。濁酒の、滓を濾さぬもの。色白くして、味濃く、醜酒の如し。もろみさけ。
飛びこむ 國 斗柄。北斗星の第七に位するもの。破軍星。
飛びこむ 國 土塀。土にて築きたる塀。つじぎ。

ををわ るれるりら よゆや めめんむみま ほへふひは

あなごの図 春澤。[爾語 Sunday の意] 日曜日。休日。
 あなごの図 頼智。機に懸けて仕ふる智。早速の智慧。機智。
 あなごの図 頼痴氣。たふかなる者。馬鹿者。うんま。
 あなごの図 頼珍漢。ものごとのかけ違ひ。ものごとの誤定の如くなること。
 あなごの図 純帳。一神佛の偶像などの前に垂るる純子の幕。二だんだらすの垂れ幕。三純帳芝居の幕。
 あなごの図 純帳芝居。引幕を用ゐる。こ出来ずして、垂幕を用ゐる。下等なる芝居。官芝居。
 あなごの図 純帳役者。純帳芝居にいづる俳優。下等の役者。
 あなごの図 頼着。一佛教の語。事に、深く思をかくること。執着。執着。二氣にかくること。掛念。心配。
 あなごの図 頼大鼓。鉦太鼓などを鳴して騒ぐこと。賑かに騒ぎ出すこと。
 あなごの図 純附。下等なる布子。うすもの。
 あなごの図 純附布子。うすくしたなご。
 あなごの図 最終。うすじりにたなご。
 あなごの図 屯田。兵士を、土着せしめて、平時は、農業に従事せしめ、有事の時は、軍事に従事せしむること。
 あなごの図 曇天。うすじりたる空。
 あなごの図 屯田兵。うすてん組の兵士。
 あなごの図 外なり。家外なり。けしからず。
 あなごの図 頼。一海。二うすじりたること。

あなごの図 爆竹。うすじりにたなご。
 あなごの図 物。物を著したる音の形容にたなご。
 あなごの図 雙方同じなること。相ひひきまらぬこと。
 あなごの図 圓戸。圓戸なごを載く音の形容にたなご。五音の音。
 あなごの図 圓戸。一太鼓を響く音の形容にたなご。二水の、高きより流るる響の形容にたなご。たうたう。
 あなごの図 圓戸。三たうたうにたなご。
 あなごの図 圓戸。一階をさき、うんうんを音する。木製の階。
 あなごの図 圓戸。二板を、物にかけたしなごして、階のうんうんを音する。
 あなごの図 圓物事の、障りなく、思ふが圓に行はるること。
 あなごの図 圓雷薬。爾語 Dondor, 小銃の響に塗り、打てば、あなごの音の如くなる。如何なる。
 あなごの図 圓。鏡かに。急。うんうん。
 あなごの図 圓隧道。英語 Tunnel, 山腹、又は河底なごを掘り、汽車の通路とするもの。
 あなごの図 圓。一鳥の音。二音の音。三音の音。
 あなごの図 圓。かめ。うんうん。
 あなごの図 圓。羅紗にて製せる上着。腰をよけ、腰さをしてのうんうんに用ゐる。まはし合羽に似たもの。
 あなごの図 圓豚尾漢。清國人を諷りての圓。
 あなごの図 圓。鳥の、翅を張れるがうんうん形に造りたるもの。

あなごの図 頼病。急に起りたる病。候かに痛みつくこと。卒患。
 あなごの図 頼服薬。一劑一度かきりに服用する薬。
 あなごの図 頼。一青くみ。二うんうん。
 あなごの図 頼。智慧の足らぬ人。
 あなごの図 井。一形、鉢の如くして、稍深く小なる陶器。二井に盛りたる食物。三はらけの如くし。
 あなごの図 井。水中に落ち入る音の形容にたなご。
 あなごの図 井鉢。うんうんにたなご。
 あなごの図 井飯。飯を、井に盛りたるもの。
 あなごの図 井。出雲國の方言。
 あなごの図 屯兵。兵士をうんうん。
 あなごの図 蜻蛉。虫の名。うんうんにたなご。
 あなごの図 蜻蛉。一虫の名。春夏の交に、水邊の羽化したもの。六脚にて。頭大きく、腰は長し、尾は短し。四翅ありて、空中を飛行す。種類多し。二はた。三はた。四はた。出だせる紐、帯などの結び方。
 あなごの図 蜻蛉筋斗。一蜻蛉の彼方へ飛びて、候かに此方へ返るが如く、身を繰らすこと。二双手を、地につけて、兩足を天にむけて左右へ、身を轉する遊戯。
 あなごの図 蜻蛉返。あまりの騒しさに、耳が、開き、うんうんになる。
 あなごの図 蜻蛉持。長持を三人にて擔ぐこと。
 あなごの図 頼間。のろま。うすじりか。愚漢。

あなごの図 留川。漁獲を禁じたる川。
 あなごの図 留木。反に、香を焼きしめること。
 あなごの図 留。うんうん。
 あなごの図 留帳。うんうん。
 あなごの図 留。止むべきこと。除帳。
 あなごの図 留。一伐木、機なごを禁じたる場所。禁場。二芝居なごの木戸場。三うんうんにたなご。
 あなごの図 留。うんうんにたなご。
 あなごの図 留針。一種物するさま、折目ならに、假りに刺して置く針。二物を、假りに刺し、もに用ゐる、圓に空をつけたる針。びん。釘針。

ととや 留止矢。 最後射る矢。こゝろをさす矢。
ととや 留山。 藤。又は伐木なさを禁じたる山。禁山。
ととや 留留桶。 洗滌にてながしに用ふる。楕圓形の大なる桶。
ととや 留友。 一帯に、親しく交はる人。こもだち。朋友。知許。知己。二むれ。仲間。伴侶。三みぢづれ。同行の人。同伴。團體の同じじきもの。團。徒。儕。
ととや 留供。 つき従ひ行く人。隨行者。從者。儕。
ととや 留艦。 船のあごの方。へさきの反対の方。船尾。
ととや 留柄。 古、弓射る時に、左の臂につけたる具。軍にて遊る。弦の緊張して、臂に觸るるを避け、また弦を、高く響かしむるためなりこもだち。
ととや 留。 未定の意味を隠す辭。
ととや 留吃。 こもりの聲。
ととや 留離。 既定の意味を隠す辭。
ととや 留共。 名詞に添へて、その物事の二つ以上なる意を示すに用ふる。
ととや 留友争。 味方同士の争。仲間争。うざわ
ととや 留共襟。 衣服と同じき襟。
ととや 留友鏡。 つかれこれを見合せ、見ること。①
ととや 留友垣。 こもだちになじ。
ととや 留左右。 こもかくにも。その事は、如何にありとも。兎角。
ととや 留供頭。 徳川時代に、諸侯の供廻の取持役。諸

侯の供廻を取持る長たる人。
ととや 留共稼。 親子、夫婦などが、互に稼ぎて、なりはひゆくこと。
ととや 留輩。 やから。こもだち。仲間。苜。儕。
ととや 留共食。 同類の相害すること。
ととや 留燈。 一こもすこと。二燈火の聲。
ととや 留燈。 俗に、こもすこと。少し。足らぬがちなり。二うらやまし。愛らし。④ 萬葉集「むさ子にわがこひゆけはこもしくも愛ならひなるかもしもこせの山」 「ね油。
ととや 留燈油。 行燈にて、火をこもすに用ふるた
ととや 留燈妻。 一愛する妻。⑤ 二たなはたつめ。燈女。⑥
ととや 留燈火。 照したる火。あかし。あかう。
ととや 留燈花。 ちやうじがしらになじ。
ととや 留友白髮。 夫婦、共に白髪になるまで生きて
ととや 留友達。 相交はる人人。仲間。友。友垣。朋友。

ととや 留友千鳥。 群居せる千鳥。數多の千鳥。
ととや 留艦綱。 船を繋ぐ綱。樅。
ととや 留朋釣。 船の舵を放るたき、社を誘ひよせ、釣にてひきかけて捕ふる法。
ととや 留伴連。 友人と連れだつこと。友人と同道すること。友連。友だち。同士。①
ととや 留共共。 打ちつれて、一つになりて。諸共。②
ととや 留共伴。 つれだつ。相従ふ。同道す。③
ととや 留共鳴。 響の反射すること。
ととや 留共。 うち連れて。ひきつになりて。響。借。
ととや 留共寝。 共に、一つ寝に入りて寝ること。一つ寝。添寝。同寝。
ととや 留轡音。 轡の音。轡に觸るる響。
ととや 留伴造。 古、諸師の長として、その師をつかさどつたる職。④
ととや 留伴御奴。 古、主殿衆の下司。禁裏の掃除なさをせしもの。⑤
ととや 留從騎。 騎馬の供の人。騎馬にて、主人の供すること。ある一部屋の長。⑥
ととや 留供番。 供する番にあたること。また、その人。
ととや 留供人。 こもの人。こも。從者。
ととや 留共船。 なじ船。あひのり船。同船。
ととや 留伴船。 伴ひ行く舟。

ととや 留伴部。 舍人。吏生。兵衛。使部などの稱。⑦
ととや 留供侍。 主人に従ひ來りし奴僕。車夫などを待たせたく所。
ととや 留友待雪。 雪の、再び降るまで、消えずして残れるもの。⑧
ととや 留都門。 みやこの入り口。
ととや 留艦櫓。 船尾の櫓。船櫓。
ととや 留燃。 火のもえかた。炷。
ととや 留吃。 こもりのこも。こもりの聲。
ととや 留燃。 もも。こも。
ととや 留燃。 物にふに、滑らかならず。こもはつか。こも。
ととや 留艦。 船尾の方にて使ふ櫓。
ととや 留轡繪。 古は、轡の面に綴きたる模様。⑨。⑩
ととや 留巴瓦。 巴を畫きたるつみかはら。花頭
ととや 留鳥屋。 一雞、また鷹なさをやらす家。こも。二夏
ととや 留鳥返。 鷹が、羽の抜けかはる頃、即ち夏より冬の初めにかけて、鳥屋に居ること。かへる。
ととや 留土燒。 土をかけたかきもの。素焼。

鳥屋籠。鳥屋に居る鷹。こやかへりたる鷹。

鳥屋出。羽の脱け落ちたる後、鷹を鳥屋よ

りて鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋籠。鳥屋に居る鷹。こやかへりたる鷹。

鳥屋出。羽の脱け落ちたる後、鷹を鳥屋よ

りて鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋籠。鳥屋に居る鷹。こやかへりたる鷹。

鳥屋出。羽の脱け落ちたる後、鷹を鳥屋よ

りて鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

鳥屋待。秋の頃、鷹を籠りにて捕ふ。

鳥屋就。鳩枝、病めて、床に籠る。

鳥屋外山。端なる山。はやま。

鳥屋勝。鷹の、新毛を生じ、羽翼、全く備は

りて、鳥屋を出る時、その勢の盛んなる鷹。

のねにた こつらた そせしき こけくきか たえういあ

響動。シムシムにたなじ。

響動。シムシムにたなじ。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

外寄。外の方へよる。

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

虎斑猫。飼主なき猫、まよひ居る猫。宿な

をるわ るれるり りゆ りめんむみ ぼへふは

取組

取りかへす 取返。一上り下りして取りかへす。表裏をこなかると。二再びもとの如くなす。とりもたす。回復す。三與へたるものを再びわが物とする。とりもたす。「瓶」

とりかへす 取木。槌木の枝を、地上に壓しつけて、そこより根を生やしおむる法。とりえだ。壓條。壓枝。

取りかへす 取極。俗に、とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取極。俗に、とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取切。一始めより、終りまで、とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取殺。ほよりとりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取草。古の醫方に、種種の草をとりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取鳥来月。陰曆四月の異稱。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取組。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取組。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取組。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取組

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

取りかへす 取組。一組み合ふ。相手となる。二相撲の器。東の某力士と、西の某力士と、相撲をする。

あなまに なごてつちた そせすしき こりくきか たえういあ

一四三四

取組

取りかへす 取着。膝部にミリ添ふる。酒の着。

取りかへす 取避。こり除く。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取鳥刺。一粘をぬりたる竿にて、小鳥を捕する。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取沙汰。世間の評判。世のうはさ。風聞。風説。物言。

取りかへす 取取。さばく。處置をなす。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取遮。人の争ひの間に立ち入りて、双方を隔め置く。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取鳥竿。もろさをたなまじ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。一むねなり。わきまをたなまじ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取組

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

取りかへす 取取。とりかへすにたがひ。二一人にて、萬事を、一人で執行す。

をるわ るるりら よゆ もれんむみま はいひは

一四二五

なほはらばら内教坊。古、禁中にて、舞妓を置き、女樂を教へられたるころ。
 なほけん内見。内内にて見るころ。内見。
 なほけん内檢使。田畑の豊凶を檢視する武家の役。
 なほけん内攻。病を内内に通ひ込むころ。
 なほけん内訂。うちわめめ。内訂。
 なほけん内國。くにのうち。内國。
 なほけん内刻。そくこくにたなじ。
 なほけん内圃。たくむき。
 なほけん内濟。争なみの起らんを、内内に濟ますころ。私和。
 なほけん内蔵。五蔵の總稱。
 なほけん内子。つま。かない。妻。
 なほけん内侍。一内侍司に屬する女官。尚侍、典侍、掌侍の三等あり。二特に、掌侍の稱。
 なほけん乃至。又は。さもなく。
 なほけん内室。貴人の妻の尊稱。奥方。夫人。
 なほけん内實。内内の事情。うちまく。内情。
 なほけん内侍所。一禁中の、温明殿の別稱。この殿内に、入殿の御鏡を安置す。寶所。二轉じて、入殿の御鏡の別稱。
 なほけん内尚侍。内侍司の長官。
 なほけん内掌侍。内侍司の判官。
 なほけん内典侍。内侍司の次官。

なほけんつかき内侍司。古、宮内省に屬せる役所。後、宮の事を掌る。今は、皇后宮職に屬す。
 なほけん内心。ころのうち。したころ。
 なほけん内親王。親王となり給へる姫官。
 なほけん内傷。うちまじにたなじ。
 なほけん内相。つま。かない。内子。二内務省の長官。内務大臣。
 なほけん内情。うちわの事情。内情。
 なほけん内借。一全額の中の幾分かを、前金にて借り受くるころ。二内密にて借金するころ。
 なほけん内戚。ないせきにたなじ。①
 なほけん内助。一内内に補助するころ。二つま。妻。内子。
 なほけん内證。一秘密にするころ。人に知られぬやうにするころ。内密。二ないぎにたなじ。三主人の居間、又は帳場の稱。遊廊の稱。
 なほけん内職。本職の外に、私になす生業。
 なほけん内證子。かくし。私生兒。私子。②
 なほけん内戚。父方の親族。
 なほけん内膳。内膳司の器。一こを可りし役所。
 なほけん内膳司。古、宮内省に屬して、御膳、供御の事。
 なほけん内祖。せんぞにたなじ。
 なほけん内奏。内密に奏聞するころ。

のねにな てつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

なほけん内損。内内をそこなふころ。
 なほけん内大臣。太政大臣の尊稱なりしが、後、また太政官中に、別に、これを授けて、左右大臣の下に列せしめられ、右大臣と同様の事をつかさどりし官。
 なほけん内談。うちまの相談。密談。
 なほけん内談衆。ひきつけしゆうにたなじ。
 なほけん内談頭人。引付衆のかしら。ひきつけがしら。
 なほけん内地。一一国の本土の稱。二島地、又は離島に對して。三内内の土地。四内内の海に遠き地方。甲斐、信濃等の類。
 なほけん内治。一内内を治むるころ。二内科の治療。
 なほけん内陳。密かに、己が意見を陳ぶころ。
 なほけん内陣。神殿、寺院なごの中に、神座、又は本尊を安置するころ。
 なほけん内籠。君主の氣に合へる妻。内嬖。
 なほけん内勅。天子の御内意。密勅。一應。
 なほけん内通。味方より、内密に、敵に通ずるころ。内通。
 なほけん内庭。一うちには。なかには。二てうてにたなじ。
 なほけん内典。佛家にて、佛經の稱。佛書。
 なほけん内殿。内部の殿室。たくむの。
 なほけん内帑。天皇のうちうちの御費用。帝室費。
 なほけん内内。うちわに。こっそり。内密に。

なほけん内方。つま。妻。
 なほけん内縛外縛。佛教の語。かなしはりにたなじ。
 なほけん内無腹立。さもなくころに腹を立つ。
 なほけん内評。一内内の評判。二内内の評議。
 なほけん内府。ないだいにたなじ。
 なほけん内語。英語 Kite、西洋の小刀。
 なほけん内面。一うちのかた。内面。二腹の内。三うちまく。うちわ。
 なほけん内封狀。こしごみにたなじ。
 なほけん内福。表面は、さほかに見えすして、内々の富めるころ。
 なほけん内服。酒を飲み用ゐるころ。
 なほけん内分。一うちわにたなじ。二表沙汰にせぬころ。うちわ。
 なほけん内文。内印を捺したる文書。
 なほけん内壁。きにいらもの。
 なほけん内變。内國の變動。
 なほけん内辨。天子の御即位、及び元日以下の諸節會に、主として、諸事を辨備する職。
 なほけん内密。秘密にするころ。ないしよ。
 なほけん内命婦。五位以上の女官。
 なほけん内務省。國內の秩序安寧を保つについて、の事務を司る省官。

をえめわ ろれるりり よゆや もめんむみま ほへふひは

なな

ななむらじらじら内務大臣。内務省の長官。内相。
 ななめい内命。内内の命令。
 ななめん内面。うちがは。内部。
 ななやち内洋。うちうみ。内海。
 ななやく内薬。のみ薬。
 ななやく内約。内密の約束。
 ななやく内用。内密の用事。うちわの用さま。
 ななやく内灘。體の内側に發する腫物。
 ななやく内欄。馬又は猫に發する病。ねいら。
 ななやく内勞。ないらにたなじ。
 ななやく内覽。ないけんにたなじ。
 ななやく内亂。一國内の騒亂。内訌。
 ななやく内利。〔梵語〕ならくにたなじ。
 ななやく内話。ないだんにたなじ。
 ななやく内衛。左右近衛の稱。
 ななやく内膈。頭蓋骨に包まれ、尚、三枚の膜にて、堅固に保護せらるる部分。人類及び高等の動物には、大膈、小膈とあり。
 ななやく内喘。なやみ。やまひ。病氣。
 ななやく内喘。人を呼びかけ、又は口説く時に發する聲。
 ななやく内惱。なやみくるしむこと。
 ななやく内蓋。錘齒を組み合せたるが如く合ひたる八枚の骨より成り、中に、腦漿を包むもの。天蓋の鉢。
 ななやく内腦氣。なやみき。病氣。

なな

ななきつ内殺。なやますこと。
 ななきつ内漿。腦蓋の中にあるしる。
 ななきつ内出血。そつちゆうにたなじ。
 ななきつ内髓。なうにたなじ。
 ななきつ内囊中。「ふくろのうち。二特に、財布の中。
 ななきつ内有名。名高きこと。著名。
 ななきつ内腦顛。あたまの頂上。腦天。
 ななきつ内腦喃。なうにたなじ。
 ななきつ内腦病。腦に發する病の總稱。
 ななきつ内腦膜。腦を包む膜。三層より成る。
 ななきつ内那膜。なぢを見よ。
 ななきつ内那味。なうしやうにたなじ。
 ななきつ内那亂。苦難によりて、心の狂ひ亂るること。
 ななきつ内菜賣。野菜を賣る商人。
 ななきつ内菜瓜。草の名。瓜の一種。實の形、まくはうりに似て、皮厚し。
 ななきつ内暖簾。のれんにたなじ。
 ななきつ内腦漏。腦漿の流れいつの病。
 ななきつ内腦萎。漸くなえ行く。
 ななきつ内腦萎。なぐにたなじ。
 ななきつ内腦萎通。上より、下まで、萎えて、やはらかにたなじ。
 ななきつ内萎萎。柔かなる様に。ぐなぐな。

のねにな きてつらた そせすしま こりくきか ねえういあ

なな

ななむらじらじら弟。弟を、したしみての稱。
 ななむらじら親。子生れて、七日目に、その子に名を命ずる人。多くは、母方の祖父とす。
 ななむらじら中。一物事の、端の方へ片寄らぬこと。これ、彼この間。なかは。中央。二うちにたなじ。三交りの間から。なからひ。交際。交情。四くるわうち。遊里。色里。
 ななむらじら長秋。せんしうにたなじ。
 ななむらじら中惡。中らひあし。睡ましからすあり。
 ななむらじら長鮑。のしあはびにたなじ。
 ななむらじら中間。交りのあひだがら。なか。交情。
 ななむらじら長雨。幾日も降り續く雨。霖雨。
 ななむらじら中藍。濃淡、その中を得たる藍色。
 ななむらじら長寢。久しくいねること。ながね。
 ななむらじら長生。長く生くること。長壽。長命。
 ななむらじら長五百秋。長くひさしき秋。年月の限りなく長きこと。
 ななむらじら長薯。草の名。じねんじよを、畑に作りたるもの。
 ななむらじら中入。演劇相撲、見せ物なさにて、中頃に暫時休むこと。
 ななむらじら長歌。和歌の一體。一首の句数は、六句以上にして、五音、七音、五音、七音とやうに排列し、その終は、七音を、二つ重ねるもの。
 ななむらじら長唄。寛永の頃、中村勘三郎のはじめ、俗語。
 ななむらじら仲人。結婚のなかだちする人。媒酌人。媒介人。

なな

ななむらじら長柄。一武器の柄の長きもの。總柄。二柄の長き傘。貴人の、馬上にある時などに、後よりかざすもの。三獅子の柄の長きもの。四車の柄の、長く、前へ差し出でたるもの。輓。
 ななむらじら長柄組。戰場にて、長柄の槍をつかふ騎馬。
 ななむらじら長柄持。長柄の傘を持つ人。傘夫。
 ななむらじら長追。敵の逃ぐるを、遠くまで追ひ行くこと。
 ななむらじら中垣。へたての垣。
 ななむらじら仲買。一甲より買ひて、乙に賣り、その間の口錢を得るを業とすること。さいざり。牙保。二仲買人の器。
 ななむらじら仲買人。仲買を、業とする人。
 ななむらじら中神。陰陽家にて、十二神の主として祭る神。
 ななむらじら長上下。肩衣の下に、長袴を用ゐる装束。上下、共に同じ染色とす。
 ななむらじら中着。襦袢と、上衣との間に着る衣服。
 ななむらじら長夜。死後に行くところ。冥土。
 ななむらじら長別。死に別れること。しにわかれ。
 ななむらじら名隠。名を隠して、いはぬこと。
 ななむらじら中口。双方の間に入りて、何れの事をも、隠しさまにひなすこと。
 ななむらじら長靴。脛まで捲ふべく深く造れる靴。兩足の時、又は騎馬の時に用ゐる。
 ななむらじら中窪。中は窪みて、四邊の高きこと。凹。
 ななむらじら中波。濁酒の上澄と、よみよみの向を汲み取りたるもの。下等の飲料とす。

をなむら されるりら よゆや もめんむみま はへふひは

なかくれなほ

なかくれなほ 中紅。濃淡、その中を得たる紅色。
 なかくる 中黒。丸の中央に、横に、太き一線をひきたる紋所。
 なかひし 長。ながしにたなじ。①黄之巻「さかき葉のこきはにあればなかくれに命たもてる神のきねかわ」
 なかひ 中子。一物の真中の部。中心。②特に、瓜、瓢なごの、種子を含める部分の、乗き肉。瓢。③また特に、刀の果の本の、欄に入りたる部分。刀心。④ほごけにたなじ。厨官の忌詞。⑤
 なかひ 中言。なかくちにたなじ。⑥十訓抄「この事たれかなかこしたりけん仲正かへり附きて」
 なかひ 長言。久しく談話すること。
 なかひ 心宿。二十八宿の一。しんにたなじ。
 なかひ 長籠。久しくこもり居ること。
 なかひ 中頃。一物事の兩端に片よらぬ中間の稱。なかは。②あひだ。中途。
 なかひ 長座。ちやうざにたなじ。
 なかひ 長精進。長きあひだ、精進すること。
 なかひ 長崎料理。支那料理を、日本料理に折衷したるもの。
 なかひ 長缸。草の名。じふろくささげにたなじ。
 なかひ 中差。一飯の中さほりに押せる矢。二婦人の髪の中を押す并の類。
 なかひ 中定。人生の盛りを、半分過ぎたること。
 なかひ 中流。一流すこと。二臺所の端にたなきて、食器など

を洗ふ承けに用ゐる、淺き槽。はしり。決水槽。三人浴者の背を擦り洗ふこと。四王に、夏の夜、三味線をひきつつ、街をねりあるくもの。
 なかひ 長。俗に、ながし。一端に、端ごの隔り、はるかなり。②久しくつづきてあり。永久なり。
 なかひ 流水。山にて切りたる木を、川づたひに、下流へ流すもの。
 なかひ 中島。川、池なごの中にある島。
 なかひ 流目。睛を斜にして見る目つき。よこめ。流野。斜視。秋波。
 なかひ 流者。鳥流しにせられたる人。渡島人。②ながしめばん 長襦袢。じゆはんの、たけ長きもの。
 なかひ 名頭。源、平、藤、橘なごの如く、人の姓氏を列記したるもの。
 なかひ 長尻。長居すること。長坐。②
 なかひ 中洲。川中なごにある洲。中島。
 なかひ 中流。一ながれしむ。②入浴者の肌をこすりて、垢を洗ひ去る。③評判を世に弘む。④流罪に處す。渡島を行ふ。⑤藥物を用ゐて、病、又は貧弱を、他の色に變ず。六寶物を、期月來りても請戻さずして、所有權を棄つ。七三味線を弾きて、街上を遊行す。八風を空にこぼす。相模國の方言。⑥動詞に添へて、その動作をかるがるしく見なしてこりあはぬ意を示すに用ゐる。⑦開きながす。
 なかひ 中蘇枋。蘇枋色の濃淡、その中を得たる染

のねにた こてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

なかつた

なかつた 長炭櫃。長きすびつ。②
 なかつた 中墨。建築上の語。物の中央のこころ。中心。
 なかつた 中刺。なかつたの刺。
 なかつた 仲脊。米俵なごをかつぐ人。かつぎ。
 なかつた 長袖。一武家時代に、僧侶、醫師なごの如く、小袖のみ着て居る人の稱。方外。②公卿の稱。
 なかつた 中空。一半はの空。そらのなかつた。二心の若し付かぬこと。うはのそら。有頂天。③何れもつつかぬこと。中ぶら。
 なかつた 中刺。頂髪の中をのみ刺り去ること。なかつた 中絶。交らひの絶ゆること。絶交。
 なかつた 中高。中部の高くして、四邊の低きこと。凸。
 なかつた 中違。交らひの、悪しくなること。不和。絶交。隙。
 なかつた 仲立。双方の間に立ちて、事をとり次ぐこと。
 なかつた 長太刀。一戦場にて、後世の種刀の如く、人馬の足なごを踏ぎて劍すに用ゐたりといふ太刀。柄長く、石突ありて、刃の長さ二三尺。二魚の名。たちのうをいふ。筑前國の方言。
 なかつた 仲立口。双方の間に立ち入りて、口をきくこと。なかうぐち。
 なかつた 仲立。なかつたをなす。媒介をなす。媒。
 なかつた 菜刀。なかりはうちやうにたなじ。
 なかつた 中度。事の半はなる時に。なかつた。

ながたん 長談議。長き時の間、談議をすること。長ものたり。
 なかた 中絶。まじはりが絶ゆ。絶交す。
 なかた 中絶。俗に、ながたらしい。冗長なり。
 なかた 中池。勢の、中頃たるむこと。②
 なかた 仲子。三人ある兄弟の、その仲なるもの。萬葉集「つむか野に鈴が音きこゆかむしたのこのなかつた鳥狩すらしむ」
 なかち 長血。婦人の生殖器の慢性病。赤帶下。
 なかち 長路。遠きみち。長途。②
 なかち 中違。なかつたにたなじ。
 なかち 中枝。中の枝。ほづ枝。下枝。この間の枝。②
 なかち 中務省。古の八省の一。官中に關する事を總理し、また國國の戸籍、僧尼の名籍なごの事をもつかさどりし後所。「うめ。長上。②
 なかち 長仕。交臂せずして、當直すること。ひら
 なかち 中次。一事を取り次ぐこと。紹介。②二抹茶を入るるに用ゐる茶入。
 なかち 長月。陰曆九月の異稱。②
 なかち 長月花。菊の異名。②
 なかち 仲子。三人ある兄弟の中の息子。なかつた。
 なかち 長局。「無かりせば音便」なかりしならば。
 なかち 長局。官中、又は大名の御殿の中に、局の、數多連なりたること。局町。

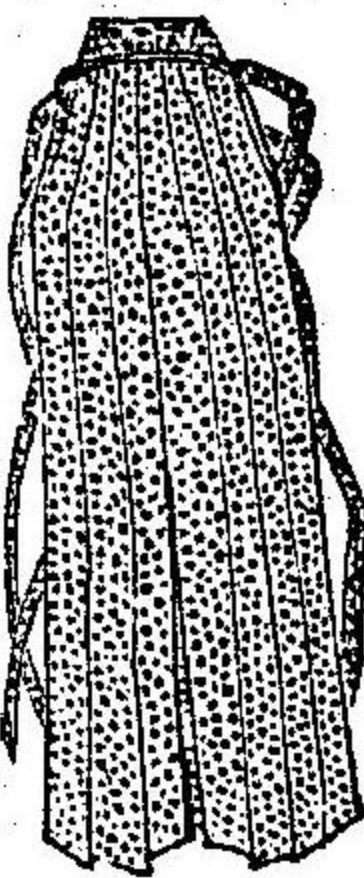
ををわ るれるり の よのや もめんむみま はへふひは

ながしめ

ながしめ 中積。中程に積み置けるもの。
なかに 中積。一早稲を、晚稲との間にみゆる稻。二は
しりの後、木くすの前に出づる蔬菜。

ながしめ

ながしめ 波多野大根。京都の語。
なかのき 仲秋。一あきのもなか。八月の十五日。二
韓して、陰曆八月の稱。



(りねはがな)

ながしめ

ながしめ 中積。中程に積み置けるもの。
なかに 中積。一早稲を、晚稲との間にみゆる稻。二は
しりの後、木くすの前に出づる蔬菜。

ながしめ

ながしめ 波多野大根。京都の語。
なかのき 仲秋。一あきのもなか。八月の十五日。二
韓して、陰曆八月の稱。

をふむわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

のねにな こてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

ながめ

ながめ 図 兼。ながめの器。伊勢物語「つれづれのながめ」。

ながめ 図 長持。物の長さより、長きこと。

ながめ 図 長持。一履の、横長きもの。衣服、調度などを蔵の置くに用ゐる。二物の、久しく保つこと。長保。持久。

ながめ 図 長物語。久しく物語すること。長語。

ながめ 図 長屋。一古、棟を長く建てたる家。二数多の家を、一棟に、長く建て連ねたるもの。三下等なる遊女の居ること。

ながめ 図 長。長きさまに。長く。

ながめ 図 中屋敷。上屋敷、下屋敷との間の屋敷。

ながめ 図 中休。仕事の間に、暫時休息すること。こやす。小憩。

ながめ 図 長休。長き間の休暇。

ながめ 図 長屋造。長屋の如き、家のつくりさま。

ながめ 図 中宿。ながめりにたなじ。

ながめ 図 中宿。到着すべき土地の手にある宿。

ながめ 図 長病。久しくやむこと。

ながめ 図 菜粥。こながめにたなじ。

ながめ 図 長湯。入浴時間の、長きこと。

ながめ 図 中結。一衣服の上の、中程のところに、帯をゆるめて、また、その帯。二風呂敷包の中ほどのところを、紐などにて結ぶこと。また、その紐。

ながれ

ながれ 図 中指。五本の指の、中央にあるもの。

ながれ 図 中結。なかゆひをなす。

ながれ 図 長夜。冬の長き夜。永夜。

ながれ 図 中善。交りの睦しきこと。親密。親善。

ながれ 図 中淀。中央部のよさむこと。

ながれ 図 中央。なかはにたなじ。

ながれ 図 隨。一そのままに、それと共にその意を示すに用ゐる。昔ながらの山櫻「二轉じて、こはいへ、なれ、なれ」もその意を示すに用ゐる。作。「然しながら」

ながれ 図 永久。久しく。ながく。

ながれ 図 交際。人々、人々の間がら。交はる中。

ながれ 図 存命。俗に、ながらへる。長くこの世にあり。死なずに居る。

ながれ 図 流。ふる(隆)にたなじ。萬葉集「雉子なくたかまのへに櫻花ちりながらふる見る人もかも」

ながれ 図 存命。ながらふること。

ながれ 図 流。俗に、ながれる。一流動體が、低きに就きて行く。二ながらふにたなじ。萬葉集「春霞ながるなへに青柳の」三溶けて滴る。溶く。四水に浮びて、深ひ行く。五月光大空に満つ。六移りゆく。七生きのこる。生存す。なからふ。八評判せらる。流布す。九次第にめぐる。十はづれて、外さまにゆく。十一さまよふ。さまよふ。流浪す。十二流産す。半産す。十三月来りても、請け戻すこと能はずして、質物を没收せらる。十四行はれすにやむ。

ながれ 図 勿。「無く有れの約然すな。莫。世。

ながれ

ながれ 図 流。一流るるさま。流るるもの。二水の流えながること。小川。流水。三冬の酒の餘瀝。酒のあまり。瀝酒。四流義を受け傳ふこと。五流質の器。六行はれりこと。やめ。七流女の器。八國旗を敷ふに用ゐる。流。

ながれ 図 流江。潮の流るる江。

ながれ 図 流水。一河海なさを流れ深中材木。二轉じて、流刑に處せられたる罪人。

ながれ 図 流灌頂。水邊に、塔婆を注ぎ、四邊に立て、白布を釣りひるひ、塔の葉なさを添へたるもの。その布に、水を灌ぎ、無縁の水死者なごの得脱の経す。

ながれ 図 流質。約束の期日を通ぎても、質物を請戻すこと能はざりしため、その物品が、質屋の有となること。

ながれ 図 流丸。それだまにたなじ。

ながれ 図 未世。すゑのよにたなじ。

ながれ 図 流杯。貴人の飲みたるあごの盃。貴人より、御酒を入れて賜はる杯。

ながれ 図 流身。ながれめにたなじ。

ながれ 図 流星。よはひはしにたなじ。

ながれ 図 流水。りうすみにたなじ。

ながれ 図 流女。うかれめ。遊女。

ながれ 図 流物。質物の流れたるもの。

ながれ 図 流矢。箭をはづれたる矢。

ながれ 図 回流。古人の流儀を守る。一稱。

ながれ 図 長脇差。一腰指の長きもの。二博徒の異

ながれ

ながれ 図 中綿。布團なごの中に入る綿。綿服。

ながれ 図 長煩。久しく病みてあること。

ながれ 図 仲居。一家内に使はるる下女。二遊廊にて、遊女を扶けて、客をとりなす、老功の下女。京都、大阪の語。三他人の妻の稱。甲斐國の方言。四はしたものにたなじ。徳川時代の語。

ながれ 図 長居。一久しく、同じところに居ること。二久しくすわりてあること。長坐。

ながれ 図 長鳥帽子。鳥帽子の一種。形、長くして、立鳥帽子の如きもの。

ながれ 図 中折下駄。下駄の裏の、中ほどより折れて、自由に曲るやうにつくれるもの。

ながれ 図 和。海上の風波の鎮まること。風。

ながれ 図 水葱。草の名。みづあひの類。古は、食用した。また、その葉の細きを、こなきこいふ。

ながれ 図 棚。木の名。高さ、數丈に至る。老ゆれば、皮、自ら剥けて、赤膚なる。葉は、竹に似て對生し、厚くして、縦線あり。竹節。

ながれ 図 泣明。泣きて、夜を明かす。夜をほし泣

ながれ 図 泣後。死にたる後。死後。

ながれ 図 泣入。正體のなきまで泣く。泣き沈む。

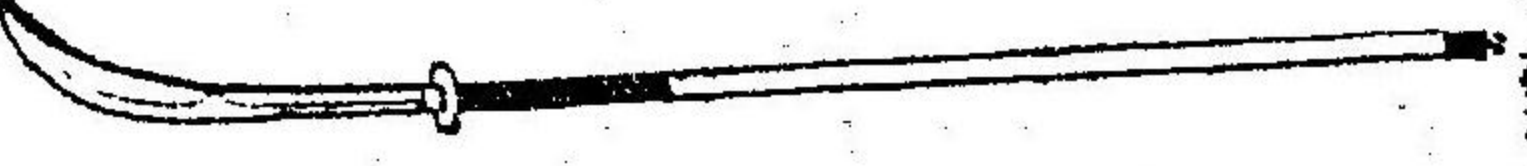
ながれ 図 泣影。亡き人の影。

ながれ 図 泣數。亡き人の長數。

ながれ 図 泣返。たびたたくなく。一「うら。ながれ 図 泣顔。泣かんとする顔つき。なきうら。ほえ

なまがき 薙鎌。長刀の類ならん。「薙」。
 なまがき 亡軀。亡き人のかはね。しかはね。屍體。遺
 なまがき 泣暮。泣きて、日を暮らす。終日泣く。
 なまがき 泣言。わが身の不幸を教きて語すこと。よま
 なまがき 泣聲。一粒かんとして語る聲。涙ぐみたる聲。
 なまがき 泣瀝。海岸の波の打ちよするところ。波うきよは。
 なまがき 泣叫。聲を放ちて泣く。號泣す。なげ
 なまがき 泣瀆。しきりに泣く。
 なまがき 泣洗。泣き伏す。泣き入る。「酒醉」
 なまがき 泣上戸。酒に酔へば、泣く癖のあること。
 なまがき 泣萎。俗に、なきしをれる。泣きて、
 正體がなくなる。
 なまがき 薙太刀。なきなたにたなじ。
 なまがき 薙立。俗に、なきたてる。横さまに拂ふ。
 なまがき 薙倒。横さまに打ちたふす。なきたて
 なまがき 無名。味方もなき評判。むじつの名。冤問。な
 きなたまへ人はいき。

なまがき 泣泣。なきつつ。なくなく。なきながら。
 なまがき 薙刀。刃の幅廣く、長くそりて、長き柄ある武
 なまがき 薙刀酸漿。海草の
 なまがき 泣瀉。泣きて、涙にぬ
 なまがき 泣寝。泣きながら、ねむること。
 なまがき 泣寝入。「なきねにたな
 じ」。二不満足ながらも、その儘にして止むこ
 なまがき 泣椰木。木の名。なきに同じ。
 なまがき 泣腫。泣きて、目の腫を
 なまがき 泣薙拂。横に打ちほらふ。
 なまがき 泣亡人。今は、世になき人。死に
 たる人。
 なまがき 泣伏。なきしつむにたな
 じ。
 なまがき 薙伏。俗に、なきしつむに拂
 ひたふす。なきたふす。
 なまがき 泣勝。ますます泣く。なきになく。
 なまがき 泣惑。前後もわきまへりまで泣く。
 なまがき 泣真似。泣くまねをすること。さらなき。
 なまがき 泣利。ただやかになる。しつまる。なごむ。



(た な き な)

のねにな きてつらた そせすしき こけくきか おえういあ

なまがき 泣泣虫。誰かのこころにも泣く人。
 なまがき 泣泣女。古、葬式の時、泣くことをつとむもの。
 なまがき 泣泣無物種。ものなしと思ひなげること。
 なまがき 泣泣菜切庖刀。庖丁の、刃の輝きもの。
 なまがき 泣泣笑。なきながら笑ふこと。
 なまがき 泣泣泣。悲みに堪へ兼ねて、聲を出し、涙をながす。
 なまがき 泣泣鳴。聲を放つ。(鳥、獸、蟲など) 時。「哭」
 なまがき 泣泣不。打割の刃の輝。
 なまがき 泣泣薙。横に拂ひて切る。
 なまがき 泣泣和。やはらぐ。程かになる。鎮まる。静ちつく。
 なまがき 泣泣風。前後のなぐにたなじ。
 なまがき 泣泣投。俗に、なげる。彼方へ飛びゆかしむ。は
 なまがき 泣泣慰。なぐさみのために。氣はらしたじ。
 なまがき 泣泣慰。なぐさむこと。氣はらし。
 なまがき 泣泣慰物。心を樂まするもの。氣はらしの體
 なまがき 泣泣慰。物思ひをわすれて、しほし樂む。うさ
 なまがき 泣泣慰。俗に、なぐさめる。他人の心をなぐさ
 なまがき 泣泣慰。なぐさむこと。
 なまがき 泣泣慰種。なぐさめたるたね。
 なまがき 泣泣失。なくなくにたなじ。

なまがき 泣泣泣。なきながら。なきつつ。
 なまがき 泣泣失。失ふ。絶えしむ。なくす。二死なす。
 死別す。
 なまがき 泣泣失。一消ゆ。つく。たゆ。ほろぶ。二死ぬ。
 殺す。源氏「われなくなりぬこと」
 なまがき 泣泣投箭。なげやにたなじ。
 なまがき 泣泣名倉砥。砥石の一種。三河國設樂郡名倉村の
 山中より出づ。合せ砥のならしに用ゐる。
 なまがき 泣泣打。横さまに打つ。打割す。たたく。ぶつ。
 なまがき 泣泣手数を省く。手向をほしよる。
 なまがき 泣泣一。うつつもの。買ねもの。しよひこみもの。
 稱貸。二放蕩なる人。
 なまがき 泣泣斜行。一横に逸る。よこへさる。二身を持
 ちくつす。放蕩なる。
 なまがき 泣泣無氣。なきが如きこと。度外視すべきこと。
 なまがき 泣泣投上。俗に、なげあがる。上の方へ向
 ひて投ぐ。
 なまがき 泣泣投入。俗に、なげいれる。投げ込む。
 なまがき 泣泣地。なげてやる。なげつく。蹴。
 なまがき 泣泣可歎。なげかはしにたなじ。
 なまがき 泣泣可歎。俗に、なげかはしい。なげなくへくあ
 り。かなし。
 なまがき 泣泣歎。一なげへく。溜息つへく。教息。二かな
 し。うたへ。悲嘆。
 なまがき 泣泣歎種。なげきのたねなるもの。

ををわ ろれるりり よゆや もめんむみま ほへふひは

なまや 投筒。なげてやる筒。投げつくる筒。
 なまや 投槍。敵に投げつくる短き槍。「放屋」。
 なまや 投遣。なげやること。なほざり。やりはなし。
 なまや 投置。一投げて、遠くにやる。なげつく。
 なまや 投渡橋。ひきつぱし。一本橋。權。
 なまや 投夏越。陰曆六月の晦日に執行する大祓。②
 なまや 投和。なきたり。ただやかなり。なだらかなり。③
 なまや 投夏越神樂。なごのほらへの時、執
 行する神樂。
 なまや 投夏越月。陰曆六月の異稱。④
 なまや 投名詞。めいじにたなじ。「方言」。
 なまや 投蟹氣樓。しんきうをいふ。伊勢國の
 なまや 投和。やはらぐ。なぐ。⑤ 心をなだむ。
 和がす。
 なまや 投納言。大納言、中納言、少納言の總稱。
 なまや 投和。やはらかに。ただやかに。やさしく。⑥
 なまや 投名古屋扇。尾張國名古屋より産する扇子。
 骨の數多くして、地紙に、漆をひきたるもの。「産す」。
 なまや 投名護蘭。草の名。神繩島の名護蘭の山中に
 なまや 投餘波。「磯に打ち寄せてかへる浪の、後に聊か盛
 るもの。②海上、風止みて、尚ほ波の鎮まらぬこと。③物事の
 すぎ去りて後なほ、その面影なほの残れること。④名残。⑤特
 に別れての後、心残りて、忘れられぬこと。⑥物事の影を
 残ること。餘波。

なまや 名残狂言。遠國より來りたる後者
 の、將に、その故郷に歸らんとする時に演ずる狂言。「こ」。
 なまや 名餘波病。病みたる後、また少しづつらふこと。
 なまや 名残情。俗に、なごりをしい。別離の情
 に堪へずあり。① ② ③ ④
 なまや 名海。甚しく荒れたる後、また大なる餘波のさかま
 なる。⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。一ものを憐む心。ものやれを知る心。情
 愛。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名色。淫。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。あはれに思ふ。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情立。なさけありげに振舞ふ。色あか
 しき舉動をなす。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。なさけありげに振舞ふ。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。なさけなきこと。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。俗に、なさけなし。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名情。夫にあらぬ者の子を孕むこと。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名色。淫を賣る。① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 なまや 名名指。一名を指してよこご。② その人に限る
 時、その名を告ぐること。
 なまや 名名刺。なだ。めいし。
 なまや 名不生兒。わが生まれぬ子。もらひこ。養兒。④

なまや 名不生兒。わが生まれぬ子。もらひこ。養兒。④
 なまや 名名刺。なだ。めいし。
 なまや 名名指。一名を指してよこご。② その人に限る
 時、その名を告ぐること。
 なまや 名名刺。なだ。めいし。
 なまや 名不生兒。わが生まれぬ子。もらひこ。養兒。④

なまや 名不生兒。わが生まれぬ子。もらひこ。養兒。④
 なまや 名名刺。なだ。めいし。
 なまや 名名指。一名を指してよこご。② その人に限る
 時、その名を告ぐること。
 なまや 名名刺。なだ。めいし。
 なまや 名不生兒。わが生まれぬ子。もらひこ。養兒。④

ななじく 撫子。一草の名。山野に生ず。莖に、節あり。葉は、細く長くして對生す。夏、秋の交に、薺の端、細かに裂けたる淡紅の花を開き後、莖を生ず。二葉は、紅梅にして、裏の背なる、かさねの色也。

ななじく 撫付。俗に、なつつける。一撫てて押しつく。二亂れたる髪を、梳りて整ふ。

ななじく 撫付。撫付の器。なでてつくるふ。

ななじく 撫付。髪を結はずに、頂後に梳き垂れて置くもの。

ななじく 撫付。何とて。なつて。なつてふ。

ななじく 撫沙魚。魚の名。ふかの一種。尾を振りて、人を、鮫より撫てたとして食ふ。

ななじく 南殿。ししんでんにたなじ。

ななじく 撫物。身を撫て、禱を移して、被ひ棄つるもの。多くは、かたしるを用ゐる。又着なれたる小袖をも用ゐる。

ななじく 何故。何とて。なせに。なにゆゑに。

ななじく 何。何とてか。何故にか。

ななじく 何名所。一姓名を、住所を、名前を、すみかを、二一つの器物の内の、一部分の名目。三名高き土地。勝地。名所。

ななじく 何和。やはらかに。のどやかに。

ななじく 何名取。一遊藝人などの、その技に就せるを以て、師匠より、藝名を許さるること。また、その名を許されたる人。

二名高きこと。有名なるもの。

ななじく 那篤留誤。英語 Notorium, 金屬元素の一種。純粋のものは、色、銀の如し。

ななじく 名取草。植物。牡丹の異名。

ななじく 七色唐辛。唐したる唐辛を粉にし、これに、胡椒、陳皮、山椒、罌粟の實、蘇麻の實を交へたるもの。七味唐辛。

ななじく 七色茶漬。ちんきやう、ちよらげ、柿づけの生煎など、七種ばかりを合せて、煮こしたる料理。

ななじく 七種。一春の七種の菜、即ち、せり、なづな、(きやう、はこべ、たびらこ、すずな、すずしろ)の類。二種じて、五節の、即ち正月七日の調。人日。

ななじく 七草。秋咲く七つの草。萩、桔梗、尾花、藤袴、女郎花、撫子、藜、或は朝顔を桔梗の代りに入る。

ななじく 七種粥。正月の七日に、食ふ。春の七種を混ぜたる粥。

ななじく 七種寶。世人貴重する七種の寶、即ち金、銀、珊瑚、瑪瑙、琥珀、車渠、真珠の類。

ななじく 七種花。なないろの花。

ななじく 七魚子。一金、銀、赤銅などの面に、小さき粒を、密につきあげたりしたる細工。二種物の縁口を、密に、且つ斜に打ち並べて、粒だちて見ゆるやうに織りたる羽布。魚子。粟紋。

ななじく 七魚子形。ななこの形をうつしたるもの。

ななじく 七頭八起。人間の運命の起伏たえななし。無名。名のなきこと。

ななじく 撫子 撫付 撫沙魚 南殿 撫物 何故 何 何名所 何和 何名取 七種粥 七種寶 七種花 七魚子 七魚子形 七頭八起

ななじく 無名指。くすりゆひにたなじ。

ななじく 無名指。くすりゆひにたなじ。

ななじく 七瀬。多くの瀬。

ななじく 七瀬川。七つの川。

ななじく 七結梗。草の名。たほみるぐまに同

ななじく 七毛。指に生ずる毛。

ななじく 七子鏡。中央の大なる鏡のまはり、七つの小さき鏡ありて、九曜の紋の如き形したるもの。

ななじく 七下。一夕暮の七つ時を過ぎたる頃。甲の下刺。二衣の染色のさめたるもの。

ななじく 七道具。一昔、源義經の巨勢屋の、背に負ひたりし、七個の武器、即ち鎌、鋤、短刀、刀、もちり、芥などの類。二剪刀、毛抜き、小刀等の如き七種の、懐中持にせらるる小道具。

ななじく 七時。申の刻。今の四時に當る。

ななじく 七曜。しちやにたなじ。

ななじく 七星。しちやにたなじ。

ななじく 七道。しちやにたなじ。

ななじく 七屋。しちやにたなじ。

ななじく 七所借。慶應八方より、金銭などを借り集むること。

ななじく 七七日。しじふくにたなじ。

ななじく 七七日。しじふくにたなじ。

ななじく 七社。近江國日坂にある七つの社。

ななじく 七彦粥。見伴生れてより、七日目にあたる日、祝ひのために煮る粥なりこと。

ななじく 七節。虫の名。あかこかけにたなじ。

ななじく 七重網。七つかさねたる網。佛の座の、厚くして、洗滌なきに穿へていふ。

ななじく 七曲。坂などの、幾重にも曲がりたること。つらつらなり。九折路。

ななじく 七斜。一傾きであること。なぞなること。二種より、深へ直して、系がきたる線。はずかけ。

ななじく 七回。なななにかにたなじ。

ななじく 七不斜。たほかたならず。はなはだしく。

ななじく 七夜月。陰曆七月の異稱。

ななじく 何。疑問の意をあらはすに用ゐる。何とて、なせと。いかで。なせ。

ななじく 何名。一名が、その實にかなふ。なにしたふ。二たごに附多。名高くあり。

ななじく 何某。一人、又は物事に、その名を借していはぬ時に用ゐる。二それがし。拙者。

ななじく 何某其某。なにのたれ。なにこれ。なにか。何彼。かれこれ。さかう。

ななじく 何不食顔。そしらぬ顔。しらすか。その事に關係なき様によそは顔つき。

ななじく 何是。一かれこれ。かれこれ。二なにがし。くれがしにたなじ。

ななじく 七瀬 七結梗 七毛 七子鏡 七下 七道具 七時 七曜 七星 七道 七屋 七所借 七七日 七七日

なにくれを何其。あれや、これや。なにや、かや。なにげなく無何氣。何もたはす。何さなく。何心なく。ふいふ。

なにかま何様。その故ありげに。いかさま。なにやう。なにちたふ何負名。なににたなじ。

なにしに何何のため。何のためにか。いかなる故にて。なにすれ何何爲。何のためにか。いかなる故にて。なにせん何何爲。何のためにもならぬ故に。

なにを何何。いかで。何ゆゑに。

なにを何何者。何それは。

なにを何何時。いつ。いつ。

なにを何何卒。ひたす。ひたす。

なにを何何逆。如何なれば。何故に。なぜ。

なにを何何無何。さうや。なにをもつかす。

なにに何何。なににたなじ。

なにに何何。何のために。なにゆゑに。

なにに何何者。なににたなじ。

なにに何何許。何にさぶらふはかり。なにほさ。

なにに何何難波草。植物。草の異名。

なにに何何難波薔薇。木の名。莖生にして、刺多し。葉は、秋に似て互生す。夏の半に、淡紅、又は白き五瓣の花を開く。香氣多し。金襴子。

なにに何何難波女。一難波の浦に住む女。二植物。草の異名。

なにに何何難波流。磯灘の一派。

なにに何何何分。一如何になせども。さうしても。二ひたすら。なににたなじ。

なにに何何何程。いくばく。さのくらゐ。いくば。

なにに何何何彼。何につけ、彼れにつけ、あれもこれ

なにに何何何様。なにさま。いかさま。

なにに何何何彼。なににたなじ。

なぬか何七日。なにかにたなじ。

なぬか何七日月。ななくさにたなじ。

なぬかのせち何七日節。あやうまのせちにたなじ。

なぬか何七日。正月七日の節。ななくさ。人日。

なぬか何名主。町村、又は船の長。里正。坊正。

なぬか何汝姉。男より、女を親みての稱。

なぬか何菜花。あぶらの花。

なぬか何斜。一少し歪むこと。ななめ。二たはかた。大概。

なぬか何不斜。たはかたならず。普通をこえて。

なぬか何名乗。じつみやうにたなじ。

なぬか何名告。人に向ひて、わが名を知らせる。

なぬか何莫鳴菜。海苔の名。葉は、細く平たく、細き葉の間に、小豆ほどの大きさの、丸き實を結ぶ。一月歳餅の飾に用ゐる。ほたはら。神馬藻。

なぬか何名告。自ら、己が名を告ぐ。

のねにたな ざつちた せすしき こけきか ぶえつあ

なはな何。菓。又は松綱の毛なさにて、長細く鎖ひたるもの。

なはな何。きのこをいふ。西國の方言。

なはな何。田畑なきの廣さを測るため、繩張りをする。

なはな何。苗生えの義。芽の生する。

なはな何。粗造なる繩ならんか。

なはな何。稲の種をたろす田。苗生じて、七八寸にたれば、常の田に移し植つ。秧田。

なはな何。苗代草。木の名。山野に生ず。夏の初め、枝のさきに、紅色の花を開く。夏の半、挿秧の頃に、置敷し、食用となる。

なはな何。稲の苗を植えつくる田。

なはな何。苗代水。苗代にせき入るる水。萬葉集「小山田のなはしろみづの中流にして」

なはな何。繩にて造れるすだれ。

なはな何。蟹の難の鳴くこと能はぬもの。たしぜみ。

なはな何。繩をたぐる。

なはな何。繩をたすきにすること。

なはな何。繩にて縛られたる人。罪人、又は生徒。

なはな何。繩のすぢ。

なはな何。二人が、繩の両端を持ちて上下に廻轉すれば、他の一人が、その廻轉する際につけ入りて、繩に觸れぬやうに、上下に飛びて遊ぶ遊戯。

なはな何。索を通す針。索針。

なはな何。一なはなふこと。二繩を綱ふ車。繩車。

なはな何。なふにたなじ。

なはな何。一延きたる繩の長さ。二段別の高の、檢地より、餘分にあつた。

なはな何。一一條の横竹に、多くの繩を結び下げて造れるのれん。米屋、居酒屋、車屋などに多し。二居酒屋の異名。

なはな何。繩を渡して架したる橋。

なはな何。繩にて造れる梯子。一端に、鉤をつけ、高き處に懸垂して用ゐる。

なはな何。繩を張りて、地坂を定むること。

なはな何。繩を以て、圓座の如く造りたるもの。

なはな何。一繩にて縛らるること。縄羅。二むすびめにたなじ。

なはな何。なここの轉。京都の語。

なはな何。かくるにたなじ。

なはな何。一なは張りをなす。二山林、田島などの廣さを測る。

なはな何。なびかしむ。なびくやうにす。

なはな何。風になびきてある葉。

なはな何。水流になびきてある藻。

なはな何。一風、又は水なごのため、横に臥す。二他の意に従ふ。

なはな何。なんぢにたなじ。

をるわ られるり ぶゆ もめんむみ ぼへふひは

なまものり 生魚。 やや狭めし。 ①
 なまものを 生魚。 煮も、焼きも、干しませず、また鹽にも漬けぬ。 鮮魚。
 なまねえ 生魚。 中年のごしより。
 なまねえ 生魚。 十分に太はえぬこと。
 なまねえ 生魚。 未熟の厚肉。 半面厚。
 なまねえ 生魚。 すし。 わづか。 いささか。
 なまねえ 生魚。 少しかたはに。 ②
 なまねえ 生魚。 十分に了解せずして、合煎する。 ③
 なまねえ 生魚。 はやのみこみ。
 なまねえ 生魚。 鉄の未だ鍛へぬもの。
 なまねえ 生魚。 雁の皮を、酢に漬けたる料理。
 なまねえ 生魚。 皮の未だひぬもの。
 なまねえ 生魚。 一なまなる貝。 二鮑の生肉を、薄くはやくして、三杯酢をかけ、若くは、冷水に浸したる料理。 みづがひ。 鮮貝。
 なまねえ 生魚。 一煮りたてにて、いまだ乾かぬ。 ④
 なまねえ 生魚。 生壁色の器。
 なまねえ 生魚。 あひねの濃き染色。
 なまねえ 生魚。 食物を、よくかまぬこと。
 なまねえ 生魚。 切りこりたる木の、未だ生気ありて、枯れ果てぬもの。
 なまねえ 生魚。 よくも聞き知らずして、物しり顔する。 ⑤
 なまねえ 生魚。 牛馬。

なまものを 生魚。 新しき。 生魚。
 なまものを 生魚。 俗に、なまなさい。 生魚の異あり。
 なまものを 生魚。 僧の酒色に溺れなうして、身の修まらぬもの。 ⑥
 なまものを 生魚。 斬りてなほ生気ある首。
 なまものを 生魚。 鋭ひ方あしくして、刃の鈍きこと。 また、その鈍き刀。 ⑦
 なまものを 生魚。 たくましく見えて、實は弱き。 ⑧
 なまものを 生魚。 なまぐる人。 なまぐるもの。
 なまものを 生魚。 精を出ださず。 たこたる。 やるける。 ⑨
 なまものを 生魚。 一海に産ず。 形、やや水蛭に似て大きく、長さ、五六寸より、尺餘に至る。 鱗なくして、脊に、疣多し。 腹は、平にして白し。 腹は、このわたこし、また全體を干して、りこ、干しこを造る。 ⑩
 なまものを 生魚。 二海鼠瓦の器。 三海鼠壁の器。 四海鼠餅の器。 五海鼠餅の器。
 なまものを 生魚。 正方形の瓦を、斜に並べ置にて、め、その合せ目に、なまこがたに、しっくりを塗り上げたるもの。
 なまものを 生魚。 はるこころ。 いろいろ。
 なまものを 生魚。 指りめめに絞らるるもの。 根がけならぬ。 ⑪
 なまものを 生魚。 少し懸し。 ⑫
 なまものを 生魚。 薄餅形につくりたる餅。
 なまものを 生魚。 冷死に至らしむること。

なまものを 生魚。 煮、炙きなせぬ。 なまものを。
 なまものを 生魚。 鹽に漬けぬ。 しほびきにせぬ。 ⑬
 なまものを 生魚。 侍の面目を保てぬ。 ⑭
 なまものを 生魚。 あなご。 ⑮
 なまものを 生魚。 なまなり。 未熟なり。 ⑯
 なまものを 生魚。 なまじにたなじ。 ⑰
 なまものを 生魚。 なまくらなる刀。 鈍刀。
 なまものを 生魚。 少し長き家筋。 ⑱
 なまものを 生魚。 なまじにたなじ。 ⑲
 なまものを 生魚。 強ひてなまでも濟む事にかかはりて、なまなかに。 ⑳
 なまものを 生魚。 いささかしめる。 ㉑
 なまものを 生魚。 俗に、なまじろい。 青みを帯びて白し。 うすじろし。 ㉒
 なまものを 生魚。 一古は、魚肉を、生にて、細くきぎみたるもの。 今、その細くは、やしたる肉を、酢に浸したるもの。 二また大根、胡蘿蔔などを、細くきぎみ、挿りたる白胡麻を、酢に浸きてあへたるもの。 ⑳
 なまものを 生魚。 銅鐵を焼きて軟かにす。 つぶす。 又物の焼きを戻して、鈍くす。
 なまものを 生魚。 鑪に用ゐる源五郎餅の、大なるもの。
 なまものを 生魚。 切りこりたる竹の、未だ枯れ果てずして、色青きもの。
 なまものを 生魚。 うみのままなる卵。
 なまものを 生魚。 いさち。 鮮血。

なまものを 生魚。 魚の名。 淡水に産ず。 頭、大きくして、口は、大きく左右に、長き。 脊は土色にて、腹白し。 尾に、岐なく、鱗なし。
 なまものを 生魚。 なまじはたの器。
 なまものを 生魚。 より出づる。 ⑳
 なまものを 生魚。 人の膚に生ずる、黒き又は白き斑刺。 なまじ。 鱗。 ㉑
 なまものを 生魚。 指にはえて居る爪。 いきづめ。
 なまものを 生魚。 なまじにたなじ。 ⑳
 なまものを 生魚。 俗に、なまなまし。 甚だあたらし。 ささ新しく見えてあり。 ㉒
 なまものを 生魚。 一新しきさまにて。 生氣失せずして。 二未熟に。 不十分に。 ㉓
 なまものを 生魚。 魚の名。 鮒の小なるもの。
 なまものを 生魚。 粟えのこほらぬこと。 年熟。
 なまものを 生魚。 うすら憎し。 ㉔
 なまものを 生魚。 なまはんじやくにたなじ。 ㉕
 なまものを 生魚。 いささかたまし。 ㉖
 なまものを 生魚。 少しはづかし。 ㉗
 なまものを 生魚。 なまなかにたなじ。 ㉘
 なまものを 生魚。 事の十分ならぬこと。 なまなかならぬこと。
 なまものを 生魚。 少し、腹を立つ。 ⑳
 なまものを 生魚。 源氏。

なまびこ 図生干。半は干ること。少し乾くこと。
なまびこ 図生兵法。少し、兵法を知ること。二
 いささか、物事を知られたること。なまものじり。
なまぶ 図生焚。焼き向めやして、未だなまなる焚。
なまへ 図名前。人の姓名。
なまほ 図生誇。少しほこらし。①
なまみ 図生身。いきてあるものの身。いさま。
なまみ 図南無阿彌陀佛。なまみだぶつ。②
なまみや 図生宮。なまなかの皇族。
なまむか 図牛昔。中世、近世との間の頃。近古。
なまめ 図生海藻。わひたるままの海藻。③
なまめ 図生娼。俗に、なまめかし。④あてやかな
 り。なまめきてあり。娼座なり。⑤娼を宿ひてあり。いさめ
 かし。⑥三たぐゆかし。娼宿。
なまめ 図生娼。物、未だ成りまらずして、若き
 さまあり。⑦若くして、塵はしくあり。⑧娼を宿ふさま見ゆ。
 いさめく。
なまもの 図生物。煮も、焼きも、干しもせぬまのまな
 も。⑨
なまもの 図生者。なまなかなる人。⑩
なまもの 図生物識。未熟なるに、物しりたること。又
 は、その人。半面學。
なまよ 図生焼。炙りて喰ふ物の、全くやけきらぬこと。
なまよ 図生酔。なまよひの酔。

なまよ 図生宜。少し宜し。餘り強からずあり。①
なまよ 図鉛。金属元素の一。柔軟にして、握み易く、磨け易
 く、色は、海藍なり。用途廣し。
なまよ 図隠。かくるること。②
なまよ 図訛。なまよひの言。なまよひたる言。③
なまよ 図生節。なまよひの聲。
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。④
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑤
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑥
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑦
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑧
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑨
なまよ 図生節。なまよひの言。なまよひたる言。⑩

なま 図並。①たつならぶこと。ならび。②二つ、つね、あ
 たりまへ。尋常。③一時勢にならびて、物ごとに行ふ事を
 示すに用ゐる。④徳川時代に、官名の下に添へて、權(本官又
 は正に對して)に同じき事を示すに用ゐる。
なま 無。なまに。なまがために。
なま ちぎは 図波打際。波のうち寄する岸。なまよせき
 は。なまき。
なま ちぎは 図波打。波が立つ。波がたてる。①波。
なま かせ 図波風。風、強く吹きて、波の高く立つこと。風
なま ぎ 図並木。一列に連なりて植われる木。
なま くら 図並藏。あまた並び立てる蔵。②
なま す 図並無。なまものに見えず。ないがしろにする。侮
 る。侮。
なま せん 図浪錢。くわんせん。せんにたなじ。③
なま た 図涙。涙、涙より分泌せらるる液體。泪。④花など
 の上にたはれる露に類していふ。
なま た ち 図涙勝。涙の多きこと。涙を出だすやうの
 事。の多きこと。
なま た せん 図涙金。貸借上にて、貸主の厚意にて、借主へ
 與ふる、若干の金。⑤
なま た せん 図涙。涙ぐめるさまなり。⑥
なま た せん 図涙。涙ぐめるさまなり。⑦
なま た せん 図涙。涙ぐめるさまなり。⑧
なま た せん 図涙。涙ぐめるさまなり。⑨
なま た せん 図涙。涙ぐめるさまなり。⑩

なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。①
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。②
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。③
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。④
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑤
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑥
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑦
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑧
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑨
なま の 図 涙。涙ぐめるさまなり。⑩

なみよけ 難波除。打ち寄する波を防ぐために築ける堤。防波堤。
なみよけの 難波除村。打ちよする波を防ぐために、岸に近い水中に立つる村。防波堤。
なみやまの 難波並依。ならびよる。① 後拾遺集秋の田にみやまの稻は山川の...
なみおの 難波並居。つらなる。たちならぶ。
なみやまの 難波並。ならはしむ。つらなり。ならぶ。②
なみやまの 難波管。俗に、なめる。舌の尖にて撫ぐ。ねぶる。
なみやまの 難波。一願ひ望む事を示すに用ゐる。なん。② 未來を想像する事を示すに用ゐる。なん。
なみやまの 難波無。佛に祈るべき。開ふる詞。
なみやまの 難波阿彌陀佛。佛敎の語。佛を拜するのまじりな詞。
なみやまの 難波南無歸命。なみ(南無)にたなじ。
なみやまの 難波南無三寶。一身の危急なる時なみ(南無)にたなじ。佛の救ひを求むる意にて唱ふる詞。② 事を過して、教息することを發する詞。
なみやまの 難波菜虫。虫の名。青菜にたかりて、その菜を食ふもの。
なみやまの 難波泣。なんぢにたなじ。④
なみやまの 難波。二つはひ。災難。② 惡しき病。欠點。さま。② 團圓困難 非難。他の非を詰る。
なみやまの 難波男。一をこ。なん。② 二をこ。せがれ。男の子。

なみやまの 難波何。なにの音便。
なみやまの 難波難易。難きか。易きか。
なみやまの 難波軟膏。かうやくにたなじ。
なみやまの 難波軟監。さしきらう。
なみやまの 難波難艱者。亂暴なる人。
なみやまの 難波難儀。くるしみ。難儀。艱難。
なみやまの 難波難義。解し難き義。
なみやまの 難波南京。支那より舶來せる。物の名に添へてなみやまの 難波南京兔。兔の名。兔の一種。形小にして、家畜を畜ふ。色、種あり。
なみやまの 難波南京玉。玉の一種。支那より舶來せるもの。紅、白、その他の色ありて、女兒、その孔に、糸を通して、指環なきす。
なみやまの 難波南京鼠。鼠の名。はつかねすみの一種。毛は、白く、又は雜白なり。
なみやまの 難波南京橘。木の名。葉は、互生し、秋紅葉す。夏、三四寸の葉を出だして、黄白の花を開く。實は、圓に生じ、形圓くして、熟すれば、思糖色なる。内に、三千ありて、豆の如し。
なみやまの 難波南京豆。草の名。らくわしやうに同。
なみやまの 難波南京虫。虫の名。有毒にて、人をさせば、痛み甚し。末じり。
なみやまの 難波難行。僧徒の、修行のためにする。難儀なるなみやまの 難波南極。地軸の南端。

なみやまの 難波難局。事の盛し難きころ。處理するに面倒なるはあひ。
なみやまの 難波難句。一詩句の解し難きもの。② むづかしき文章。
なみやまの 難波難癖。非難すべき癖。さま。なん。欠點。
なみやまの 難波軟化。柔らかくなること。
なみやまの 難波南瓜。草の名。たうなすにたなじ。
なみやまの 難波南華。たはけもの。阿房。
なみやまの 難波南家。藤原氏四家の一。武智藤を祖とする。
なみやまの 難波何箇。手の中に、物を握り、人をして、その数をあてしむ。遊戯。藏鏡。清卷。
なみやまの 難波軟骨。透明にして、強力に富める骨。即ち動物骨の多きもの。
なみやまの 難波男根。いんぎやうにたなじ。
なみやまの 難波難産。産に臨みて、胎兒が、安らかに出でずして、艱難なる。なみやまの 難波男子。一をこ。なん。② 二をこ。せがれ。男の子。この人。丈夫。
なみやまの 難波難事。難儀なるわざ。むづかしき事から。
なみやまの 難波何時。なんぢにたなじ。
なみやまの 難波難澁。一なすに難くして、採取はぬこと。② 困難。困。困。困難。難儀。
なみやまの 難波難症。治し難き病。難病。
なみやまの 難波軟弱。かよわきこと。ひよわきこと。
なみやまの 難波難所。山、海などの行き過ぐるに難きころ。

なみやまの 難波男色。男同士にて交すること。かほつらみ。
なみやまの 難波何箇。なにすれその音便。
なみやまの 難波難船。船の難破すること。破船。
なみやまの 難波何。一何(か)してか。いか。② 何なりとも。もの物にても。
なみやまの 難波何。やちよすれば。こもすれば。②
なみやまの 難波涙。なみたの音便。
なみやまの 難波男體。をここの音。男の體。
なみやまの 難波難題。一詩歌、文章などの題の、作るに難きもの。② 解しにくき質問。③ 無理なるいひかけ。むづかしきいひかけ。
なみやまの 難波か。なににたなじ。④
なみやまの 難波治。病の癒え難きこと。療治の届かぬこと。
なみやまの 難波汝。さま。そのはう。御手前。貴公。「不治。
なみやまの 難波難付。他の瑕を探りて、こもすれば。②
なみやまの 難波南庭。殿上の方にある廣場。
なみやまの 難波南鏡。鏡のなまこ。
なみやまの 難波何男丁。をここの。壯夫。
なみやまの 難波何云。何(か)して。さうして。いか。なみやまの 難波南天。木の名。一根に、數葉を發生す。冬季も枯れず、五月ころ、翅をなして、五瓣の小白花が、り開く。實は、圓くして小さく、熟すれば、赤くなりて、涙り垂る。又實の白きものあり。南天樹。

なんびん 南殿。 禁裏殿。 なでん。
 なんびんちく 南天竹。 木の名。 なんびんにたなじ。
 なんびんちく 何物。 「なんびん」のことで。 ちくでも。 ちくでも。 二。
 なんびんちく 何。 なんびん。 いかん。
 なんびんちく 納戸。 貴人の家の中に、衣服調度などを納め置くところ。 妻房。
 なんびんちく 何度。 なんたび。 いくたび。
 なんびんちく 何時。 一時刻の明かならぬこと。 なんじ。 二何れの時。 いづ。
 なんびんちく 何則。 何故ぞいふに。 如何になれば。 なんびんちく。
 なんびんちく 南都八景。 奈良地方にある、八箇所。 所。 勝地。 即ち南園堂の藤、佐保川の聲、春日野の鹿、猿澤の月、三笠山の雲、雲坂の雨、東大寺の鐘、葛橋の行人等。
 なんびんちく 南都奉行。 南都の興福寺、東大寺などの事を決する奉行。
 なんびんちく 無難。 まはりなく。 ぶなんに。 ぶうさなく。 たすく。
 なんびんちく 喃喃。 一燕の啼く聲。 二人の私語する聲。 へなんびんちく 回垂。 まさじ、その時にならぬこと。
 なんびんちく 男女。 をごころをんな。 だんぢよ。
 なんびんちく 何。 いかでかは。 何ぞ。
 なんびんちく 何彼。 ちやくと。 かれこれと。

なんびん 何其。 なにそれほきの事は、心にかくるに足らず。「なんびん」の聲をもごぼす葉の耳。
 なんびん 南蠻。 かばぢや。
 なんびん 難場。 困したたけ。
 なんびん 難破。 舟の遭難して、破壊すること。 難航。
 なんびん 南方。 南の方。 午の方角。
 なんびん 難破船。 遭難にあひて、破壊したる船。
 なんびん 難波煮。 小鯛を、すゐきを合せて煮たる料理。
 なんびん 南蠻。 一南の方のえびす。 二足利氏の頃、渡來せる西洋人。 多くは、西班牙人、葡萄牙人など。 呂宋地方より渡り來れるもの。 三草の名。 南蠻草の零。 陸奥國、佐渡國の方言。 四南蠻の零。 京都の語。 五南蠻。 越前國などの語。
 なんびん 南蠻辛。 草の名。 たうがらしをいふ。 陸奥國、佐渡國の方言。
 なんびん 南蠻黍。 粟。 粟共にもろこしに似て大に、高さ、五六尺に及び、夏、葉の間に大なる苞を生じ、上より、紅き糸の如きもの垂る。 熟すれば、苞を去り、煮て食ふ。 粒の白きもの。 赤きものあり。 たうもろこし。
 なんびん 南蠻砂。 ほうしやにたなじ。
 なんびん 南蠻鐵。 精練なる、舶來の鐵。
 なんびん 南蠻煮。 葱を、一寸五分ほどに切り、中を渡し、味をつけ、魚、鳥に交へて煮たるもの。
 なんびん 何人。 なにびん。 如何なる人。 たれ。

なんびん 難病。 療治し難き病。
 なんびん 南部。 一土地の南の方の部分。 南方の地。 二甲斐國南巨摩郡和部郡村地方より繰り出だす絨物。 いごわりに似て強し。
 なんびん 南風。 南方より吹きくる風。 熏風。
 なんびん 難風。 船の進行するに困難なる大風。
 なんびん 南部綺。 甲斐國南巨摩郡南部地方より産する絨物の類。
 なんびん 難物。 處置し難きもの、又は人。 もてあまし
 なんびん 何分。 なんびん。 音便。
 なんびん 何遍。 いくたび。 いくさ。 なんびん。
 なんびん 何程。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 何程。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 無阿彌陀佛。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 難問。 答へに困しむ問ひ。 對煩。
 なんびん 南無。 一寶のよき録。 二徳川氏の頃の通貨の一。 二米録。
 なんびん 南呂。 一十二律の一。 二陰曆八月の異稱。
 なんびん 履背。 はだつみにたなじ。
 なんびん 白痢。 ひやくりにたなじ。
 なんびん 綴面。 錢の、文字なくして、滑かなる方の面。 ぬめ。 東國の方言。

なんびん 蛭蝟。 虫の名。 蝟牛に似て、殻なく、頭に二本の角あり。 背は、灰色にして、黒きすぢあり。 卑濕のころを好み。 蛭蝟。
 なんびん 蛭蝟。 虫の名。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 菜飯。 あぶらなの葉を、細かに刻み、炊きたての飯にまぜたるもの。
 なんびん 無禮。 無作法なり。
 なんびん 草。 藪したる草。 つくりがは。 柔草。
 なんびん 草。 毛皮の毛をとり、脂を去りて、水にてさらし、柔かにす。
 なんびん 口。 口の周圍を、舌にて、幾度もなむ。
 なんびん 並。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 管味。 ひしほをいふ。 甲斐國の方言。
 なんびん 管物。 ひしほの類の稱。
 なんびん 滑。 ちらなく平かに。 すへすとら。
 なんびん 滑魚。 海獸の名。 身の長さ一丈ばかり。 形まろく、色黒く、やま鯨に似たり。 東南海に産じ、食用に供す。
 なんびん 滑魚。 海獸の名。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 滑。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 管。 男が、女に私通す。
 なんびん 南無。 なんびん。 いくさ。
 なんびん 生揉。 草の名。 莖の長さ三四尺、春生じて、秋枯る。 二種ありて、をなもみは、夏、白花を開き、實を結ぶ。 めなもみは、秋、細小なる黄葩を開く。

なりかか

なりかか 鳴懸。呼びかけて、のしりさわぐ。
なりかか 形体。かたち。すがた。
なりかか 鳴代。身代りになる。名代す。
なりかか 鳴鏡。かぶらやにたなじ。
なりかか 生口。果實のほそのころ。
なりかか 生毛。地よりたひ出づるもの。なりいでもの。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。
なりかか 成下。音より、食糧となる。たすめる。

なる

なりはひ 生業。一人の、この世を渡る業。すぎはひ。世。
なりはひ 農舟。たふねにたなじ。
なりはひ 生瓢。ひさごにたなじ。
なりはひ 鳴響。ひびきたる。なりわたる。
なりはひ 業平武士。柔弱なる武士。
なりはひ 形振。なりすがた。みなり。
なりはひ 成優。優りたる方になる。よくなる。
なりはひ 癩病人。癩病に罹りたる人。かつたい。なり。
なりはひ 鳴物。音楽に用ゐる。金鼓。管絃などの總稱。
なりはひ 成物。一田畑などに出来る。食用となるべきもの。總稱。なり。
なりはひ 鳴矢。かぶらやにたなじ。
なりはひ 成行。なりゆくこと。行く末。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。
なりはひ 成行。自ら、その方さまにかたむく。う。

なる

なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。
なる 馴。俗に、なれる。一屋出會ふ。習ひて熟す。

なる

なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。
なれ 波。なれにたなじ。

に 図土。一つちになじ。二赤色の土。古、染料に用ゐたり。三赤色の土にて染めたる色。
 に 図荷。一運送に便りよきやうに包みたる物。奇物。二じやま物。厄介物。
 に 図瓊。たまになじ。
 に 図貳。太宰府の次官。
 に 図尾。比丘尼の号。
 に 図一。三味線の糸の、中間にあるもの。
 に 図一。名詞に添へて、目的格を示すに用ゐる。二打消の意を示すに用ゐる。三「行くを知らに」三三つの、同じ動詞の間にわきて、語勢を強め、且つ語調を助くる。四他動を、副詞とするに用ゐる。
 に あり 図一上。三味線の二の糸の調子の、他の糸より
 に あり 図荷揚。舟に積みたる荷物を、陸地に揚ぐること。
 に あり 図煮揚。煮たる食物を、器より出だして、暫時入れ置く事。
 に あり 図似合。俗に、にあはしい。似合ひてあり。約り合ひてあり。
 に あり 図似合。にあふこと。にあひてあること。
 に あり 図似合。よくつり合ふ。相應ず。適合す。
 に あり 図煮饗。雄の皮、梅干、田作、木茸、銀杏、黒豆、胡桃などを混合して、うまみにし、玉子をかけたる料理。
 に あり 図兄弟。兄弟の謂。
 に あり 図煮色。酢及び醤油を混合して、物を煮る。二だに 図 調子なるのひび。

に あり 図乳香。くんろくの、乳頭の形をなせるもの。蘇用す。
 に あり 図乳柑。くねんはになじ。
 に あり 図乳痛。乳房に出来る腫物。
 に あり 図乳眼。ちめになじ。
 に あり 図乳虎。乳をのみ居る虎の子。
 に あり 図乳兒。ちのみになじ。
 に あり 図乳臭。一おすくさきこと。乳の香のぬけりこと。二少年の、思慮深くして、何事にも未熟なること。
 に あり 図乳汁。女の乳房より分泌して、生兒を養ふ用に供せらるる液體。純白色、又は黄を帯び、甘味を有す。
 に あり 図乳糖。身體、性質のよきもの。
 に あり 図乳石英。糖物。乳白色なる石英。
 に あり 図乳鉄。乳汁の十分に出でぬこと。
 に あり 図乳。散薬を調製するに用ゐる糖。糖子、又は調子にて造る。
 に あり 図乳糜。食物の、胃のなかにて消化せられたるもの。
 に あり 図乳管。乳糜の通す道。
 に あり 図乳母。めのこと。うは。わんば。
 に あり 図乳棒。散薬をすりこみす、すりこぎの如き棒。
 に あり 図乳木。腫瘍に突く材。ちぎ。
 に あり 図荷馬。荷を負ひ運ぶ馬。二にたうま。駄馬。
 に あり 図煮梅。梅の實を、砂糖にて煮たるもの。
 に あり 図乳名。乳汁を飲む頃の名。幼名。

あいうえお かきくけこ させすしお こけくきか せつちた たねねに

に あり 図煮麩。煮たるそうめん。
 に あり 図乳養。乳を飲ませて養ふこと。
 に あり 図乳癩。乳癩の悪症なるもの。
 に あり 図乳酪。きうらくになじ。
 に あり 図煮賣。魚類、又は菓類を煮て賣ること。またその賣圓く、皮少しきはみたり。空圓梨。
 に あり 図煮賣酒屋。煮賣の傍ら、酒飯をも出だす。下等なる飲食店。
 に あり 図柔利。性質ののりやはらかなること。縁順。
 に あり 図鈍。鋭へ方によりて、刀の刃の焼きに、文理のあらはなるもの。
 に あり 図煮。煮えたる程あひ。「沸騰す」。
 に あり 図煮返。沸き上がる。たぎる。にえたつ。
 に あり 図煮返。にえかへるになじ。
 に あり 図煮溢。俗に、にえこはれる。沸き上がりにて、器の外に溢る。
 に あり 図煮滾。にえかへるになじ。
 に あり 図煮立。にえかへるになじ。
 に あり 図呻吟。によむになじ。
 に あり 図煮湯。沸き上がりたる湯。たぎれる湯。熱湯。沸にたひま 図荷負馬。荷を負ひたる馬。駄馬。
 に あり 図煮御水。つくりみつになじ。
 に あり 図二階。一厨子の棚の上に、更に造り重ねたる棚。

に あり 図二階。二階の上に、更に重ね造りたる家。たかの。樓。
 に あり 図苦顔。不満足なる顔つき。
 に あり 図二階梯子。二階に昇降するためにかけたる梯子。段梯子を、多しらす。樓梯。
 に あり 図二階廻。校様に、階段の取締をなし、又は客の世話ならする老練。やりて。
 に あり 図苦色。表は濃き香にて、裏の二階なる、かさねの色目。また表は、黒はみたる香にて、裏は、薄紫なりこと、二階なりこと。
 に あり 図一更。夜の、亥のとき。今の午後十時十一時の頃。
 に あり 図苦瓜。草の名。瓜の一種。葉は葡萄の葉に似て、それより小さく、葉に、髪あり。秋、黄色の花を開く。瓜の味は苦し。
 に あり 図苦木。木の名。こねりになじ。
 に あり 図苦口。人の氣に障るやうなる口をきくこと。にくまれやち。
 に あり 図苦。俗に、にがい。「舌に不快なり。二いとはし。快からずあり」。
 に あり 図苦鹽。食鹽の、空中の水分を吸収して、自ら液體となりて、滴るもの。味苦し。にがり。鹹汁。
 に あり 図二心候。悪性の鈍きこと。
 に あり 図煮方。煮る方法。二料理番の中、食物を煮ることを司る人。
 に あり 図苦竹。竹の一種。しのだけに似て、竹の味苦し。またけ。

あいうえお かきくけこ させすしお こけくきか せつちた たねねに

にがて 苦手。一勝つて難き相手。(茶、將茶、角力など) 二互に争みきらひて、折り合はぬ性質。

にがな 苦菜。草の名。一りんだうにたなじ。二路傍に生じ、春、芽を出だして、たんばの如き花を開く。黄花草。

にががし 苦苔。俗に、にがにがし。快からずあり。癖はし。さあじ。せらし。

にがに 苦螺。貝の名。ししの一。形、長大にして、頭、尾尖り、黄白色にして、赤みを帯ぶ。短き黒褐色の角あり。

にがは 苦膠。牛の皮を煮て、その液をとり、乾せるもの。粘着力強し。

にがはた 苦膚。鼠などの生せる皮膚。

にがはつひ 膠付。膠にて、物をつけ合すること。

にがはな 膠鍋。膠を煮て溶かす鍋。

にがふ 二合。押字の一種。名乗の二字を、上を、普通に書き、下を、花押に書きたるもの。

にがな 苦鮓。魚の名。たなをいふ。關東の方言。

にがへし 煮返。煮かへすこと。また煮かへしたるもの。

にがへし 煮返酢。酢に、少し鹽を加へて、よく沸かしたるもの。冷したるもの。蔬菜を漬くるなほに用ゐる。

にがへす 煮返。一度煮て時経たるものを、再び煮る。こなほす。

にがほ 似顔。人の眞相を畫がき寫したるもの。肖像。

にがみ 苦味。にがみ。にがみ。

にがみ 苦切。甚しくにがみ。

にがみ 苦走。をかし難き難つきに見ゆ。

にがむ 苦。唇みきらうるが、面に現る。大鏡二所もにむむにむむはさうじむ。苦。顔をかむ。

にがむ 苦虫。にがにがしき強じきを、形容するに用ゐる。

にがむ 似通。かたむむ、互に似る。

にがむ 苦汁。にがむにたなじ。

にがむ 苦切。にがむにたなじ。

にがむ 苦。にがむにたなじ。

にがむ 苦笑。にがむらふら。

にがむ 苦笑。にがむにたなじ。にがむにたなじ。身の上をのみする。こきにむむにたなじ。にがむにたなじ。

にがむ 二氣。陰、陽。

にがむ 二季。春、秋。夏、冬。四、時。

にがむ 二儀。天、地。兩儀。

にがむ 二和。米につきしらびたる稻。白米。

にがむ 日記。日日の出来ごころを書きつく。

にがむ 和。柔かなるたへ。

にがむ 二鳥。動物。雁の異名。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

のねにた ごとつらた せせすしき こりくきか おえういあ

にがむ 苦。唇みきらうるが、面に現る。大鏡二所もにむむにむむはさうじむ。苦。顔をかむ。

にがむ 苦虫。にがにがしき強じきを、形容するに用ゐる。

にがむ 似通。かたむむ、互に似る。

にがむ 苦汁。にがむにたなじ。

にがむ 苦切。にがむにたなじ。

にがむ 苦。にがむにたなじ。

にがむ 苦笑。にがむらふら。

にがむ 苦笑。にがむにたなじ。にがむにたなじ。身の上をのみする。こきにむむにたなじ。にがむにたなじ。

にがむ 二氣。陰、陽。

にがむ 二季。春、秋。夏、冬。四、時。

にがむ 二儀。天、地。兩儀。

にがむ 二和。米につきしらびたる稻。白米。

にがむ 日記。日日の出来ごころを書きつく。

にがむ 和。柔かなるたへ。

にがむ 二鳥。動物。雁の異名。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 苦。唇みきらうるが、面に現る。大鏡二所もにむむにむむはさうじむ。苦。顔をかむ。

にがむ 苦虫。にがにがしき強じきを、形容するに用ゐる。

にがむ 似通。かたむむ、互に似る。

にがむ 苦汁。にがむにたなじ。

にがむ 苦切。にがむにたなじ。

にがむ 苦。にがむにたなじ。

にがむ 苦笑。にがむらふら。

にがむ 苦笑。にがむにたなじ。にがむにたなじ。身の上をのみする。こきにむむにたなじ。にがむにたなじ。

にがむ 二氣。陰、陽。

にがむ 二季。春、秋。夏、冬。四、時。

にがむ 二儀。天、地。兩儀。

にがむ 二和。米につきしらびたる稻。白米。

にがむ 日記。日日の出来ごころを書きつく。

にがむ 和。柔かなるたへ。

にがむ 二鳥。動物。雁の異名。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

にがむ 二握。二握りたる。二握りて、凡ての御幣。ね。

をふわ られるり の よのや もめんむみま はへよひは

にんがん肉眼。眼鏡の類を用ひず、まなこにて、物を眼
 隠す。にんがん肉切。肉切庖丁の器。
 にんがん肉切庖丁。肉類を切る庖丁。
 にんがん肉塊。にくのかたまり。にくのきれ。
 にんがん肉冠。雄鶏の頭にある、赤き肉様のもの。
 にんがん肉桂。熱帯地方に生ずる桂の木皮。薬用。
 にんがん肉刑。死刑にすること。
 にんがん肉叉。にくさしにたなじ。
 にんがん肉憎相者。憎きさましたるもの。
 にんがん肉憎氣。にくらしきさま。
 にんがん肉障。人を前にするまきて、風を遮る。
 にんがん肉差。西洋料理なりの肉類を刺して食ふに用
 みる具。ほたく。肉叉。
 にんがん肉荷轄。ふなはたを、舌ななにて包み、涙を避く
 るもの。
 にんがん肉肆。食料の肉類を商ふ家。
 にんがん肉憎。俗に、にくい。かはゆくなし。悪。悪徳。俗
 に、にくい。動詞に添へて、易からず、難しなりの意を示すに
 用ひる。「憎きにくし」
 にんがん肉食。にくしよくにたなじ。

にんがん肉憎。にくみにたなじ。悪。
 にんがん肉身。からだ。
 にんがん肉親。血筋の、最も近き人。
 にんがん肉醬。しじしほにたなじ。
 にんがん肉情。にくよくにたなじ。
 にんがん肉襦袢。にくいろの襦袢。
 にんがん肉食。肉類をくらふこと。
 にんがん肉汁。にくかうにたなじ。
 にんがん肉體。肉にて成り立てるからだ。
 にんがん肉祖。はたぬき。
 にんがん肉祖。にくらしにたなじ。
 にんがん肉池。にくらしにたなじ。
 にんがん肉陣。にくささへにたなじ。
 にんがん肉附。身體肥瘦のほらみ。
 にんがん肉月。漢字の肌、肘、腕なりの字の左傍にある
 月の字の偏。
 にんがん肉豆蔻。木の名。熱帯地方に産す。幹は、梨
 に似て、葉は、はらの如く、實は、黄色にて香しく、大さあんず
 ほらなり。「仁」を薬用す。
 にんがん肉附肉。身體肥瘦。よらみ。
 にんがん肉弟。血をわけたる弟。

にんがん肉體。にくらしき容子。
 にんがん肉笛。くちぶえ。
 にんがん肉店。にくやにたなじ。「なり」
 にんがん肉憎。俗に、にくくしい。憎らしき様
 にんがん肉憎。極めてにくくしい。
 にんがん肉波。さしむにたなじ。
 にんがん肉薄。せめよるもの。「かきもの」
 にんがん肉筆。すりものにあらすして、真筆のままに
 にんがん肉屏風。屏風を立てたまはしたる如く、人
 を並べ「しりぞかせる」こと。
 にんがん肉餅。蒲餅の異名。
 にんがん肉片。肉のきれ。しじり。
 にんがん肉被憎口。人の思ひ違ふやうなることば。
 にんがん肉被憎子。人に思ひ違はるるいたづら。
 にんがん肉憎。にくくしい。悪。
 にんがん肉味。肉のあじはひ。
 にんがん肉憎。仇と思ふ。にくくしいと思ふ。悪。
 にんがん肉屋。鳥獸の食料となるべき肉を賣る家。もも
 にんがん肉慾。男女の情慾。色慾。「んじや」
 にんがん肉鞍。荷馬に置く鞍。駄鞍。
 にんがん肉憎。俗に、にくくしい。憎むへんじ。
 にんがん肉瘤。こぶにたなじ。「し。悪」
 にんがん肉荷車。荷を運送する車。輦車。

にんがん肉煮黑。黒百如く、しろめ三十如くの割合なる
 合金。にくらめ。烏鋼。
 にんがん肉土黒。土色の如く黒きこと。
 にんがん肉土黒。土色の如く黒じ。
 にんがん肉煮黒。にくらみにたなじ。
 にんがん肉北。うへまら。
 にんがん肉反芻。牛、羊などが、一度噛みたる草を吐き出して、
 にんがん肉逃足。逃れんことをすすす。「逃走」
 にんがん肉逃亡。俗に、にげうせる。のがれつす。
 にんがん肉逃匿。のがれかくるること。のがれひそむ
 こと。逃匿。
 にんがん肉逃。にげかむにたなじ。
 にんがん肉逃口上。にげかむにたなじ。
 にんがん肉逃辭。他人に請られて、その答辯をなさず、
 餘事にくらめらるること。
 にんがん肉逃入。にげて逃散物のかげに入る。
 にんがん肉逃支度。逃れんとする用意。
 にんがん肉逃散。のがれて、四方へ散る。ちりぢり
 になりてのこる。
 にんがん肉無似氣。似合はしからずあり。つり合はず
 にんがん肉二毛馬。白、黒の二色の毛の馬。れ
 にんがん肉逃延。俗に、にげのびる。逃れて、遠く
 にんがん肉逃眼。逃げんとする時の眼つき。「去る」。

にしきめかぬ 花鏡。筒の一端に、種種に彩色せる硝子の小片を入れ置き、筒を廻しながら、他の一端より覗けば、種種の模様を現はすやうに透りたる眼鏡。

にしきめかぬ 錦繪。美麗に彩色したる繪。多くは、浮世画なり。江戸畫。東錦繪。

にしきめかぬ 西陣織。西京の西陣より織り出たす、精巧なる錦織。絹織の類。

にしきめかぬ 復輪。虫の名。地虫の、土中にて、踊りなりたりしのある。西京の土、西方浄土の主、即ち阿彌陀佛のにのちがみ西之内。西之内紙の器。「西」。「西」。

にしきめかぬ 西光。佛の語。西方浄土に居る佛の光。にしき西日。日の入り方の光。夕日。

にしきめかぬ 西一代集。入代集、十三代集を合せるもの。

にしきめかぬ 西二十五菩薩。佛の語。二十五の菩薩。即ち觀音、藥師、彌勒、文殊、釋尊、阿闍梨、虚空藏、德藏、寶藏、山海慧、金剛、金藏、光明王、華嚴王、日光王、月光王、三昧王、誠自在王、大寶王、大威德王、無邊身。

にしきめかぬ 西二十四孝。支那にて、孝行を以て著し

き二十四人、即ち帝舜、漢文、曾參、閔損、仲由、董永、劉子、江革、陸績、唐夫人、吳猛、王祥、郭巨、楊香、朱壽昌、復齡、老萊子、姜夔、黃香、姜詩、王裒、丁蘭、孟宗、山谷。

にしきめかぬ 二十四氣。曆の語。一年の内にある、二十四の氣節。今、陽曆の月日に當つれば、大抵左の如し。立春二月三日、雨水二月十八日、驚蟄三月五日、春分三月二十日、清明四月五日、穀雨四月二十日(以上春)、立夏五月五日、小滿五月二十一日、芒種六月五日、夏至六月二十一日、小暑七月七日、大暑七月二十三日(以上夏)、立秋八月七日、處暑八月二十三日、白露九月九日、秋分九月二十三日、寒露十月八日、霜降十月二十三日(以上秋)、立冬十一月七日、小雪十一月二十三日、大雪十二月七日、冬至十二月二十二日、小寒十二月五日、大寒一月二十日(以上冬)。

にしきめかぬ 二十四節。にしきかたにたなじ。

にしきめかぬ 二十二社。昔、京都皇居の守護神として奉りせられたる、二十二箇所(社)の社。即ち伊勢、石清水、加茂、松尾、平野、稻荷、春日、大原野、大神、石上、大塚、廣瀨、龍田、住吉、日吉、梅宮、吉田、廣田、祇園、北野、丹生川上、貴船。

にしきめかぬ 二十八宿。徳川氏の功臣にして、野田日光山の東照廟へ配祀せられたる二十八人の人。即ち松平康忠、酒井忠次、伊井直政、藤原康政、大須賀康高、大久保忠教、伊奈忠俊、伊奈忠政、大久保忠世、大久保忠佐、内藤信成、井正親、内藤家長、米津淨忠、香酒定心、平岩親吉、奧平信昌、本多忠勝、島屋元盛、渡邊守綱、岡部長成、高木正順、蜂屋貞次、服部正綱、安藤直次、本多康高、松平伊忠、水野勝成。

にしきめかぬ 二十八宿。支那古代の天文學にて、周天の星宿を、二十八に分ちたる稱。即ち東方は、角、亢、氐、房、心、尾、箕、北方は、斗、牛、女、虚、危、室、壁、西方は、奎、婁、胃、昂、畢、觜、參、南方は、井、鬼、柳、星、張、翼、轸。共に恒星なり。

のいかにな ぎつちた をせすしき こけきかた ねえういあ

にしきめかぬ 二十八天。佛の語。二十八界の天、即ち色界の六天、色界の十八天、無色界の四天の稱。各界の條を見よ。

にしきめかぬ 二十寮。古、諸省中に置かれたる、二十の寮。即ち大舍人、圖書、内藏、藏殿、内匠、大車、雜業、左番、諸般、主計、主税、木工、左馬、右馬、兵庫、陰陽、主殿、大炊、掃部、諸官。

にしきめかぬ 二十六夜。二十六夜待の器。

にしきめかぬ 二十六夜待。陰曆の正月、及び七月二十六日の夜半に、月の出づるを待ちて、それを拜すること。つきまじ。

にしきめかぬ 煮染。俗に、にしめる。汁の染みこむまで、よく煮る。にじむ。

にしきめかぬ 鈍染。色しみをちりて、鮮明ならずあり。入にじむ。西向。西方に向へること。

にしきめかぬ 二親。ふたはや。父母。両親。

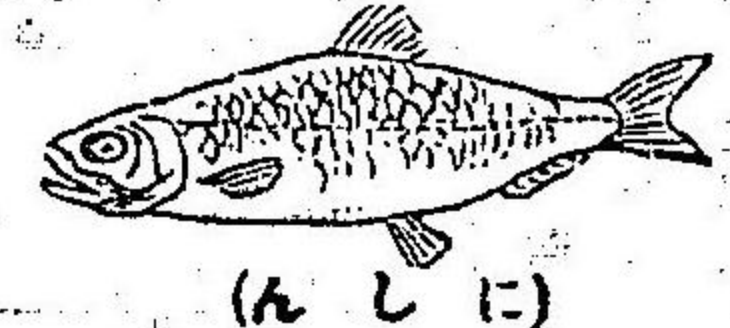
にしきめかぬ 貳心。心の、一途に定まらうこと。ふたこころ。半信半疑。

にしきめかぬ 鱒。魚の名。北海に産し、形小まし。春内を乾して、各地に送る。その鱠を、かすのことといふ。共に食料なる。かき。青魚。

にしきめかぬ 二神石。平庭の井戸の左右に設くる板石の稱。

にしきめかぬ 煮染物。煮染物の器。

にしきめかぬ 煮染物。味淋、醤油、砂糖などをにて煮染めたる飯の副食物。



にしにし

にしきめかぬ 二朱。一ニ朱金の器。一ニ朱銀の器。

にしきめかぬ 二登。病の神。やまひ。病氣。「分の一」。

にしきめかぬ 二朱金。徳川時代の通用貨幣。金一兩の八にじゆきん 二朱銀。徳川時代の通用貨幣。金二分の二分の一。兩銀。

にしきめかぬ 煮染。筆をにじりてかくこと。描く書きたる器。物を煮たる汁。

にしきめかぬ 二似。物につけつつ動かす。「模倣す」。

にしきめかぬ 似。俗に、にせる。似るやうにたす。まねる。煤の煮たるもの。板なみの色つけに用ひにす。

にしきめかぬ 丹摺。赤き土にてすりたる器。

にしきめかぬ 二水。漢字の氷、沖、冷、列などの字の左傍にある。この字の稱。(三水に對して)。

にしきめかぬ 二儂。「真似ること。偽ること。本物とまぎらすこと」。儂。二儂物の器。

にしきめかぬ 二世。この世と、次の世と。現世と、來世と。

にしきめかぬ 儂印。にせはん。ほうはん。「金」。

にしきめかぬ 儂金。通用貨幣の如く偽造したるもの。贗造にせきび 儂首。その首に似せた首。

にしきめかぬ 儂札。通用紙幣の如く偽造したるもの。贗造にせきび 儂證文。偽はりの證書。偽券。「札」。

にしきめかぬ 儂版。偽造したるすりのもの。

をるわ わるるりら よゆや めんむみま ほへふひは

にせふた 圖 質札。金札、銀札の偽造したるもの。
 にせんせき 圖 二千石。縣知事の異稱。
 にせもの 圖 質物。にせてつくれるもの。
 にせぬ 圖 有盡。せうぎやうにたなじ。
 にせぬ 圖 二鼠。日、月の稱。つきひ。鼠。
 にせぬ 圖 尼僧。あま。比丘尼。「にせぬ」
 にせぬ 圖 二足三文。殆ど、債のなきほなる
 にせぬ 圖 二尊。「伊弉諾尊、伊弉册尊の稱。二佛
 の語。釋尊、慈尊の稱。
 にたぬ 圖 荷駄。馬に負せたる荷物。
 にたぬ 圖 二諦。佛教の語。安立諦、俗非安立諦、俗諦、真
 諦の稱。
 にたぬ 圖 二道。文藝の、武藝。
 にたぬ 圖 二刀流。「剣道の一流。大小の二刀を、兩
 手にて用ふる。寛永年中、宮本無三四の家出せるものといふ。
 神免二刀流。二酒も飲み、菓子も食ふこと。」
 にたぬ 圖 仁田貝。貝の名。いがひにたなじ。
 にたぬ 圖 一焚。食物を煮、又は焚くこと。飯を炊き、茶を
 煮ること。
 にたぬ 圖 煮出。煮出汁の器。
 にたぬ 圖 煮出汁。だしに味をつけたる汁。煎汁。
 にたぬ 圖 煮出。よく煮て、味をだす。
 にたぬ 圖 仁田山織。上野國仁田山より産する織
 物。にたなじ。

にたぬ 圖 似。牛角を、琥珀のやうに擬せせるもの。
 にたぬ 圖 荷垂。荷垂懸の器。
 にたぬ 圖 似柿。御所柿に似て、それよりも大きく、且
 つゝ風から柿。味美ならず。
 にたぬ 圖 貝の名。いがひにたなじ。
 にたぬ 圖 荷垂船。川に浮べて、荷物を運ぶ小舟。
 にたぬ 圖 日影。太陽のかけ。日影。
 にたぬ 圖 日曜。七曜の一。
 にたぬ 圖 日外。いつぞや。さきごろ。
 にたぬ 圖 日限。日数のかぎり。ひぎり。期日。
 にたぬ 圖 日前。いつぞや。かつて。
 にたぬ 圖 日日。ひび。日毎に。毎日。
 にたぬ 圖 日日紅。草の名。はげいさうにたなじ。
 にたぬ 圖 日暮。ゆふがた。ひぐれ。
 にたぬ 圖 日没。くれがた。
 にたぬ 圖 日夜。よるひる。晝夜。
 にたぬ 圖 二挺。芝居の語。役者が、化粧を終へて、衣裳
 を着けんとする前に、二階の上り口にて打つ拍子木。
 にたぬ 圖 二重。にちやにちやする。てわつく。
 にたぬ 圖 二重。物の粘りつくさまにたなじ。
 にたぬ 圖 二重。ふたへ。ふたかさね。
 にたぬ 圖 二重。寒氣を防ぐために、衣服の上
 に着るもの。主に、毛織物を以て作る。

にちよう 圖 日用。日日に用ふるもの。毎日の入用。
 にちよう 圖 日用品。毎日使ふ品物。
 にちよう 圖 日用文。てがみの文。書翰文。
 にちりん 圖 日輪。太陽。日。
 にちりん 圖 日輪草。草の名。ひまわりにたなじ。
 にちりん 圖 日蓮宗。佛教の一派。龜山天皇のこ
 ろ、日蓮の開きたるもの。法華宗。
 にちろう 圖 日録。にんぎ。日誌。
 にちおき 圖 日域。日本國の稱。
 につか 圖 日下。太陽の照す下。「合ひてあり。
 につか 圖 似付。俗に、につかはしい。似合はしい。似
 合はしい。
 につか 圖 日間。にちゆうにたなじ。
 につか 圖 日刊。新聞紙なみの如く、日日に刊行するこ
 と。(週刊月刊なみに對して)
 につか 圖 日記。日日に起る事の主要をしるし置くこと。
 また、それを記したるもの。日誌。日乗。
 につか 圖 日給。一日につき若干を定めたる給料。日給。
 につか 圖 日勤。日毎に役所なまへ出でて、職務を執るこ
 と。ひつぎ。
 につか 圖 似付。似合ふ。よくにる。よくあひかなふ。
 につか 圖 煮付。俗に、につける。にむにたなじ。
 につか 圖 荷造。貨物を、遠方へ送るために束ね包むこ
 と。装束。
 につか 圖 日課。日毎に課する仕事。日日の課程。

につか 圖 日光。日の光。太陽の光。
 につか 圖 日光攻。下野國日光地方の風俗。こ
 て、何にても、食ふことを望む人に、棒を以て通り、強ひて食は
 しむること。婚禮、新嘗、又は人人の寄り合ひて、酒食するこ
 に行ふ。
 につか 圖 日光唐辛。青紫蘇にて巻きた
 るたうがらし。日光地方より製出す。紫蘇唐辛。
 につか 圖 日光蘭。草の名。しゆるさうに同じ。
 につか 圖 日結兒。英語 Nickel。金屬元素の一。銀色
 につか 圖 日工。日やみ仕事。ひてま。
 につか 圖 日誌。にんぎにたなじ。
 につか 圖 日進。にんぎにたなじ。
 につか 圖 日參。神社、佛閣なまに、毎日参詣すること。
 につか 圖 日子。月日の日かや。
 につか 圖 日次。月日の日なみ。
 につか 圖 日進。日毎に進歩すること。
 につか 圖 日新。物事の、日毎にあらたまること。
 につか 圖 日者。天文を専門とする人。天文家。
 につか 圖 日章旗。漢字の四聲の一。
 につか 圖 日章旗。日の丸の旗。わが帝國の國旗。
 につか 圖 日射病。日光に曝されて起りたる病。

にんじり 日出。ひのくにわたる。
にんじり 日蝕。太陽と地球との間に、月の運行し來りて、太陽の光を遮り掩ふこと。日食。
にんじり 日蝕。ひかすにわたる。

にんじり 水鏡。疑の全くはるる。
にんじり 煮詰。俗に、にんじり。水鏡の盡くるまにんじり。
にんじり 似面。にんじりにわたる。

にんじり 旋毛。頭髪。旋毛の、二つ並べてあるもの。二つつむじ。
にんじり 擔棒。物を擔ふに用ゐる棒。
にんじり 擔桶。水を汲みて運ぶ大桶。になひ。

にんじり 二舞。見ぐるしき翁。
にんじり 二丸。一本丸の次の城。羅城。二徳川時代に、世子の稱。
にんじり 二宮。その國の一の宮に次ぐ社格の神社。

庭前

にはかぎりぬ庭分限。晝時の間に、高を致せること。
にはかぎりぬ庭踊。一俵かに趣向して演ずる、茶番狂言の如き、一種の踊。二東京吉原にて、年の八月の頃、若干日の間、毎夜、廊中を演じめる茶番狂言の如き演習。
にはかぎりぬ庭樹。庭前に植ゑたる樹木。
にはかぎりぬ庭草。庭前に生ずる草。
にはかぎりぬ庭膚。草の名。ははきぐさにななじ。
にはかぎりぬ庭鶴。鳥の名。せきれいにななじ。
にはかぎりぬ庭下駄。庭を歩むべきにはく木履。庭上に、庭の跡のつかぬやうに作りたるもの。
にはかぎりぬ庭子。農家にて、僕、婢が、夫婦になりて生みたる子の、引きつづきて、その家に仕ふるもの。家生奴。
にはかぎりぬ庭癪。下駄ならにつきたる土が自然に蓄りて、土間などの地面に生ずる凹凸。干埃。
にはかぎりぬ庭前。えんさき。庭除。
にはかぎりぬ庭櫻。一庭前に植ゑたる櫻。二木の名。櫻の一種。八重の白き花を開く。多葉那摩。
にはかぎりぬ庭鶴。鳥の名。せきれいにたなじ。
にはかぎりぬ庭立。庭にたつこと。
にはかぎりぬ庭瀝。雨水の、地上に溜りて流るるもの。庭をたを流るる根なし水。行波。
にはかぎりぬ庭帳。年貢の事をしるす帳面。
にはかぎりぬ庭作。庭の景色を作ること。また、それを業とする人。

庭後

にはかぎりぬ庭津鳥。鳥の名。にはかぎりぬ庭石。土庭前の、後縁の右側に立てたる石。
にはかぎりぬ庭接骨木。木の名。山野に自生す。葉は、對生にして、鋸齒あり、十一月頃、小白花、傘の如くちがらがり開き、形、小豆の如き、赤き實を結ぶ。幹葉ともに、臭氣強し。造木。
にはかぎりぬ庭鶏。鳥の名。人家に畜ふ。牡は、赤き冠を有し、時を告げて鳴く。牝は、冠なくして、體の小さき牡より小し。くだけ。
にはかぎりぬ庭煮端。茶の入れ立て。ではな。
にはかぎりぬ庭者。庭の掃除をする人。
にはかぎりぬ庭騎。馬場にて、馬を騎り馴らすこと。「禮」。
にはかぎりぬ庭禮。客人を、亭主が、庭まで送り出づ。
にはかぎりぬ庭訓。家庭のしつけ。
にはかぎりぬ庭掃。庭を掃除すること。また、その人。
にはかぎりぬ庭火。庭にて焚く篝火。庭燵。
にはかぎりぬ庭藤。木の名。いはちにななじ。
にはかぎりぬ庭見草。植物。珠の異名。
にはかぎりぬ庭圓鈍。にび色になる。喪服を着る。におむ。源氏にはめる御衣。
にはかぎりぬ庭二牛。物事の何れも定まらぬこと。
にはかぎりぬ庭一番鳥。一番りの次に鳴く鶴。また、そのなく時刻、即ち午前四時ごろ。
にはかぎりぬ庭狭。庭も狭きまでに。

にはかぎりぬ庭柳。草の名。葉は、はつき草に似て、葉に節あり。夏、夏の如き花をひらく。いはやなき。庭。
にはかぎりぬ庭龍膽。草の名。りんたうにななじ。
にはかぎりぬ庭新。新らしき、あらたなる、初めてなるの意を示すに用ゆる。「にひ美」。
にはかぎりぬ庭新糸。今年さらたる糸。
にはかぎりぬ庭鈍色。飛服に用ゆる、濃紫の色。
にはかぎりぬ庭新草。今年たひたる草。
にはかぎりぬ庭新桑。新しきまゆ。
にはかぎりぬ庭新衣。あらたしく仕立てたる衣服。
にはかぎりぬ庭新防人。あらたに入りかはりて来るさきもの。
にはかぎりぬ庭新里。まだすみなれぬ里。
にはかぎりぬ庭新。あたらしにたなじ。
にはかぎりぬ庭新稲。今年できたる稲。
にはかぎりぬ庭新搾。新しく醸したる酒。
にはかぎりぬ庭新島守。新に島守となる人。
にはかぎりぬ庭煮浸。小魚の全身を焼き、味淋、醤油、砂糖などにて煮て、汁に浸したるもの。
にはかぎりぬ庭新手枕。にひまくらにななじ。
にはかぎりぬ庭新玉章。新にたくり來たる手紙。
にはかぎりぬ庭新管。にひなめにたなじ。
にはかぎりぬ庭新管祭。新稲を、神社に奉らせ給ひ、

また天皇陛下も開しめす大念。毎年、十一月廿三日に行はせ
にはかぎりぬ庭新葉。わかにはたなじ。
にはかぎりぬ庭新肌。にひまくらにななじ。
にはかぎりぬ庭新墾。新に開墾したる田地。新田。
にはかぎりぬ庭新道。新に開きたる道。
にはかぎりぬ庭新蘭。草の名。ねあやみにたなじ。
にはかぎりぬ庭新枕。男女の、始めて同衾するもの。
にはかぎりぬ庭新参。いままゐり。しんざん。
にはかぎりぬ庭新結。始めて結ぶこと。
にはかぎりぬ庭新紫。新しく、紫色に染めたるもの。
にはかぎりぬ庭新室。新築の家。新室。
にはかぎりぬ庭新室祝。新室開きのいはひ。
にはかぎりぬ庭新裏。新しき裏。
にはかぎりぬ庭新物。新しき物。
にはかぎりぬ庭新。新しき物。
にはかぎりぬ庭二百十日。立春より、二百十日にあたる日。
にはかぎりぬ庭二百二十日。立春より、二百廿日
にはかぎりぬ庭新米。その年に出来たる米。にひしね。
にはかぎりぬ庭新綿。古、七月十六日、内裏へ貢獻したる綿。
にはかぎりぬ庭鈍色。にびいろにななじ。
にはかぎりぬ庭入營。にふたいにたなじ。
にはかぎりぬ庭入校。始めて、學校に入ること。
にはかぎりぬ庭入學。初めて、學校に入ること。
にはかぎりぬ庭入學。初めて、學校に入ること。

にふかん

にふかん 入眼。一人物など、かきを一、最後に、眼を照らすこと。二事業の成就せること。
にふかん 入金。金銭を拂ひ込むこと。入金。
にふかん 入銀。一にふきんにたなじ。徳川時代の語。二番詰向が、新紙発行の際、仲間示して、注文をさるること。
にふかん 二分金。貨幣の名。徳川時代の長方形の金貨。今の五十銭にあたる。
にふかん 入花。俳諧などの、點を頼む添削料。いれはな。
にふかん 入會。會に加入すること。會員になること。
にふかん 入棺。死人を、棺に納むること。
にふかん 入貢。外國より入朝して、貢物を奉ること。
にふかん 入國。諸侯の始めて己が領國に入ること。
にふかん 入魂。親しきこと。
にふかん 入獄。ひきやに入ること。
にふかん 入札。一いれふだ。投票。二入札拂の署。
にふかん 入札拂。物を賣り拂ふに、數人に入札せさせて、高札を入れたる人に賣り渡すこと。
にふかん 鈍。俗に、にふい。鋭くなし。なまりてあり。
にふかん 入室。一官方、又は攝政の公達の、門跡となりて、入院せらるること。二學術などの奥邊を極めたること。
にふかん 入津。船の港につくこと。
にふかん 入神。技術などの、靈妙の境に入ること。
にふかん 入社。社に加入すること。
にふかん 入城。城に入ること。

にふちやせん

にふちやせん 入手。物の、わが手に入ること。着手。
にふちやせん 入塾。塾に入ること。
にふちやせん 入籍。新に、その町村の戸籍に入ること。
にふちやせん 入撰。えらまるること。
にふちやせん 入船。港に入る船。着船。
にふちやせん 荷札。荷主の名、又は、その届先きなを記して、荷物につけたる木札。
にふちやせん 入隊。初めて、軍隊に入りて、軍人となること。
にふちやせん 入湯。湯に入ること。浴すること。入浴。
にふちやせん 入道。一佛道に入ること。二三位以上の人の、剃髪して、佛道に歸依するもの。三位以下は、新發意といふ。三僧の形をなせる妖怪。四剃髪せる人。づくにふ。
にふちやせん 入道親王。親王となりて後、佛門に入りたる親王。
にふちやせん 入道杖。師堂に入らんとする時、つく一時のつる。
にふちやせん 入道蟲。虫の名。一にしちりにたなじ。二あまのじやにたなじ。
にふちやせん 入場。その場所に入りこむこと。
にふちやせん 入場券。にふちやうきんにたなじ。入場を許すための收むる錢。
にふちやせん 入場切符。入場を許す證據のきつぷ。入場券。
にふちやせん 入場券。にふちやうきんにたなじ。入場を許すための收むる錢。

のねにな せつつらた せせしき こけくきか ねえういあ

にふちやせん 入津。船の、港に入る。にふした。入港。
にふちやせん 入朝。外國の使臣などの、初めて参内すること。來朝。
にふちやせん 入内。一皇后、中宮などの、はじめて、内裏にいらせ給ふこと。二外位の人の、内位なること。
にふちやせん 入内雀。鳥の名。雀の一種。形、甚だ小さし。腹は白く、胸は、脚は灰色、また頭、背は、雌は黄灰色にして、雄は赤し。
にふちやせん 入船。荷物を運送する船。貨船。
にふちやせん 入梅。梅雨の節に入ること。つゆ。
にふちやせん 入費。いりめ。かかり。費用。
にふちやせん 入府。一郡に入る。二諸侯が、己れの城に赴任すること。
にふちやせん 入部。諸侯の、初めて、その領地に赴任すること。入國。入府。就封。
にふちやせん 入夫。寡婦の家に入りて、養子なる人。いりむこ。
にふちやせん 入峰。佛教の語。山伏の、高山に登ること。みねいり。
にふちやせん 入府税。郡府に入り来る貨物に課する税。
にふちやせん 入佛。初めて、佛像を、寺に安置すること。
にふちやせん 入佛供養。佛像を、寺に安置するたため、供養をせむこと。
にふちやせん 入佛式。佛像を、寺に安置する時に行ふ儀式。書道の要領、じゆはく。「儀式」。

にふち

にふちやせん 入没。死ぬること。
にふちやせん 入滅。にほむにたなじ。佛の死ぬること。入寂。
にふちやせん 入門。弟子となること。てしり。入學。
にふちやせん 入門金。入門のとき、師に贈呈する金圓。東條。
にふちやせん 入用。一いりよう。所用。二いりめ。入費。
にふちやせん 入浴。湯に入る。ゆあみ。
にふちやせん 入來。いりくること。きたること。
にふちやせん 入牢。じゆらうにたなじ。
にふちやせん 入話。にふちやうきんにたなじ。前書きのなし。
にふちやせん 入院。治療を受けんが爲に、病院に入る。りもの。みやげ。菴蓋。
にふちやせん 入新。一神、又は朝廷へ奉る魚鱈の稱。二たくりもの。みやげ。菴蓋。
にふちやせん 入魚。魚の名。長さ五六寸ばかり。形、あまだひに似て長し。全身、白く黄はみ、うろこ細やかなり。
にふちやせん 入魚鱈。魚の鱈にて製したる膠。普通膠より、粘着力、更に強し。にふちやは。魚膠。
にふちやせん 入費符。にふちを捕ふるためのかぎ。
にふちやせん 入費。費を奉る。

にふち

をふむわ ろれるり。よゆや もめんむみま ほへふひは

にんじん
にんじん参座。德川氏の頃、藥用の人参を取り扱ひたること。木の名。葉は、人蔘に似たり。枝は、初め、力注射にして、後、圓くなり、折れは、中に方心あり。夏、穂状の花を開く。いねは、
にんじん人情。人の心より發するおもひなり。なまけ。いつくしみ。
にんじん刃傷。刀劍にて、人に傷ぐること。刃物三昧。
にんじん人情本。男女の痴情を、小説に作りたる本。
にんじん仁壽。壽命ながきこと。仁壽。「る本。壽命ながきこと。」
にんじん忍受。忍びこらへて受くること。
にんじん忍術。しのびの術。
にんじん人数。「ひさかた。人頭。二多くの人。多勢。」
にんじん胎。みもちになる。懷孕す。
にんじん人数立。古、御神樂なごの行幸の時、殿上人、しそくを持ち、主殿寮の官人、二人、たちあかしを持ちて、供奉せしこと。
にんせん入選。ひさかた。適任者によること。
にんせん入足。物を運送する事なきに應はれて膝ぐ人かゝる。入夫。
にんせん他。勝手にせざること。憑て置くこと。放。
にんせん人。ひさかた。辛桐。「任。」
にんせん忍耐。たへしのぶこと。こらへ。辛桐。

にんじん
にんじん妊帯。いはたわびにたなじ。
にんじん人體。俗に、にんたいらしい。人がらし。人品いやしからずあり。
にんじん人道。佛教の語。人間に生れて、苦みを免れぬ世に、即ち現世。人間界。
にんじん任地。任命せられて、職務を行ふべき地。
にんじん認知。みこむること。見さたむること。
にんじん人長。神樂の舞人の長。
にんじん人定。人の寝静まりたる時。
にんじん人中。鼻の下に、上唇の間の凹みたる處。はなみぞ。
にんじん人中白。尿の滓を、藥用とするときの名。
にんじん人中黄。大便の溜り水を乾したるものを、藥用とするときの名。
にんじん人體。ひさかた。人品。
にんじん認定。認め定むること。
にんじん人頭。ひさかた。にんず。
にんじん忍冬。草の名。山野に盛生す。夏の初め、香氣ある、花を開く。葉は、橢圓形にして、對生し、藥用なる。金銀花。
にんじん忍冬酒。忍冬を和したる藥酒。
にんじん人頭税。人數割に課する税。
にんじん忍辱。「佛教の語。しのびこらふこと。かんにん。二草の名。根は、百合に似、臭氣強し。葉は、水仙に似て細く、花は、葱に似たり。大ひる。蒜。」
にんじん荷持。荷物を持ち行く人。擔夫。
にんじん荷物。にたなじ。
にんじん回似不似。全く似ず。
にんじん煮物。食物を煮ること、また煮たる食物。
にんじん荷役。船の荷物のあげおろしをする役目。
にんじん荷厄介。厄介なること。じやまもの。
にんじん若道。佛教の語。木かま。男色。鶏姦。
にんじん織弱。男にありながら、柔弱にて、色めかしく見ゆ。
にんじん煮奴。豆腐を、立方形に切り、醤油、味噌などで煮たるもの。
にんじん煮。俗に、にんず。「煮る物の、全體に、熱がしみこむる。二水湯になる。湯がわく。」
にんじん如意。佛教の語。
にんじん如意珠。圓なる珠の名。まじし。六臂ありて、各、如意珠を持てる。觀世音の像。
にんじん如意輪。じよりにたなじ。

のねにな てつちた せすしき こけきか ねえついあ

にんじん
にんじん忍辱。忍辱の異名。
にんじん人馬。人、馬。兵卒。軍馬。じんば。
にんじん人非人。「非濟の悪人。ひこでなし。二たなじにたなじ。
にんじん人夫。「公使を割りあてられたる民。ゆひ。えだち。後夫。二にんそくにたなじ。
にんじん妊婦。懷孕したる婦人。みもちをんな。
にんじん人別。「一人毎に新にすること。一人一人にものすこと。二せきにたなじ。三じんごんにたなじ。
にんじん人別帳。こせきばにたなじ。
にんじん人偏。漢字の使、仙、仁、仇等の字の左傍にあるイの字の稱。
にんじん任命。官に任すること。拜命。
にんじん任免。任官。免職。
にんじん人面瘡。膝頭に生ずる、腫物。隔れ腫れて、人の頭の如き状をなす。
にんじん人面獸心。殘忍刻薄の心の人。
にんじん任用。官に任じて用ゐること。人を採用すること。やへんくするいひ。
にんじん人皇。草の名。はくもんじゆうにたなじ。
にんじん人皇。神代に區別して、神武天皇以後、御代代の天皇を申す。
にんじん仁王會。古、朝家御祈のために、三月、七月の二度、大極殿、崇徳殿、清涼殿等にて、仁王護國寺般若經を講せしめられし公事。

にんじん
にんじん如意輪。じよりにたなじ。
にんじん如意輪。じよりにたなじ。



をるわ られるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

にやうわん 女官。一宮仕へする女の總稱。によくわん。官女。二特に、刀目の下にたつ女房。
 にやうわん 女御。中宮に次ぎて、御殿に侍する女官。
 にやうわん 女御代。女御なきごき、そのかはりとして召さるる女。
 にやうわん 女御屋。女御のましますところならん。御
 内侍司に屬して、掃除、點油等の雜事を司る女官。
 にやうわん 女房。一宮仕へする女。二貴族の家の侍女。三つま。妻。
 にやうわん 女房詞。禁裡の女房、また御殿女中の御代頭より、下品なる物をも、供物になしたる隠語より始まりといふ。女中詞。
 にやうわん 女房。一つま。妻。二下婢をいふ。加賀國の方言。三すて女をいふ。周防國の方言。
 にやうわん 女院。國母の、佛門に入り給ひて、何某門院の號を贈らされ給ひたるもの。
 にやうわん 女技。女のわざ。女のしごき。
 にやうわん 女藏人。地下の人の女なきの、宮仕して、任するもの。宮中の雜事を司る。
 にやうわん 女官。宮仕へする女。
 にやうわん 女系。女子の血統。
 にやうわん 女相。によたいにたなじ。「女人。
 にやうわん 女子。「をんなのこと。むすめ。二をんな。婦人。」

にやうわん 女兒。をんなのこと。むすめ。
 にやうわん 女性。女に生れたる人。をんな。女流。
 にやうわん 女媧。にようじゆにたなじ。
 にやうわん 女叙位。女官の、位階に叙せらるること。隔年に行はれたり。
 にやうわん 如是。佛教の語。かくのこごとく。
 にやうわん 女婿。娘の夫。むこ。
 にやうわん 女僧。あま。比丘尼。
 にやうわん 女體。體質の女子なること。女のからだ。
 にやうわん 女檀越。佛教の語。女の施主。
 にやうわん 如龜。下より、上に向ひて、高くぬき出づる様にいふ。
 にやうわん 女帝。皇女の、天皇となり給へるもの。女性
 にやうわん 如泥人。不規則なる人。しまりなき人。だらしなき人。
 にやうわん 女東宮。皇女の、春宮に立たせ給へるもの。
 にやうわん 女別當。齋宮に奉仕する女。
 にやうわん 如法。一佛教の語。かたのこごとく。二轉じて、もごより、いふまでもなく。
 にやうわん 如法暗夜。眞の暗夜。まぐくらやみ。
 にやうわん 女犯。佛教の語。僧の、邪淫戒を破ること。
 にやうわん 如來。ほこけの尊稱。

により 似寄。よく似ること。近似。
 により 女王。一女の王。二天子の孫女より、ま孫女に至るまでの稱。

にやうわん 女院。にようわんにたなじ。
 にやうわん 女院。草の名。臭氣あり。葉も根も水佃に似て、それより細小なり。花は白し。山に生ずるを、山にら、水中に生ずるを、水にらといふ。
 にやうわん 女類。雌につけたる蔬菜。①
 にやうわん 女燂。またひて、かたくす。
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。②
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。③
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。④
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑤

にやうわん 女院。にようわんにたなじ。
 にやうわん 女院。草の名。臭氣あり。葉も根も水佃に似て、それより細小なり。花は白し。山に生ずるを、山にら、水中に生ずるを、水にらといふ。
 にやうわん 女類。雌につけたる蔬菜。①
 にやうわん 女燂。またひて、かたくす。
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。②
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。③
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。④
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑤
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑥
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑦
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑧
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑨
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑩
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑪
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑫
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑬
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑭
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑮
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑯
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑰
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑱
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑲
 にやうわん 女敵。にらむにたなじ。⑳

にやうわん 女兒。をんなのこと。むすめ。
 にやうわん 女性。女に生れたる人。をんな。女流。
 にやうわん 女媧。にようじゆにたなじ。
 にやうわん 女叙位。女官の、位階に叙せらるること。隔年に行はれたり。
 にやうわん 如是。佛教の語。かくのこごとく。
 にやうわん 女婿。娘の夫。むこ。
 にやうわん 女僧。あま。比丘尼。
 にやうわん 女體。體質の女子なること。女のからだ。
 にやうわん 女檀越。佛教の語。女の施主。
 にやうわん 如龜。下より、上に向ひて、高くぬき出づる様にいふ。
 にやうわん 女帝。皇女の、天皇となり給へるもの。女性
 にやうわん 如泥人。不規則なる人。しまりなき人。だらしなき人。
 にやうわん 女東宮。皇女の、春宮に立たせ給へるもの。
 にやうわん 女別當。齋宮に奉仕する女。
 にやうわん 如法。一佛教の語。かたのこごとく。二轉じて、もごより、いふまでもなく。
 にやうわん 如法暗夜。眞の暗夜。まぐくらやみ。
 にやうわん 女犯。佛教の語。僧の、邪淫戒を破ること。
 にやうわん 如來。ほこけの尊稱。

ぬすびと 盗人。ぬすびとの器。①
 ぬすびと 盗食。鷹狩のとき、鷹が捕へたる鳥を、
 鷹人の許に持ち来らずして、直に食ふ。② 「賊。偷見。
 ぬすびと 盗人猫。獸の名。のらねこにたなじ。
 ぬすびと 盗天麻。草の名。春の初め、苗生じて、
 二三尺の直き一莖抽き出づ。その状、やがらに似たり。初夏、
 その末に、穂出でて、花開く。その根は、薬用なる。かみの
 やがら。③
 ぬすびと 盗人萩。草の名。原野に自主す。秋、莢
 をむす。その實、人衣に附着し易し。葉山豆。
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。④
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑤
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑥
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑦
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑧
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑨
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑩
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑪
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑫
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑬
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑭
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑮
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑯
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑰
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑱
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑲
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑳

ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉑
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉒
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉓
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉔
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉕
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉖
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉗
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉘
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉙
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉚
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉛
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉜
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉝
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉞
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉟
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊱
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊲
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊳
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊴
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊵
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊶
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊷
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊸
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊹
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊺
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊻
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊼
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊽
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊾
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊿

ぬすびと 盗。ぬすびとの器。①
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。②
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。③
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。④
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑤
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑥
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑦
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑧
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑨
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑩
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑪
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑫
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑬
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑭
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑮
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑯
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑰
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑱
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑲
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。⑳

ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉑
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉒
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉓
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉔
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉕
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉖
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉗
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉘
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉙
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉚
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉛
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉜
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉝
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉞
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㉟
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊱
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊲
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊳
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊴
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊵
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊶
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊷
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊸
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊹
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊺
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊻
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊼
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊽
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊾
 ぬすびと 盗。ぬすびとの器。㊿

ぬれらる ぬ濡色。水にぬれひたりたる色。
ぬれえん ぬ濡椽。雨戸の外に造れる椽がは。雨に濡るるに任せたくもの。
ぬれがみ ぬ濡髪。洗ひなごして、未だ水の乾かぬ髪の手。
ぬれがみ ぬ濡紙。水にぬれたる紙。
ぬれがみ ぬ濡衣。一水にぬれたるきもの。二あらぬ事を、誠らしく、障に立てらるる。無量のうき名。
ぬれがみ ぬ濡事。男女の色めきたる。三。演劇の脚本なご。四。
ぬれがみ ぬ濡事師。ぬれごをする役にてたつ能ぬれごも ぬ濡衣。ぬれごににたなじ。
ぬれがみ ぬ濡蕙。植物。菊の異名。五。
ぬれがみ ぬ濡柴。ぬれたる柴。
ぬれがみ ぬ濡潮垂。うぶぬれなる。なる。六。
ぬれがみ ぬ濡手。ぬれたる手。
ぬれがみ ぬ濡手栗。骨を折らすして、利益を得。働かすして、利得にありつく。七。
ぬれがみ ぬ濡透。水、しみて、ほのぼの、ひよぬれぬれにしき ぬ濡綿。ぬれたるにしき。
ぬれがみ ぬ濡鼠。人の、急雨なごに遇ひて、全身、ひよぬれになりたる様に譬へていふ。八。
ぬれがみ ぬ濡道。色ごの道。色道。

ぬれらる ぬ濡。ぬれたるやうに見ゆ。
ぬれがみ ぬ濡書。いろよみにたなじ。
ぬれがみ ぬ濡佛。家屋を掃へざる處に掃をたく佛像。ぬれがみ ぬ濡身。濡れたるからだ。
ぬ 五十音圖中、奈行第四の音。舌音の一。舌端を上唇にあて、下唇を、な、よりもやや狭く開きて、氣息を放ちて發す。
ぬ根。一植物の莖、幹の下、地中に埋れて、養分を吸ひこり、且つ、その植物の位置を安全ならしむる部分。二もご。根元。三植物の内部の固まりたるもの。
ぬ峯。みねにたなじ。
ぬ音。たご。こる。ひびき。
ぬ泣。泣くこと。四。
ぬ直。ぬたん。あたひ。價値。
ぬ子。十二支の一。えごを見よ。二今の午後十二時、午前の一時ごろ。三方角の名。北の方。四獸の名。ぬすみのぬ姉。あむにたなじ。五。
ぬ寢。いなること。ぬむ。六。
ぬ親しみの意をあらはす聲。
ぬ根上。根、高土の上に現はれ出たる植物。ぬ根がかり松。
ぬ寢厭。俗に、ぬあきる。眠りにあぐむ。ぬきたびる。

ぬあひ ぬ直上。價を増すこと。ぬまし。購買。
ぬあひ ぬ蘭茹。草の名。葉は、神に似て大きく赤、根茎の小さき花を開く。實は、豆の如くにして、莖に、白き汁をたくはふ。七ひまぐさ。
ぬあひ ぬ寢汗。塵垢中に、たのづこ發する汗。寢汗。
ぬあひ ぬ音合。地震する時、雄子の、それに應じて鳴くこと。
ぬあひ ぬ根合。青蒲の根の上に、和歌を書き、根の長短を合せて、勝敗を決する古の遊戯。
ぬあひ ぬ根首蒲。表白く、裏紅なる、かさねの色目。また表は、紅梅なりとも云ふ。
ぬあひ ぬ一呼はれたるにこたふる聲。はい。九州の方言。二他人に、同意を求むるごきに發する聲。三。
ぬあひ ぬ佞奸。心は邪なること。四。
ぬあひ ぬ寢息。寝たる間の呼吸。味。五。
ぬあひ ぬ寧馨兒。すぐれたる見世。六。
ぬあひ ぬ寧歲。平和無事の年。七。
ぬあひ ぬ姉様。一あねう。あねぎみ。二二年頃の女子、又は茶屋女の稱。三三藝妓同士にて、その先輩を呼ぶ稱。四。
ぬあひ ぬ姉様株。藝者仲間の年長者の稱。五。
ぬあひ ぬ姉様冠。婦人が、額の上に、兩角をつくる様に、手拭をかぶること。六。
ぬあひ ぬ寧日。平安無事の日。七。
ぬあひ ぬ佞臣。ぬぎけたるけら。邪なる家来。

ぬい ぬ佞人。ぬぎけひご。佞者。
ぬい ぬ佞者。ぬいじんにたなじ。
ぬい ぬ佞。長上に媚ひつらよ。ぬあね。
ぬい ぬ寧靜。しづかなること。安寧。靜謐。
ぬい ぬ佞媚。こひ路ふこと。たまんか。
ぬい ぬ根芽。もやしたる芋の莖。
ぬい ぬ根入。根の、地に入りたる深さ。
ぬい ぬ寢入端。寝入りたる初め。ぬはな。
ぬい ぬ寢入。一靜かによくいぬ。ぬこご。二寢まが鏡する。三すたる。不活潑になる。
ぬい ぬ音色。音のやうす。こわね。ぬぎし。
ぬい ぬ尿酸。あんもにあにたなじ。
ぬい ぬ寧念。ぬんすにたなじ。四。
ぬい ぬ饒舌。しやごご。多言。
ぬい ぬ尿道。小便の通ふ管。
ぬい ぬ直打。一ねぶみ。評價。估値。二ぬたん。ぬ。價值。三たご。ひんかく。價格。
ぬい ぬ饒鉢。佛家の樂器。銅にてつくられたる皿の如きものを二枚うち合せて、音を發せしむ。
ぬい ぬ粘付。ぬはりつく。五。

